

資料 5－1－①－1

別表第 1

一般科目教育課程

平成21年度以降入学者

授 業 科 目		単 位 数	学 年 別 配 当					備 考
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	国語 I	2	2					
	国語 II	2	2					
	国語 III	2		2				
	国語 IV	2			2			
	現代政治社会	2	2			2		
	代治類	1		1				
	社会史	2		2				
	経済史	2			2			
	技術者倫理	1			1			
	基礎数学 I	4	4					
必修科目	基礎数学 II	2	2					
	基礎数学 III	2		2				
	基礎数学 IV	4		4				
	基礎数学 V	3			3			
	基礎数学 VI	2			2			
	化学 I	3	3					
	化学 II	2[0]		2[0]				
	生物 I	0[2]		0[2]				
	生物 II	3			1			
	物理 I	1						
必修科目	教養ゼミナール	1			1			
	保健体育 I	2	2					
	保健体育 II	2		2				
	保健体育 III	2			2			
	保健体育 IV	1				1		
	保健体育 V	1					1	
	芸術 I	1	1					
	芸術 II	1		1				
	英語 I	4	4					
	英語 II	4		4				
必修科目	英語 III	2			2			
	英語 IV	2				2		
	英語 V	2					2	
	英語 VI	2	2					
	英語 VII	1			1			
	英語 VIII	1						
	英語 IX	2				2		
	英語 X	2						
	英語 XI	1						
	英語 XII	2						
必修科目	修得(開設)単位小計	78	24	25	18	7	4	
	生活文化	1	1					
	社会文化	1[0]				1[0]		
	学級単位小計	1				1		
	技術文化	1						
	英語	1						
	開設単位小計	5[4]	1			3[2]	1	
	修得単位小計	2以上			2以上			
	開設単位合計	83[82]	24	25	18	7	4	必修科目
			1			3[2]	1	選択科目
必修科目	修得単位合計	80以上	24	25	18	7	4	必修科目
								選択科目
					2以上			選択科目
	特別活動							[] は物質工学科
	単位時間							
	1 年		30	30	30			
	2 年							
	3 年							
	4 年							
	5 年							
特別活動	特別活動	90	30	30	30			

資料 5 - 1 - ① - 2

機械工学科教育課程

平成21年度以降入学者

授 業 科 目		単 位 数	学 年 別 配 当					備 考	
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年		
必 修 課 程	履 修 単 位	応用物理学Ⅰ	2			2			
		基礎材料力学Ⅰ	1			1			
		基礎材料力学Ⅱ	1			1			
		基礎機械製作法Ⅰ	2	2		2			
		基礎機械製作法Ⅱ	1						
		基礎機械設計Ⅰ	1			1			
		基礎機械設計Ⅱ	2						
		基礎機械製作実習Ⅰ	2						
		基礎機械製作実習Ⅱ	2						
		基礎機械製作実習Ⅲ	2						
	学 科 修 得 単 位	コンピュータ制御工学Ⅰ	2						
		コンピュータ制御工学Ⅱ	1						
		電気電子工学Ⅰ	1		1				
		電気電子工学Ⅱ	1						
		情報処理Ⅰ	2	2					
		情報処理Ⅱ	1						
		情報処理Ⅲ	1						
		情報処理Ⅳ	2						
		情報処理Ⅴ	2						
		情報処理Ⅵ	1						
選 択 課 程	材料工学Ⅰ	2				2			
	材料工学Ⅱ	2				2			
	材料工学Ⅲ	2				2			
	材料工学Ⅳ	2							
	材料工学Ⅴ	2							
	材料工学Ⅵ	2							
	材料工学Ⅶ	2							
	材料工学Ⅷ	2							
	材料工学Ⅸ	1							
	材料工学Ⅹ	1							
専 門 科 目	環境工学Ⅰ	1							
	環境工学Ⅱ	1							
	環境工学Ⅲ	2							
	環境工学Ⅳ	1							
	環境工学Ⅴ	1							
	環境工学Ⅵ	1							
	環境工学Ⅶ	1							
	環境工学Ⅷ	1							
	環境工学Ⅸ	1							
	環境工学Ⅹ	1							
専 門 科 目	環境工学Ⅺ	1							
	環境工学Ⅻ	1							
	環境工学Ⅼ	1							
	環境工学Ⅽ	1							
	環境工学Ⅾ	1							
	環境工学Ⅿ	1							
	環境工学ⅰ	1							
	環境工学ⅱ	1							
	環境工学ⅲ	1							
	環境工学ⅴ	1							
専 門 科 目	環境工学ⅵ	1							
	環境工学ⅶ	1							
	環境工学ⅷ	1							
	環境工学ⅸ	1							
	環境工学ⅹ	1							
	環境工学ⅺ	1							
	環境工学ⅻ	1							
	環境工学ⅼ	1							
	環境工学ⅽ	1							
	環境工学ⅾ	1							
専 門 科 目	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
専 門 科 目	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
専 門 科 目	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
専 門 科 目	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
専 門 科 目	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
専 門 科 目	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
専 門 科 目	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
専 門 科 目	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
専 門 科 目	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
専 門 科 目	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
専 門 科 目	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
専 門 科 目	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
専 門 科 目	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
専 門 科 目	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
専 門 科 目	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
専 門 科 目	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
専 門 科 目	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
専 門 科 目	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
専 門 科 目	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
専 門 科 目	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
専 門 科 目	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
専 門 科 目	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1							
	環境工学ⅿ	1		</					

資料 5 - 1 - ① - 3

電気情報工学科教育課程

平成21年度以降入学者

授 業 科 目		単 位 数	学 年 別 配 当					備 考
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必 修 単 位	電 気 計 測	1		1				
	応 用 物 理 I	2			2			
	基 礎 電 気 磁 気 学	2			2			
	電 子 デ バ イ ス 工 学	2			2			
	電 気 回 路 I	2		2				
	電 気 回 路 II	2			2			
	電 気 回 路 製 作	2	2					
	も の づ く り 工 作 実 習	2	2					
	基 礎 工 学 実 験	3		3				
	電 気 情 報 基 礎 実 験	3			3			
	情 報 処 理 回 路	2	2					
	情 報 処 理 回 路	1		1				
	情 報 処 理 応 用	2		2				
	卒 業 研 究	9					9	
	電 気 基 礎	2	2					
	電 気 機 器 学	2			2			
	電 気 機 械 変 換 工 学	2				2		
	コ ン ピ ュ ー タ 基 礎	2			2			
	コ ン ピ ュ ー タ シ ミ ュ レ ー シ ョ ン	2				2		
科 学 修 単 位	回 路 網 理 論	2				2		
	電 気 規 法	2					2	
	基 礎 制 御 工 学	2				2		
	制 御 シ ス テ ム 工 学	2					2	
	電 子 回 路	2				2		
	I C 応 用 回 路	2					2	
	工 業 英 語	2					2	
	応 用 解 析 I	2				2		
	応 用 解 析 II	2				2		
	応 用 物 理 II	2				2		
	電 気 磁 気 学	2				2		
	ソ フ ト ウ ェ ア 工 学	2				2		
	半 導 体 工 学	2				2		
	物 性 工 学	2					2	
	電 波 工 学	2					2	
選 修 単 位	電 気 情 報 工 学 実 験 I	2				2		
	電 気 情 報 工 学 実 験 II	2					2	
	修 得 (開 設) 単 位 小 計	81	8	9	15	24	25	
	I C 応 用 回 路 演 習	2					2	
	ソ フ ト ウ ェ ア 工 学 演 習	2				2		
	環 境 工 学	1					1	
	校 外 実 習 A	1				1		
	校 外 実 習 B	2				2		
	セ ン サ ー 工 学	2					2	
	電 力 工 学	2				2		
科 目	開 設 単 位 小 計	13				7	6	
	修 得 単 位 小 計	6以上				6以上		
	専 門 科 目 開 設 単 位 合 計	94	8	9	15	31	31	
	専 門 科 目 修 得 単 位 合 計	87以上	8	9	15	24 6以上	25	必修科目 選択科目
	一 般 科 目 修 得 単 位 合 計	80以上	24	25	18 2以上	7	4	必修科目 選択科目
修 得 単 位 合 計		167以上	32 8以上	34	33 8以上	31	29	必修科目 選択科目

(出典 平成25年度学生便覧 P. 94)

資料 5 - 1 - ① - 4

物質工学科教育課程

平成21年度以降入学者

授 業 科 目		単 位 数	学 年 別 配 当					備 考
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必 修 単 位	履 修 課 程	情報工學基礎	2	2				
	物質工學基礎	2	2					
	化学のつくり	2	2					
	分析機械	2		2				
	応用機械	3		2	1			
	基礎物理	2			2			
	基礎化学	2			2			
	基礎生物	2			2			
	基礎化学工学	1			1			
	基礎化学工学	1			1			
	電子計測	1				1		
	材料工学	1				1		
	英語実習	1					1	
	化学実習	2		2				
	機械工学実習	2		2				
	基礎工学研究	2			2			
	卒業研究	9				2		
	化学工学	2				2		
	応用機械	2				2		
	無反応応用機械	2					2	
科 学 修 単 位	化学工学	2				2		
	応用機械	2				2		
	無反応応用機械	2					2	
	無反応応用機械	2					2	
	無反応応用機械	2					2	
	無反応応用機械	2				2		
	無反応応用機械	2				2		
	無反応応用機械	2				2		
	無反応応用機械	2				2		
	無反応応用機械	2				2		
	無反応応用機械	2				2		
	無反応応用機械	2				2		
	無反応応用機械	2				2		
	無反応応用機械	2				2		
	無反応応用機械	2				2		
	無反応応用機械	2				2		
	無反応応用機械	2				2		
	無反応応用機械	2				2		
	無反応応用機械	2				2		
	無反応応用機械	2				2		
修得(開設)単位小計		77	8	8	15	25	21	
コ ー ス 単 位	必修	量子化学	2				2	
	必修	固体化学	1			1		
	必修	高分子材料工学	1			1		
	必修	修得(開設)単位小計	6			2		
	必修	遺伝子工学	2				2	
	必修	生物化学工学	2			2		
	必修	タンパク質工学	2				2	
	必修	修得(開設)単位小計	6			2		
	必修	メカトロニクス	1				1	
	必修	品質管理工学	1				1	
ス ー ス 単 位	必修	環境実習	1				1	
	必修	校外実習	1				1	
	必修	応用解析工学	1				1	
	必修	応用解析工学	1				1	
	必修	応用解析工学	1				1	
	必修	開設単位小計	10			4		
	必修	修得単位小計	4以上			4以上		
	必修	専門科目開設単位合計	93	8	8	15	31	31
	必修	専門科目修得単位合計	87以上	8	8	15	27	25
	必修	一般科目修得単位合計	80以上	24	25	18	7	4
修 得 単 位 合 計		167以上	32	33	33	34	29	

(出典 平成 25 年度学生便覧 P. 95)

資料 5 - 1 - ① - 5

環境都市工学科教育課程

平成21年度以降入学者

授 業 科 目		単 位 数	学 年 別 配 当					備 考
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	応用物理 I	2			2			
	情報処理工学 I	2	2					
	情報処理工学 II	2		2				
	測量学 I	2	2					
	基礎水理学	1		2				
	基礎生態工学	1			1			
	材料工学	1		1	1			
	基礎構力工学	2			2			
	建築力学	2			2			
	建築構造学	1				1		
	コンクリート構造学	1			1			
	基礎設計演習 I	2	2		2			
	基礎設計演習 II	1		1				
	基礎設計演習 III	1		1				
	建築系演習 I	1			1			
	建築系演習 II	1				1		
	建築系演習 III	1				1		
	設計製図 I	1				1		
	設計製図 II	1					1	
	環境都市工学実験 I	2	2					
	環境都市工学実験 II	2		2				
	環境都市工学実験 III	2			2			
	基礎研究	2				2		
	卒業研究	9					9	
選択科目	応用物理 II	2				2		
	応用物理 III	2				2		
	応用数学 I	1				1		
	応用数学 II	1					1	
	都市環境工学	1					1	
	水環境衛生工学	2				2		
	環境衛生工学	2				2		
	環境アセスメント	1					2	
	環境建築	2				2		
	建築設計史	2				2		
	地盤工学	2				2		
	構造力学	2				2		
	鉄筋コンクリート工学	2				2		
	鋼構造工学	2				2		
	耐震工学	1					1	
	建設施工学	2					2	
	環境都市工学応用実験 I	1				1		
	環境都市工学応用実験 II	1					1	
	修得(開設)単位小計	81	8	10	14	28	21	
選択科目	校外実習 A	1				1		
	校外実習 B	2				2		
	環境工学	1					1	
	応用環境工学	2					2	
	室内環境工学	1				1		
	交通工学	1					1	
	水建設工学	2					2	
専門科目	開設単位小計	13				4	9	
	修得単位小計	6以上				6以上		
専門科目開設単位合計		94	8	10	14	32	30	
専門科目修得単位合計		87以上	8	10	14	28 6以上	21	必修科目 選択科目
一般科目修得単位合計		80以上	24	25	18 2以上	7	4	必修科目 選択科目
修得単位合計		167以上	32	35	32 8以上	35	25	必修科目 選択科目

(出典 平成 25 年度学生便覧 P. 96)

資料 5 - 1 - ① - 6

機械工学科の教育課程の体系的性と科目系統図(平成21年度以降入学者)					
達成しようとしている 基本的な成果	授業科目名 (必は必修科目、選は選択科目、数字は単位数、※は学修単位)				
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年
(A) 自らの意思を的確に表現し行動できる能力、知識を整理し構造化できる能力、技術者倫理等、人間としての素養を年齢の発達段階に応じて修得する。	国語ⅠA(必2) 国語ⅠB(必2) 現代社会(必2) 保健体育Ⅰ(必2) 芸術Ⅰ(必1)	国語Ⅱ(必2) 政治経済(必1) 人類史Ⅰ(必2) 保健体育Ⅱ(必2) 芸術Ⅱ(必1)	国語Ⅲ(必2) 人類史Ⅱ(必2) 科学技術史(必1) 保健体育Ⅲ(必2) 教養ゼミナール(必1)	日本語表現(必2) 科学技術社会史(選1) 社会と文化(選1) スポーツ教育Ⅰ(必1)	技術者倫理(必1) スポーツ教育Ⅱ(必1)
(B) 工学基礎としての自然科学系科目を深く理解する。	基礎数学Ⅰ(必4) 基礎数学Ⅱ(必2) 化学Ⅰ(必3) 生物基礎(選1)	基礎数学Ⅲ(必2) 微分積分Ⅰ(必4) 化学Ⅱ(必2) 物理Ⅰ(必3)	基礎解析(必2) 微分積分Ⅱ(必3) 物理Ⅱ(必1) 応用物理Ⅰ(必2) 教養ゼミナール(必1)	応用解析Ⅰ(必2※) 応用解析Ⅱ(必2※) 応用化学(選1) 応用物理Ⅱ(必2※)	応用解析Ⅲ(選1※)
(C) 世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意思の疎通ができる実践的な英語能力を修得する。	英語Ⅰ(必4) 英文法Ⅰ(必2)	英語Ⅱ(必4) 英文法Ⅱ(必2)	英語Ⅲ(必2) 英語Ⅲ演習(必1) 英語会話(必1)	総合英語Ⅰ(必2) ドイツ語(必2)	総合英語Ⅱ(必2) 上級英語(選1)
(D) 実践的かつ専門的な知識と技術の基礎となる専門基礎学力を修得する。	基礎機械製作Ⅰ(必2)	基礎機械製作Ⅱ(必1)	材料学(必2) 基礎材料力学(必1) 工業力学(必1) 機械設計基礎(必1)	機械加工学(必2※) 材料工学Ⅰ(必1※) 材料力学Ⅰ(必2※) 材料力学Ⅱ(必1※) 機械力学Ⅰ(必2※) 機械設計(必1※)	工作機械(選1※) 材料工学Ⅱ(選1※) 計算力学(必2※) 機械力学Ⅱ(必1※) 機械力学Ⅲ(選1※) 制御工学Ⅰ(必2※) 制御工学Ⅱ(選1※) 電子工学(必1※) 電子応用(必1※) 計測工学(選1※) ロボット工学(選1※) 工業熱力学Ⅰ(必2※) 工業熱力学Ⅱ(必1※) 流体工学Ⅰ(必2※) 流体工学Ⅱ(必1※) 設計製図Ⅰ(必2)
(E) 教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし、現象・動作を具体的に理解できる実践的な能力を修得する。	工作実習Ⅰ(必2)	工作実習Ⅱ(必3)	創造設計製作(必2) コンピュータ制御(必1)	工学実験Ⅰ(必2※) 校外実習A(選1) 校外実習B(選2)	工学実験Ⅱ(必2※)
(F) 問題・課題の解決のための方法・手段を模索し、実行できる能力を身につける。				基礎研究(必2)	卒業研究(必9)

(出典 平成25年度授業計画機械工学科 P. 4)

資料 5 - 1 - ① - 7

電気情報工学科の教育課程の体系的性と科目系統図(平成21年度以降入学者)					
達成しようとしている 基本的な成果	授業科目名 (必は必修科目、選は選択科目、数字は単位数、※は学修単位)				
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年
(A) 自らの意思を的確に表現し行動できる能力、知識を整理し構造総合化できる能力、技術者倫理等、人間としての素養を年齢の発達段階に応じて修得する。	国語ⅠA(必2) 国語ⅠB(必2) 現代社会(必2) 保健体育Ⅰ(必2) 芸術Ⅰ(必1)	国語Ⅱ(必2) 政治経済(必1) 人類史Ⅰ(必2) 保健体育Ⅱ(必2) 芸術Ⅱ(必1)	国語Ⅲ(必2) 人類史Ⅱ(必2) 科学技術史(必1) 保健体育Ⅲ(必2) 教養ゼミナール(必1)	日本語表現(必2) 科学技術社会史(選1) 社会と文化(選1) スポーツ教育Ⅰ(必1)	技術者倫理(必1) スポーツ教育Ⅱ(必1)
(B) 工学基礎としての自然科学系科目を深く理解する。	基礎数学Ⅰ(必4) 基礎数学Ⅱ(必2) 化学Ⅰ(必3) 生物基礎(選1)	基礎数学Ⅲ(必2) 微分積分Ⅰ(必4) 化学Ⅱ(必2) 物理Ⅰ(必3)	基礎解析(必2) 微分積分Ⅱ(必3) 物理Ⅱ(必1) 応用物理Ⅰ(必2) 教養ゼミナール(必1)	応用解析Ⅰ(必2※) 応用解析Ⅱ(必2※) 応用化学(選1) 応用物理ⅡB(必2※)	応用解析Ⅲ(選1※)
(C) 世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意思の疎通ができる実践的な英語能力を修得する。	英語Ⅰ(必4) 英文法Ⅰ(必2)	英語Ⅱ(必4) 英文法Ⅱ(必2)	英語Ⅲ(必2) 英語LL演習(必1) 英語会話(必1)	総合英語Ⅰ(必2) ドイツ語(必2)	総合英語Ⅱ(必2) 上級英語(選1) 工業英語(必2※)
(D) 実践的かつ専門的な知識と技術の基礎となる専門基礎学力を修得する。	電気基礎(必2)	電気計測(必1) 電気回路Ⅰ(必2) 論理回路(必1)	基礎電気磁気学(必2) 電気回路Ⅱ(必2) コンピュータ基礎(必2)	電気磁気学(必2※) 回路網理論(必2※) 電子回路(必2※) ソフトウェア工学(必2※) ソフトウェア工学演習(選2) 電子デバイス工学(必2) 電気機器学(必2)	センサ工学(選2※) 電波工学(必2※) IC応用回路(必2※) IC応用回路演習(選2) Gシミュレーション(必2) 半導体工学(必2※) 基礎制御工学(必2※) 電気機械変換工学(必2) 電力工学(選2※)
(E) 教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし、現象・動作を具体的に理解できる実践的な能力を修得する。	ものづくり実習(必2)	基礎工学実験(必3)	電気情報基礎実験(必3)	電気情報工学実験Ⅰ(必2※) 校外実習A(選1) 校外実習B(選2)	電気情報工学実験Ⅱ(必2※)
(F) 問題・課題の解決のための方法・手段を模索し、実行できる能力を身につける。				基礎研究(必2)	卒業研究(必9)

(出典 平成 25 年度授業計画電気情報工学科 P. 4)

資料 5 - 1 - ① - 8

物質工学科の教育課程の体系性と科目系統図(平成21年度以降入学者)					
達成しようとしている 基本的な成果	授業科目名 (物は物質コース、生は生物コース、必は必修科目、選は選択科目、数字は単位数、※は学修単位)				
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年
(A) 自らの意思を的確に表現し行動できる能力、知識を整理し構造総合化できる能力、技術者倫理等、人間としての素養を年齢の発達段階に応じて修得する。	国語ⅠA(必2) 国語ⅠB(必2) 現代社会(必2)	国語Ⅱ(必2) 政治経済(必1) 人間史Ⅰ(必2)	国語Ⅲ(必2) 人間史Ⅱ(必2) 科学技術史(必1) 保健体育Ⅲ(必2) 芸術Ⅱ(必1) 教養ゼミナール(必1)	日本語表現(必2) 科学技術社会史(選1) 社会と文化(選1) スポーツ教育Ⅰ(必1)	技術者倫理(必1) スポーツ教育Ⅱ(必1)
(B) 工学基礎としての自然科学系科目を深く理解する。	基礎数学Ⅰ(必4) 基礎数学Ⅱ(必2)	基礎数学Ⅲ(必2) 微分積分Ⅰ(必4) 物理Ⅰ(必3)	基礎解析(必2) 微分積分Ⅱ(必3) 物理Ⅱ(必1) 応用物理Ⅰ(必2) 教養ゼミナール(必1)	応用解析Ⅰ(必2※) 応用解析Ⅱ(必2※) 応用物理ⅡA(必1※) 応用物質工学(選1※)	応用解析Ⅲ(選1※)
(C) 世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意思の疎通ができる実践的な英語能力を修得する。	英語Ⅰ(必4) 英文法Ⅰ(必2)	英語Ⅱ(必4) 英文法Ⅱ(必2)	英語Ⅲ(必2) 英語LL演習(必1) 英語会話(必1)	総合英語Ⅰ(必2) ドイツ語(必2)	総合英語Ⅱ(必2) 上級英語(選1) 工業英語(必1)
(D) 実践的かつ専門的な知識と技術の基礎となる専門基礎学力を修得する。	情報処理(必2) 化学Ⅰ(必3) 化学基礎(必2)	分析化学(必2) 有機化学(必2)	無機化学(必2) 有機化学(必1) 天然物化学(必1) 基礎物理化学(必2) 基礎化学工学(必1)	材料計測工学(必1) 固体化学(物必1※) 錯体化学(必1) 無機合成化学(物必1※) 有機合成化学Ⅰ(必1※) 物理化学(必2※) 化学熱力学(必2※) 電子化学(必1) 化学工学(必2※) 生物化学工学(生必2※) 応用微生物学(必2※)	無機材料工学(必2※) 無機工業化学(必2※) 有機合成化学Ⅱ(必1※) 有機工業化学(必2※) 高分子材料工学(物必2※) 環境工学(選1) 量子化学(物必2※) プロセス工学(必2※) 反応工学(必2※) 品質管理(選1) タンパク質工学(生必2※) 遺伝子工学(生必2※) 食品化学(選1※) 医薬品工学(選1) メカトロニクス(選1)
(E) 教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし、現象・動作を具体的に理解できる実践的な能力を修得する。	ものづくり工作実習(必2)	分析化学実験(必2) 有機化学実験(必2)	無機化学実験(必2) 生物工学実験(必2)	校外実習A(選1) 校外実習B(選2) 物理化学実験(必2※) 化学工学実験(必2※) 機器分析実験(必2※)	
(F) 問題・課題の解決のための方法・手段を模索し、実行できる能力を身につける。				基礎研究(必2)	卒業研究(必9)

(出典 平成25年度授業計画物質工学科 P. 4)

資料 5 - 1 - ① - 9

環境都市工学科の教育課程の体系性と科目系統図(平成21年度以降入学者)					
達成しようとしている 基本的な成果	授業科目名 (必は必修科目、選は選択科目、数字は単位数、※は学修単位)				
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年
(A) 自らの意思を的確に表現し行動できる能力、知識を整理し構造統合化できる能力、技術者倫理等、人間としての素養を年齢の発達段階に応じて修得する。	国語ⅠA(必2) 国語ⅠB(必2) 現代社会(必2)	国語Ⅱ(必2) 政治経済(必1) 人類史Ⅰ(必2)	国語Ⅲ(必2) 人類史Ⅱ(必2) 科学技術史(必1)	日本語表現(必2) 科学技術社会史(選1) 社会と文化(選1) スポーツ教育Ⅰ(必1)	技術者倫理(必1) スポーツ教育Ⅱ(必1)
(B) 工学基礎としての自然科学系科目を深く理解する。	基礎数学Ⅰ(必4) 基礎数学Ⅱ(必2) 化学Ⅰ(必3) 生物基礎(選1)	基礎数学Ⅲ(必2) 微積分学Ⅰ(必4) 化学Ⅱ(必2) 物理Ⅰ(必3)	基礎解析(必2) 微積分学Ⅱ(必3) 物理Ⅱ(必1) 応用物理Ⅰ(必2) 教養ゼミナール(必1)	応用解析Ⅰ(必2※) 応用解析Ⅱ(必2※) 応用化学(選1) 応用物理ⅡA(必1※)	応用解析Ⅲ(選1※)
(C) 世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意思の疎通ができる実践的な英語能力を修得する。	英語Ⅰ(必4) 英文法Ⅰ(必2)	英語Ⅱ(必4) 英文法Ⅱ(必2)	英語Ⅲ(必2) 英語Ⅲ演習(必1) 英語会話(必1)	総合英語Ⅰ(必2) ドイツ語(必2)	総合英語Ⅱ(必2) 上級英語(選1)
(D) 実践的かつ専門的な知識と技術の基礎となる専門基礎学力を修得する。	情報処理Ⅰ(必2)	情報処理Ⅱ(必2)		建設設備(選2※) 建築デザイン論(必2※) 建築史(必2※) 建設法規論(選1※) 建築系演習Ⅰ(必1) 建築系演習Ⅱ(必1) 設計製図Ⅰ(必1) 都市計画(必2※) 計画数理(必1※) 交通工学(選1※) 基礎水理学(必1) 基礎生態工学(必1) 測量Ⅰ(必2) 材料学(必1) 土質工学(必2) コンクリート構造学(必2) 建築一般構造学(必1) 基礎構造力学(必2)	室内環境工学(選2※) 建築系演習Ⅲ(必1) 設計製図Ⅱ(必1) 都市計画(必2※) 計画数理(必1※) 交通工学(選1※) 水工学(選2※) 環境衛生工学(必2※) 環境アセスメント(必1※) 都市環境工学(必1※) 環境工学(選1※) 測量Ⅱ(必1※) 地盤工学(必2※) 鉄筋コンクリート工学(必2※) 鋼構造学(必2※) 構造力学演習(必1) 構造力学(必2※) 耐震工学(必1※)
(E) 教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし、現象・動作を具体的に理解できる実践的な能力を修得する。	環境都市工学実験 実習Ⅰ(必2) ものづくり実習(必2)	環境都市工学実験 実習Ⅱ(必2)	環境都市工学実験 実習Ⅲ(必2)	環境都市工学応用 実験Ⅰ(必1※) 校外実習A(選1) 校外実習B(選2)	環境都市工学応用 実験Ⅱ(必1※)
(F) 問題・課題の解決のための方法・手段を模索し、実行できる能力を身につける。				基礎研究(必2)	卒業研究(必9)

(出典 平成 25年度授業計画環境都市工学科 P. 4)

資料 5 - 1 - ① - 10

「シラバスの例」

授 業 科 目	必・選	学 年	学科(組) 専 攻	担 当 教 員	単 位 数	授 業 時 間	自学自習時間
微分積分学Ⅰ Differential & Integral Calculus I	必修	2 年	ME CB	森本真理 佐藤尊文	4	通年週 4 時間 (合計120時間)	
[教 材] 教科書:「新訂基礎数学」「新訂微分積分Ⅰ」 斎藤齊・高遠節夫ほか著 大日本図書 問題集:「秋田高専 新 数学問題集 1・2」 秋田高専数学科編 その他: 自製プリントの配布							
[授業の目標と概要] 微分積分の基本的な考え方を理解し、工学を学ぶ上で重要な微分積分の基本的な計算技能を修得する。							
[授業の進め方] 講義形式で行う。必要に応じて適宜小テストを実施し、また演習課題レポート、宿題を課す。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。							
[授業内容]							
授 業 項 目	時 間	内 容					
授業ガイダンス	1	授業の進め方と評価の仕方について説明する。					
1 2次曲線	9	2次曲線がわかり、不等式と領域の関係がわかる。					
2 場合の数と数列							
(1) 数列と和の記号・累乗の和	1 2	等差数列・等比数列がわかる。和の記号・累乗の和がわかる。					
(2) 漸化式と数学的帰納法	2	漸化式・数学的帰納法がわかる。					
3 微分法							
(1) 関数の極限	4	関数の極限がわかる。					
前期中間試験	1	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。					
試験の解説と解答	1	前期中間試験の解説と解答					
(2) 関数の連続性	5	関数の連続性がわかる。					
(3) 微分係数と接線の方程式	4	微分係数と接線の方程式がわかる。					
(4) 導関数の計算と合成関数の導関数	1 2	基本的な関数の導関数がわかる。合成関数の微分計算ができる。					
(5) 三角関数の導関数、逆三角関数	6	三角関数の微分計算ができる。逆三角関数がわかる。					
前期末試験	あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。					
試験の解説と解答	1	前期末試験の解説と解答、および授業アンケート					
(6) 逆三角関数の導関数	3	逆三角関数の微分計算ができる。					
(7) 指数関数・対数関数の導関数	6	指数関数・対数関数の微分計算ができる。対数微分法がわかる。					
4 微分法の応用							
(1) 高次導関数	2	高次導関数がわかる。					
(2) 媒介変数表示の導関数	4	媒介変数表示の導関数がわかる。					
(3) 関数の増減・極値・変曲点	1 0	関数の増減、極値、変曲点などを理解し、簡単なグラフが描ける。					
5 積分法							
(1) 定積分の定義と不定積分	6	定積分と不定積分の定義と性質がわかる。					
後期中間試験	1	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。					
試験の解説と解答	1	後期中間試験の解説と解答					
(2) 不定積分	3	不定積分の性質がわかる。					
(3) 定積分の計算	6	基本的な定積分の計算ができる。					
6 積分の計算							
(1) 置換積分・部分積分法	1 4	置換積分・部分積分の計算ができる。					
(2) 分数関数・無理関数の積分	4	簡単な分数関数・無理関数の積分ができる。					
学年末試験	あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。					
試験の解説と解答	1	学年末試験の解説と解答、本授業のまとめ、および授業アンケート					
(3) 三角関数の積分	3	三角関数の積分ができる。					
[到達目標] 2次曲線、領域、場合の数、数列とその和及び関数の極限の考え方や計算法を理解し、さらに、基本的な微分計算・積分計算ができるようになること。							
[評価方法] 合格点は50点である。各中間の成績は試験100%、前期末の成績は、試験結果70%、小テスト・演習課題・レポート・宿題を30%で評価する。特に、レポート・宿題の未提出者は単位取得が困難となるので注意すること。 学年総合成績 = (前期中間試験 + 前期末試験 + 後期中間試験 + 学年末試験) / 4 × 0.7 + (小テスト・演習課題・レポート・宿題・授業態度) × 0.3							
[認証評価関連科目] 基礎数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、微分積分学Ⅱ、基礎解析、応用解析Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、(応用数学)							
[J A B E E 関連科目]							
[学習上の注意] 今後開講される全ての数学科目及び専門科目の基礎であり、完全に修得すること。単に計算ができるだけでは不十分であり、論理的な思考を養うよう心がけること。また、毎回授業の前には予習をすること。そして、毎日の自宅学習において、問題集を利用した計算訓練をすることが、本科目を修得するためのポイントである。							
達成しようとしている 基本的な成果	(B)	秋田高専学習 ・教育目標		J A B E E 基準			

(出典 平成 25年度授業計画機械工学科 P. 27)

秋田県における大学、短期大学及び高等専門
学校間の単位互換に関する協定書

秋田大学、秋田県立大学、国際教養大学、ノースアジア大学、秋田看護福祉大学、日本赤十字秋田看護大学、秋田公立美術大学、秋田栄養短期大学、聖霊女子短期大学、日本赤十字秋田短期大学、聖園学園短期大学及び秋田工業高等専門学校（以下「参加大学等」という。）は、相互の交流と協力を推進し、大学教育の活性化と充実に資するとともに、意欲ある学生に多様な学習機会を提供することを目的とし、次により単位互換を行うことに合意する。

（対象学生）

- 1 本協定により単位互換ができる学生は、参加大学等に在学する学生とする。

（受入学生の呼称）

- 2 本協定に基づき、参加大学等が受け入れる学生は、特別聴講学生と称する。

（受入学生数）

- 3 参加大学等が受け入れる特別聴講学生数は、授業に支障のない範囲とし、必要に応じ、参加大学等間で調整する。

（履修方法）

- 4 特別聴講学生の科目登録、単位の認定等については、受入大学等の規則の定めるところによる。

（授業料等の費用）

- 5 受入に係る検定料、入学料及び授業料は徴収しない。

（会議）

- 6 本協定による単位互換を円滑に実施するため、運営に関する会議を大学コンソーシアムあきたに置く。

（有効期間）

- 7 本協定の有効期間は、平成25年4月1日から平成28年3月31日までとする。

（改廃）

- 8 この協定の改廃は、参加大学等間の協議によるものとする。

（その他）

- 9 本協定書の定めるもののほか、単位互換の実施に関する細目は、覚書により別に定める。

平成25年4月1日

秋 田 大 学 学長

吉 村 昇

秋 田 県 立 大 学 学長

小 間 憲

国 際 教 養 大 学 学長

Mark Williams

ノースアジア大学 学長

小 泉 健

秋 田 看 護 福 祉 大 学 学長

田 中 禮 子

日本赤十字秋田看護大学 学長

安 藤 六 子

秋 田 公 立 美 術 大 学 学長

樋 田 豊 次 郎

秋 田 栄 養 短 期 大 学 学長

小 泉 健

聖 霊 女 子 短 期 大 学 学長

平 垣 ヨ シ 子

日本赤十字秋田短期大学 学長

安 藤 六 子

聖 園 学 園 短 期 大 学 学長

青 木 光 子

秋 田 工 業 高 等 専 門 学 校 校 長

山 田 栄 磨

(出典 総務課資料)

資料 5 - 1 - ② - 2

タイトル 他の高等専門学校及び高等専門学校以外の教育施設等における学修等に対する
単位認定に関する規則
他の高等専門学校及び高等専門学校以外の教育施設等における学修等に対する単位認定に
関する規則

(目的)

第1条 この規則は、秋田工業高等専門学校学則第13条の2及び第13条の3の規定に基づき、他の高等専門学校における授業科目の履修及び高等専門学校以外の教育施設等における学修に対する単位の認定に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(他の高等専門学校における授業科目の履修)

第2条 他の高等専門学校における授業科目を履修しようとする学生は、教務主事を経て、校長に願い出て許可を得なければならない。

2 校長は、教育上有益と認めるときは、前項による願い出を許可することができる。

(高等専門学校以外の教育施設等における学修)

第3条 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が行う大学、短期大学における学修及び次に掲げる学修(文部科学大臣が別に定める学修)を、本校における授業科目の履修とみなし単位の修得を認定することができる。

一 大学又は短期大学の専攻科における学修

二 高等専門学校の専攻科における学修

三 専修学校の専門課程のうち修業年限が二年以上のものにおける学修で、高等専門学校において高等専門学校教育に相当する水準を有すると認めたもの

四 青少年及び成人の学習活動に係る知識・技能審査事業の認定に関する規則(平成十二年文部省令第二十五号)又は技能審査の認定に関する規則(昭和四十二年文部省告示第二百三十七号)による文部科学大臣の認定を受けた技能審査の合格に係る学修で、高等専門学校において高等専門学校教育に相当する水準を有すると認めたもの

2 大学又は短期大学の本科における学修を行おうとする学生は、教務主事を経て、校長に願い出て許可を得なければならない。

3 第1項第1号から第3号に掲げる学修を行おうとする学生は、専攻科長を経て、校長に願い出て許可を得なければならない。

4 校長は、教育上有益と認めるときは、第2項及び第3項による願い出を許可することができる。

5 第1項第4号により認定する単位については、別に定める。

(認定の対象)

第4条 この規則において単位を認定する授業科目等は、第2条又は第3条第2項及び第3項により校長が認めたものとする。

(単位認定申請)

第5条 学生は、許可を受けて修得した単位の認定を受けようとする場合には、速やかに単位を修得したことを証明する書類を添えて校長に申請するものとする。

(単位の認定)

第6条 前条により申請された単位の認定については、教務委員会の議を経て校長が行う。

2 前項により本校の教育課程の相当科目として適当と認められるものは、卒業要件科目とする。

3 前項により認定された科目以外の科目については、卒業要件外の科目として記録する。

(準用規定)

第7条 専攻科学生については、第2条を除きこの規則を準用する。この場合において、第6条第1項中「教務委員会」とあるのは「専攻科教務委員会」、同条第2項中「卒業要件科目」とあるのは「修了要件科目」、同条第3項中「卒業要件外の科目」とあるのは「修了要件外の科目」と読み替えるものとする。

附 則

この規則は、平成18年7月3日から施行し、平成18年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成24年1月26日から施行し、平成24年4月1日から適用する。

(出典 平成 25 年度学生便覧 P. 106～107)

資料 5 - 1 - ② - 3

平成 24 年 1 月 10 日

校 長 裁 定

秋田工業高等専門学校「秋田県における大学，短期大学及び高等専門学校間の単位互換に関する協定書」及び「秋田県における大学，短期大学及び高等専門学校間の単位互換実施に関する覚書」に基づく単位認定等に関する申合せ

(趣旨)

- 1 秋田工業高等専門学校の本科の学生に係る「秋田県における大学，短期大学及び高等専門学校間の単位互換に関する協定書」及び「秋田県における大学，短期大学及び高等専門学校間の単位互換実施に関する覚書」（以下「協定書等」という。）に基づく単位認定等については，当該協定書等が定めるもののほか，この申合せによるものとする。

(対象学生)

- 2 当該協定書等により単位互換できる学生は，本科 4・5 年次生とする。

(認定できる単位数)

- 3 学生一人あたりの卒業要件に含まれる認定単位数の上限は，次のとおりとする。
 - ①専門選択科目 3 単位
 - ②一般選択科目 2 単位

(履修科目の範囲)

- 4 学生が履修できる受入大学等の授業科目は，協定書等で定める様式「単位互換履修対象授業科目一覧」により定めるとおりとし，卒業要件科目とする授業科目については，各学科・学系で認定し，教務委員会の議を経て決定する。

(単位の認定)

- 5 受入大学等による履修科目の単位授与に係る可否並びに成績評価の結果の通知に基づき，教務委員会の議を経て校長が単位認定を行う。

(成績の評価)

- 6 受入大学等からの成績評価が 100 点法若しくは 100 点法に換算できる場合，当該点数に基づき本校の評語（優・良・可・不可）で評定する。
それ以外の場合，教務委員会の議を経て校長が評定する。

(業務の所管)

- 7 この申合せに基づく単位認定等に関する事務は，学生課が行う。

附 則

この申合せは，平成 24 年 1 月 10 日から実施する。

(出典 平成 25 年度学生便覧 P.108)

資料 5 - 1 - ② - 4

授 業 科 目	必・選	学 年	学 科(組) 専 攻	担 当 教 員	単 位 数	授 業 時 間	自 学 自 習 時 間
校外実習 A Practice outside the School A	選択	4 年	M	4 年担任	1	3 0 時間以上	
[教 材] 実習先で準備されたもの							
[授業の目標と概要] 生産現場における産業の技術を総合的に修得し、技術者としての在り方や自発的な研究態度を身に付け、卒業後の進路選択に役立てることが出来ることを目標とする。							
[授業内容]							
授 業 項 目		時 間		内 容			
企業や研究所などでの現場実習 (インターンシップ)				企業や研究所などにおいて、その受入先の指導の下に、現場の実際の業務、技術を体験する。実習日数を 5 日以上、もしくは実習時間数を 30 時間以上とする。			
[到達目標] 実際の企業等の現場における実務に触れ、これまでに学習してきた理論や技術がどの様に使われているかを自分の目で確かめ、技術者のあるべき姿を学び、卒業後の進路選択に役立てることを目標とする。							
[評価方法] 評価は実習先担当者、学級担任および学科長が次の各項目を担当して行う。 1. 実習先担当者による評価 実習先において、以下の評価項目について総合して、S (非常に満足: 100点), A (満足: 90点), B (やや満足: 80点), C (普通: 70点), D (やや不満: 60点), E (不満50点) の評価を行う。 ① 実習への取組姿勢 ② 実習内容の理解度および成果など ③ 報告書の内容、出来映えなど 2. 学級担任による実習報告書の評価 以下の評価項目について総合して、S (非常に満足: 100点), A (満足: 90点), B (やや満足: 80点), C (普通: 70点), D (やや不満: 60点), E (不満50点) の評価を行う。 ① 実習の目的、内容が理解できているか ② 記述が簡潔で、正しい日本語で記述されているか ③ 図や表が、適切で見やすいか ④ 実習内容・成果の水準など 3. 学級担任および学科長による報告会の評価 以下の評価項目について総合して、S (非常に満足: 100点), A (満足: 90点), B (やや満足: 80点), C (普通: 70点), D (やや不満: 60点), E (不満50点) の評価を行う。 ① 実習の目的、内容がわかりやすく説明されているか ② 図や表が適切で見やすいか ③ データの分析や考察が適切になされているか ④ 話し方、質疑応答がわかりやすく、説得力があるか 総合評価は、実習先担当者による評価を 50%、実習報告書の評価を 25%、報告会での評価を 25% の計100点満点で採点し、60点以上を合格とする。 総合評価 = 0.50×(実習先担当者による評価)+0.25×(実習報告書の評価)+0.25×(報告会での評価)							
[認証評価関連科目]							
[J A B E E 関連科目] 校外実習 B, (校外実習 I), (校外実習 II)							
[学習上の注意] 実習体験により、技術者としての在り方を学び、自主的研究態度を養うこと。実習先の指示をよく理解の上従うこと。実習終了時には学校より持参した実習修了書に受入先の証明を貰い学校に提出すること。							
達成しようとしている 基本的な成果	(E)		秋田高専学習 ・教育目標	C-3	J A B E E 基準	d-2 (d)	

(出典 平成25年度授業計画機械工学科 P. 98)

資料 5 - 1 - ② - 5

授 業 科 目	必・選	学 年	学 科(組) 専 攻	担 当 教 員	単 位 数	授 業 時 間	自学自習時間
校外実習B Practice outside the School B	選択	4 年	M	4 年担任	2	6 0 時間以上	
[教 材] 実習先で準備されたもの							
[授業の目標と概要] 生産現場における産業の技術を総合的に修得し、技術者としての在り方や自発的な研究態度を身に付け、卒業後の進路選択に役立てることが出来ることを目標とする。							
[授業内容]							
授 業 項 目		時 間		内 容			
企業や研究所などでの現場実習 (インターンシップ)				企業や研究所などにおいて、その受入先の指導の下に、現場の実際の業務、技術を体験する。実習日数を 10 日以上、もしくは実習時間数を 60 時間以上とする。			
[到達目標] 実際の企業等の現場における実務に触れ、これまでに学習してきた理論や技術がどの様に使われているかを自分の目で確かめ、技術者のあるべき姿を学び、卒業後の進路選択に役立てることを目標とする。							
[評価方法] 評価は実習先担当者、学級担任および学科長が次の各項目を担当して行う。 1. 実習先担当者による評価 実習先において、以下の評価項目について総合して、S（非常に満足：100点）、A（満足：90点）、B（やや満足：80点）、C（普通：70点）、D（やや不満：60点）、E（不満50点）の評価を行う。 ① 実習への取組姿勢 ② 実習内容の理解度および成果など ③ 報告書の内容、出来映えなど 2. 学級担任による実習報告書の評価 以下の評価項目について総合して、S（非常に満足：100点）、A（満足：90点）、B（やや満足：80点）、C（普通：70点）、D（やや不満：60点）、E（不満50点）の評価を行う。 ① 実習の目的、内容が理解できているか ② 記述が簡潔で、正しい日本語で記述されているか ③ 図や表が、適切で見やすいか ④ 実習内容・成果の水準など 3. 学級担任および学科長による報告会の評価 以下の評価項目について総合して、S（非常に満足：100点）、A（満足：90点）、B（やや満足：80点）、C（普通：70点）、D（やや不満：60点）、E（不満50点）の評価を行う。 ① 実習の目的、内容がわかりやすく説明されているか ② 図や表が適切で見やすいか ③ データの分析や考察が適切になされているか ④ 話し方、質疑応答がわかりやすく、説得力があるか 総合評価は、実習先担当者による評価を 50%、実習報告書の評価を 25%、報告会での評価を 25% の計100点満点で採点し、60点以上を合格とする。 総合評価 = 0.50×(実習先担当者による評価)+0.25×(実習報告書の評価)+0.25×(報告会での評価)							
[認証評価関連科目]							
[J A B E E 関連科目] 校外実習A、(校外実習Ⅰ)、(校外実習Ⅱ)							
[学習上の注意] 実習体験により、技術者としての在り方を学び、自主的研究態度を養うこと。実習先の指示をよく理解の上従うこと。実習終了時には学校より持参した実習修了書に受入先の証明を貰い学校に提出すること。							
達成しようとしている 基本的な成果	(E)	秋田高専学習 ・教育目標	C-3	J A B E E 基準	d-2 (d)		

(出典 平成 25 年度授業計画機械工学科 P.99)

平成25年度 CO－OP教育講演会年間一覧表

学科	時期	開催日	時間	会場	講師所属	講師氏名	演題	対象
1 機械工学科	前期	24. 4. 30	13:05～ 14:45	テク/コミュニティ	株式会社牧野フライイス製作所 加工技術部カスタマーソリューショングループ	中川 裕也 氏	工作機械の現状	5M
	後期	26. 1. 29	13:05～ 14:45	4E教室	(株)秋田放送 経営推進局 総務部 部長	柳沼 秀光 氏	企業が求める人材とデジタル化の中で のアナログ技術	4E
2 電気情報工学科	後期	26. 2. 25	13:00～	4E教室	アイシン・コムグループ(株) 盛岡開発セン ター ボデーグループ グループマネー ジャー	加藤 誠 氏	車載向け組み込みソフト開発の魅力と 工夫	4E、 希望者
	前期	25. 7. 11	13:05～ 14:45	大講義室	元 (財)あきた産業振興機構 地域結集型共同研究推進課 参事兼課長	高橋 幸治 氏	明日の秋田に向けて、心ときめかすこ －科学技術と人生設計とを考える－	4C、5C
3 物質工学科	後期	26. 1. 17	14:00～ 15:30	大講義室	秋田製錬株式会社	富樫 健一 氏	秋田が誇る素材産業、亜鉛製錬につい て	4C
	前期	25. 7. 23	13:05～ 14:45	4B教室	(株)日本ピーエス 東北支店 技術施工部長	薄田 義夫 氏	最近のプレストレストコンクリート技術に ついて	4B
4 環境都市工学科	後期	26. 2. 7	8:45～ 10:25	テク/コミュニティ	(株)ネクス・エンジニアリング東北	(執行役員) 松井 端 亘 氏 (係長) 澤野 幸輝 氏	地盤環境保全について 軟弱地盤及び斜面災害の対策工につい て	4B

(出典 総務課資料)

資料 5 - 1 - ② - 7

平成25年 7月 12日

第5回 COOP 教育講演会アンケート結果

H25.7.11 開催 「明日の秋田に向けて 心ときめかすこと
 - 科学技術と人生設計とを考える -」
 開発コンサルタント 高橋 幸治 氏

1. 講演会についての感想をお聞かせください。

	大変に有意義であった。	有意義であった。	ありふれた内容であった。	その他
4年生	32.5% (13人)	52.5% (21人)	10% (4人)	0% (0人)
5年生	34.2% (14人)	58.5% (24人)	7.3% (3人)	5% (2人)

2. 講演の内容の理解度をお聞かせください。

	わかりやすかった。	むずかしかった。	その他
4年生	80.0% (32人)	20.0% (8人)	0% (0人)
5年生	78.0% (32人)	19.5% (8人)	2.5% (1人)

3. 講演内容から、今後の学習・研究に活かせる内容があったかお聞かせください。

	大いに役立った (大いに役立ちそうだった)	役立った (役立ちそう)	あまり役立たなかった (あまり役立ちそうにない)	役立たなかった (役立ちそうにない)
4年生	37.5% (15人)	47.5% (19人)	10.0% (4人)	5% (2人)
5年生	26.8% (11人)	68.4% (28人)	2.4% (1人)	2.4% (1人)

4. この講演会で興味深かった内容についてご記入ください。

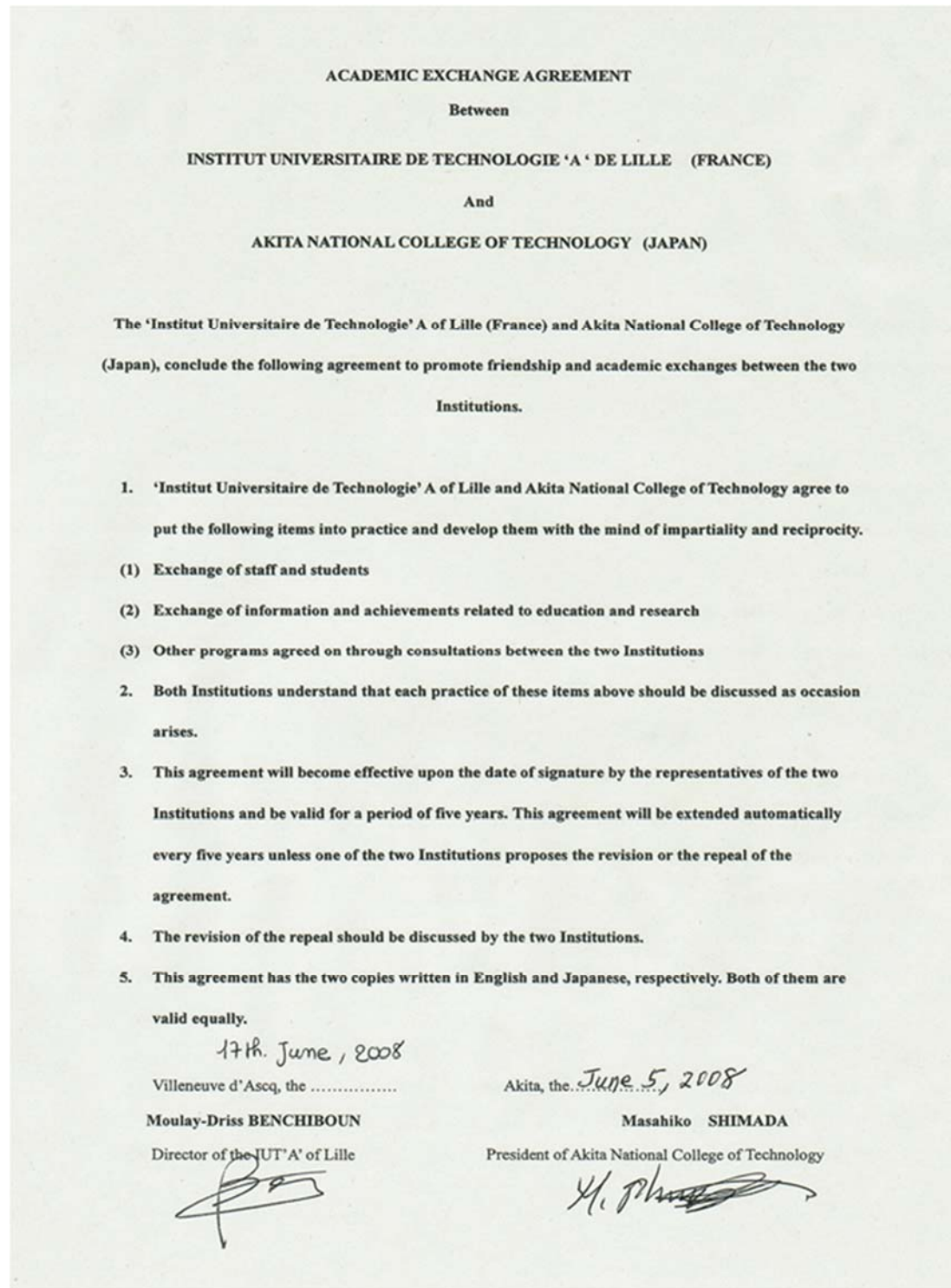
4年生

- ・光触媒について (同様の意見が合計 7 件)
- ・企業の求める人間像についての内容がとても興味深く、これから就職する私達にはとても有益であった。(5)
- ・学校で学んでいる学業面よりも自分自身の精神面や人間性が大事だと聞いて精進しようと思った
- ・「Road Mapping」に興味をもちました。何をやってみるにしろ、まずは目的や道筋がなければ意味がない。自分はそう考えています。ですから、それをどのように組み立てるべきなのかを知ることができました。(3)
- ・様々な本を引用しており、読んでみたいと思った。P.54 の棒グラフの結果は意外だと感じた。
- ・自国を発展させるように高橋さんのようにいろいろがんばりたいと思っています。
- ・ナノテクノロジーを応用したクモの糸を人工で作成する技術やヤモリの足を分析したヤモリテープの作製などの最新のテクノロジー応用技術なども紹介されていて面白かった。(3)
- ・菌を使って新しいことに取り組もうとしていること。
- ・日本の現状、特に起業について ・趣味と仕事、2つの両立がすばらしいと思います。
- ・秋田に大きく貢献していてすごいと思った。 ・秋田の開発の話は興味深かった
- ・シリコンウェハー等の使用率について ・マッハの壁について

(出典 物質工学科教員資料)

資料 5 - 1 - ② - 8

「秋田工業高等専門学校とリールA技術短期大学との間における学術交流協定書」



(出典 国際交流室資料)

秋田高専 国際交流室だより

— Bulletin of International Exchanging Section, ANCT — 9/10/2013

平成 25 年度前期海外短期留学生受け入れ状況

平成25年度前期はフランスの2技術短期大学(リール A 技術短期大学、ベトゥーヌ技術短期大学)から3名を4月～6月の3ヶ月間短期留学生として本校に受け入れました。残念ながら昨年度受け入れたフィンランド・トゥルク応用科学大学からの学生は諸事情により今回は見送りとなりました。

昨年に引き続き入学式に短期留学生も参加してもらいましたが、今年の留学生は「参加者全員が同じ行動をしているので少し怖かった」と述べていました。その後オリエンテーション、校長面談、研究担当教員との打ち合わせをし、4月8日からそれぞれのテーマに基づく研究活動と日本語教育の受講を始めました。帰国前の6月中旬頃には各々の研究報告書を完成させ、6月18日～19日に行われたフランス短期留学生成果発表会で3ヶ月間の研究成果を発表しました。

・短期留学生の所属学科と担当教員

所属学科	留学生名	出身学校	担当教員
機械工学科	Franck MINET	リール A 技術短期大学 (フランス)	小林 義和
物質工学科	Alexis HEESEN	リール A 技術短期大学 (フランス)	上松 仁
環境都市工学科	Hamouda HABBASSI	ベトゥーヌ技術短期大学 (フランス)	寺本 尚史

今年度は短期留学生3人から帰国前にそれぞれメッセージをいただきましたので紹介します。

● Franck MINET (機械工学科)

I enjoyed my three month internship in Akita Kosen. Life in the dormitory, my experiment in KOBAYASHI sensei's laboratory and Japanese education classes are wonderful memories. Moreover, enjoying cherry blossom in SENSU Park was amazing. To conclude, I would like to thank all the Kosen and dormitory staff, and especially Mo-san who made me enjoy my internship even more! どうもありがとうございました!!



平成 25 年度短期留学受け入れ学生とアジア留学生モー君

● Alexis HEESEN (物質工学科)

I'm so happy to make my internship in Japan, particularly in Akita Kosen. The people are so kind, generous and good mentality. My internship and my project have been successful. I met so many people that I will never forget them. Thank you everyone and specially AGEMATSU sensei for the

accomplishment of my project.

●Hamouda HABBASSI (環境都市工学科)

I'm really glad to have spent three months in ANCT. I met many friendly people who enjoy my internship. Especially for Mo-san, he is a very awesome friend and I wish him the best for his foreign project. Finally, I'm really happy to meet people like TERAMOTO sensei and SUGAWARA sensei, who taught me many things, not only about my study but especially about another point of view. Thanks for this internship.

秋田での短期留学プログラムを終えて帰国した学生たちが、秋田での経験を今後に生かしてもらえればと願っています。また、後期からはフィンランド・ヘルシンキメトロポリア応用科学大学から2名を5ヶ月間受け入れます。フランス人留学生同様、秋田での生活を楽しんでほしいものです。

ベトナム重化学工業人材育成支援プロジェクト報告

秋田高専は、国際協力機構(JICA)が主催するベトナム学生が石油精製技術を有した技術者になる為の支援事業「ベトナム重化学工業人材育成支援プロジェクト」に協力することとなり、5月に本校教員2名が調査団としてベトナムを訪問しました。ここではその様子を報告していただきます。

●ベトナムでの人材育成支援プロジェクト (物質工学科 西野 智路)

5月18日～25日に国際協力機構(JICA)の「重化学工業人材育成支援プロジェクト詳細計画策定調査」の調査団として佐藤恒之先生と共にベトナムを訪問してきました。ベトナムは、工業近代化を目指すドイモイ政策の一環として、石油化学産業などの重化学工業振興を図っています。また、それに伴い工業系大学における人材育成に注力しており、高専の実践的創造的技術者の人材育成モデルに高い関心を示しています。そのような状況下、JICA が日本の高専をモデルとした人材育成支援プロジェクトを計画しており、プロジェクト策定のための現地視察ならびに関係機関との調整を行ってきました。



ホーチミン工業大学ティンホア分校キャンパス

今回、ベトナムのハノイと北西部に位置するティンホア省の工業大学や企業などを視察してきましたが、5月なのに平均気温は28℃と蒸し暑く、すでに稲刈りが行われているのに驚かされました(ティンホア省などでは3期作が行われています)。大学では学生実験室などを視察し、実験機器類は充実している一方で、実験内容については改善を要する点があり、安全に対する意識が低いことなどが分かってきました。高専での取り組みを導入していくこと

で、学生実験をはじめ現地大学の機能強化に貢献できていると感じています。

フランス人短期留学生研究成果発表会を秋田高専で開催

例年6月下旬に東北地区の1高専にフランス人短期留学生が集まり、日本滞在期間に各々が行った研究成果を発表する会を行っています。今年度は本校を会場として6月18日(火)～19日(水)の2日間にわたって行われました。

今回はフランスから審査員として、アルノ カイエ氏、ムスタファ アシェド氏(リール A 技術短期大学)、フレデリック ブスマ氏、セバスティアン タバリ氏(ランス技術短期大学)、パトリック ニキーマ氏(カレー技術短期大学)の5名の教員、さらにフランス人学生24名、高専引率教員9名をあわせて38名を本校にお迎えし発表会が開催されました。

1人あたりの持ち時間を発表時間15分、質疑応答5分の計20分とし、本校教員に司会進行の協力を得て行われました。会場からの質問も多岐にわたり、中には鋭い質問に戸惑う発表者もありました。また本科4、5年生と専攻科の学生が多数発表会に参加し、発表の方法等を学んでいたようです。



フランス人短期留学生の研究発表のようす



発表会参加者による記念撮影

海外インターンシップ派遣学生の抱負

今年度は9月2日～10月26日の約2ヶ月間、フランスのリール A 技術短期大学へ3名派遣される他に、高専機構主催技術英語研修(シンガポール、2週間)へ1名派遣されます。各インターンシップでそれぞれ事前研修が行われ、さらに8月22日に派遣学生4名との校長面談がありました。校長からは派遣する学生に対し「すでに既知の知識を学ぶのではなく、まだ分かっていない



海外派遣学生4名との校長面談の時の記念写真

(出典 国際交流室資料)

資料 5 - 1 - ② - 10

平成 24 年度

対象学生	学科	講義名	前期	後期
1 年生	全学科	数学補習	木曜7, 8時限	木曜7, 8時限
		英語補習	金曜7, 8時限	金曜7, 8時限
4 年編入生	機械工学科	数学補習	月曜7, 8時限	
	環境都市工学科		月曜7, 8時限	
3 年留学生	機械工学科	機械基礎	火曜3, 4時限	水曜 3, 4 時限
			火曜7, 8時限	
	物質工学科	物質基礎	木曜5, 6時限	水曜 1, 2 時限
				木曜 5, 6 時限
	環境都市工学科	建設基礎	月曜7, 8時限	木曜 7, 8 時限
			火曜7, 8時限	
	留学生共通	日本語教育	火曜5, 6時限	月曜1, 2時限
			水曜5, 6時限	水曜5, 6時限
			木曜3, 4時限	木曜3, 4時限

平成 25 年度

対象学生	学科	講義名	前期	後期
1 年生	全学科	数学補習	木曜7, 8時限	木曜7, 8時限
		英語補習	金曜7, 8時限	金曜7, 8時限
4 年編入生	機械工学科	数学補習	金曜7, 8時限	
	物質工学科		金曜7, 8時限	
3 年留学生	機械工学科	機械基礎	火曜7, 8時限	火曜 3, 4 時限
	物質工学科	物質基礎	水曜3, 4時限	月曜 3, 4 時限
				水曜 3, 4 時限
	留学生共通	日本語教育	火曜5, 6時限	火曜5, 6時限
			水曜5, 6時限	水曜5, 6時限
			木曜3, 4時限	木曜3, 4時限

(出典 授業時間割表から抜粋)

資料 5 - 1 - ② - 11

カテゴリ 02 規則
タイトル 転科に関する実施要項
転科に関する実施要項

平成20年10月6日
校 長 裁 定

秋田工業高等専門学校学則第20条に規定する転科に関しては、この要項の定めにより実施するものとする。

第1 転科資格は、次の各号の全てを満たす者とする。

- (1) 第1学年から第2学年への進級、及び第2学年から第3学年への進級を認定された者
- (2) 学年成績がクラスで10位以内の者

第2 転科後の学年

- (1) 第1学年から第2学年への進級を認定された者 第2学年
- (2) 第2学年から第3学年への進級を認定された者 第2学年

第3 転科を許可する場合の条件

転科希望先学科の学年クラス人数が45人を超えないこと

第4 転科を許可する日

学年の始め

第5 転科出願の手続き

転科を希望する学生は、クラス担任へ転科願書を提出する。

第6 転科出願を受理する時期

毎年2月末まで

第7 転科願書の取扱い

- (1) クラス担任は、意見書を添えて、出願書類を教務主事へ提出する。
- (2) 教務主事は、当該学生の転科資格、転科を許可する場合の条件及び入学試験の成績等を審査し、校長へ報告する。
- (3) 校長は、教務主事の報告を受けて、教務主事、関係学科長及びクラス担任と合議する。
- (4) 校長は、転科の許可又は不許可の決定をしたときは、当該学生に書面で通知する。

第8 転科制度の周知

学生への転科制度の周知は、学生便覧に上記第1から第6までを記載して行う。

附則

- 1 この要項は、平成21年4月1日から実施する。
- 2 転科に関する申合せ事項(平成5年4月1日決定)は、廃止する。

(出展 秋田高専規則集)

学生が卒業時に身に付ける学力や資質・能力の各項目に対する授業形態の割合(平成25年度)

学科学科名	学年	合計単位数	(A) 自らの意思を計画・実行し行動できる能力、知識を整理し総合して考える能力、技術者倫理等、人間としての素養を年齢の発達段階に応じて修得する				(B) 工学基礎としての自然科学系科目を深く理解する。				(C) 世界の多様な文化・地域の歴史・伝統文化を理解する能力、互いの文化の共通点や異なる実践的営み能力を修得する。				(D) 実用かつ専門的な知識・技術の基礎となる専門基礎学力を習得する。				(E) 職業教育による「学基礎および専門基礎を土台とし、職業・中核を具体的に理解できる実践的な能力を修得する。				(F) 問題・課題解決のための方法・手段を模索し、実行できる能力を身につける。			
			講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計
機械工学科	1年	合計単位数 割合	7 77.8%	2 22.2%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	6 6.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	6 6.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	2 2.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	0 0.0%
	2年	合計単位数 割合	6 75.0%	2 25.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	10 10.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	40 40.0%	60 60.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	3 3.0%	0 0.0%	100.0%	0 0.0%
	3年	合計単位数 割合	5 71.4%	2 28.6%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	9 9.0%	2 2.0%	100.0%	50 50.0%	0 0.0%	100.0%	0 0.0%	7 7.0%	4 4.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	2 2.0%	0 0.0%	100.0%	0 0.0%
	4年	合計単位数 割合	4 80.0%	0 0.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	7 7.0%	0 0.0%	100.0%	4 4.0%	0 0.0%	100.0%	17 17.0%	2 2.0%	19 19.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	2 2.0%	0 0.0%	100.0%	2 2.0%
	5年	合計単位数 割合	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	0 0.0%	1 1.0%	0 0.0%	100.0%	3 3.0%	0 0.0%	100.0%	17 17.0%	2 2.0%	19 19.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	2 2.0%	0 0.0%	100.0%
	1年	合計単位数 割合	7 77.8%	2 22.2%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	10 10.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	33 33.3%	67 66.7%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	3 3.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%
	2年	合計単位数 割合	6 75.0%	2 25.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	11 11.0%	0 0.0%	100.0%	6 6.0%	2 2.0%	100.0%	66 66.7%	33 33.3%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	3 3.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%
	3年	合計単位数 割合	5 71.4%	2 28.6%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	9 9.0%	2 2.0%	100.0%	50 50.0%	0 0.0%	100.0%	10 10.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	3 3.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%
	4年	合計単位数 割合	4 80.0%	0 0.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	7 7.0%	0 0.0%	100.0%	4 4.0%	0 0.0%	100.0%	14 14.0%	4 4.0%	18 18.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	2 2.0%	0 0.0%	100.0%	2 2.0%
	5年	合計単位数 割合	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	0 0.0%	1 1.0%	0 0.0%	100.0%	5 5.0%	0 0.0%	100.0%	15 15.0%	4 4.0%	19 19.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	2 2.0%	0 0.0%	100.0%
電気情報工学科	1年	合計単位数 割合	5 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	6 6.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	6 6.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	3 3.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%
	2年	合計単位数 割合	6 75.0%	2 25.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	10 10.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	66 66.7%	33 33.3%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	3 3.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%
	3年	合計単位数 割合	5 71.4%	2 28.6%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	9 9.0%	2 2.0%	100.0%	50 50.0%	0 0.0%	100.0%	10 10.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	3 3.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%
	4年	合計単位数 割合	4 80.0%	0 0.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	7 7.0%	0 0.0%	100.0%	4 4.0%	0 0.0%	100.0%	14 14.0%	4 4.0%	18 18.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	2 2.0%	0 0.0%	100.0%	2 2.0%
	5年	合計単位数 割合	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	0 0.0%	1 1.0%	0 0.0%	100.0%	5 5.0%	0 0.0%	100.0%	15 15.0%	4 4.0%	19 19.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	2 2.0%	0 0.0%	100.0%
	1年	合計単位数 割合	5 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	6 6.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	6 6.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	3 3.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%
	2年	合計単位数 割合	6 77.8%	2 22.2%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	7 7.0%	2 2.0%	100.0%	70 70.0%	20 20.0%	100.0%	70 70.0%	20 20.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	4 4.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%
	2年	合計単位数 割合	6 75.0%	2 25.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	11 11.0%	0 0.0%	100.0%	6 6.0%	0 0.0%	100.0%	6 6.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	4 4.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%
	3年	合計単位数 割合	5 75.0%	2 25.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	9 9.0%	0 0.0%	100.0%	6 6.0%	2 2.0%	100.0%	8 8.0%	9 9.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	4 4.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%
	4年	合計単位数 割合	4 71.4%	2 28.6%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	7 7.0%	2 2.0%	100.0%	75 75.0%	25 25.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	4 4.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%
5年	合計単位数 割合	4 80.0%	0 0.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	6 6.0%	0 0.0%	100.0%	4 4.0%	0 0.0%	100.0%	16 16.0%	0 0.0%	16 16.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	6 6.0%	0 0.0%	100.0%	2 2.0%	
物質工学科	1年	合計単位数 割合	5 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	6 6.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	6 6.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	3 3.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%
	2年	合計単位数 割合	6 77.8%	2 22.2%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	7 7.0%	2 2.0%	100.0%	70 70.0%	20 20.0%	100.0%	70 70.0%	20 20.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	4 4.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%
	3年	合計単位数 割合	5 75.0%	2 25.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	9 9.0%	0 0.0%	100.0%	6 6.0%	2 2.0%	100.0%	8 8.0%	9 9.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	4 4.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%
	4年	合計単位数 割合	4 71.4%	2 28.6%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	7 7.0%	2 2.0%	100.0%	75 75.0%	25 25.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	4 4.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%
	5年	合計単位数 割合	4 80.0%	0 0.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	6 6.0%	0 0.0%	100.0%	4 4.0%	0 0.0%	100.0%	16 16.0%	0 0.0%	16 16.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	6 6.0%	0 0.0%	100.0%	2 2.0%
	5年	合計単位数 割合	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	0 0.0%	1 1.0%	0 0.0%	100.0%	5 5.0%	0 0.0%	100.0%	15 15.0%	4 4.0%	19 19.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	2 2.0%	0 0.0%	100.0%
	1年	合計単位数 割合	5 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	6 6.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	6 6.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	3 3.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%
	2年	合計単位数 割合	6 77.8%	2 22.2%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	7 7.0%	2 2.0%	100.0%	70 70.0%	20 20.0%	100.0%	70 70.0%	20 20.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	4 4.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%
	3年	合計単位数 割合	5 75.0%	2 25.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	9 9.0%	0 0.0%	100.0%	6 6.0%	2 2.0%	100.0%	8 8.0%	9 9.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	4 4.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%
	4年	合計単位数 割合	4 71.4%	2 28.6%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	7 7.0%	2 2.0%	100.0%	75 75.0%	25 25.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	4 4.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%
環境都市工学科	1年	合計単位数 割合	5 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	6 6.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	6 6.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	3 3.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%
	2年	合計単位数 割合	6 77.8%	2 22.2%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	7 7.0%	2 2.0%	100.0%	70 70.0%	20 20.0%	100.0%	70 70.0%	20 20.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	4 4.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%
	2年	合計単位数 割合	6 75.0%	2 25.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	11 11.0%	0 0.0%	100.0%	6 6.0%	0 0.0%	100.0%	6 6.0%	3 3.0%	5 5.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	4 4.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%
	3年	合計単位数 割合	5 75.0%	2 25.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	9 9.0%	0 0.0%	100.0%	6 6.0%	2 2.0%	100.0%	8 8.0%	9 9.0%	1 1.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	4 4.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%
	4年	合計単位数 割合	4 71.4%	2 28.6%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	7 7.0%	2 2.0%	100.0%	75 75.0%	25 25.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	4 4.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%
	5年	合計単位数 割合	4 80.0%	0 0.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	6 6.0%	0 0.0%	100.0%	4 4.0%	0 0.0%	100.0%	16 16.0%	0 0.0%	16 16.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	6 6.0%	0 0.0%	100.0%	2 2.0%
	1年	合計単位数 割合	5 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	6 6.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	6 6.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	3 3.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%
	2年	合計単位数 割合	6 77.8%	2 22.2%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	7 7.0%	2 2.0%	100.0%	70 70.0%	20 20.0%	100.0%	70 70.0%	20 20.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	4 4.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%
	3年	合計単位数 割合	5 75.0%	2 25.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	9 9.0%	0 0.0%	100.0%	6 6.0%	2 2.0%	100.0%	8 8.0%	9 9.0%	1 1.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	4 4.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%
	4年	合計単位数 割合	4 71.4%	2 28.6%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	7 7.0%	2 2.0%	100.0%	75 75.0%	25 25.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%	0 0.0%	100.0%	4 4.0%	0 0.0%	100.0%	100.0%

(出典 カリキュラム表から抜粋)

目次	
第 2 部 微分・積分 (2 年生)	7
第 1 章 微分	9
1.1 関数の極限 (I)	9
1.2 関数の連続	11
1.3 微分係数と導関数	12
1.4 導関数の計算	13
1.4.1 基本的な関数の微分	13
1.4.2 関数の積・商の微分	14
1.4.3 合成関数の微分	15
1.4.4 $\frac{\sin x}{x}$ の極限	18
1.4.5 三角関数の微分	19
1.4.6 逆三角関数	20
1.4.7 逆三角関数の微分	20
1.4.8 極限值 e	21
1.4.9 指数関数・対数関数の微分	22
1.4.10 対数微分法	24
1.4.11 総合問題	25
1.5 微分の応用	27
1.5.1 L'Hopital の定理	27
1.5.2 関数の極限 (II)	27
1.5.3 媒介変数表示の関数の微分	29
1.5.4 n 次導関数	30
1.5.5 関数の変動	31
第 2 章 積分	33
2.1 定積分と不定積分	33
2.1.1 定積分の定義	33
2.1.2 不定積分	33
2.1.3 定積分と不定積分の関係	35
2.1.4 定積分の計算	36

(出典 秋田高専 新数学問題集 2 (第 5 版 P. 3))

資料 5-2-①-3

授業科目	必・選	学年	学科(組) 専攻	担当教員	単位数	授業時間	自学自習時間
総合英語 I General English I	必修	4 年	M・B	チェック・明子 (非常勤)	2	通年週 2 時間 (合計 60 時間)	
[教 材] 教科書:「Intensive Training for the TOEIC Test」成美堂 副教材:「ALC NetAcademy2」「新TOEICテストにできる順英単語」 その他:英和・和英辞典 自製のプリントの配布							
[授業の目標と概要] TOEICの問題演習を通して実用英語を習得する。							
[授業の進め方] 演習形式で授業を行い、小テストを随時実施する。 試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。							
[授業内容]							
授 業 項 目	時間	内 容					
授業ガイダンス・e-learning ガイダンス	1	授業の進め方と評価の仕方、ALC NetAcademy2について説明する。					
・ Intensive Training Preliminary Lesson Lesson 1写真描写問題 Lesson 2応答問題 Lesson 3 会話問題	13	現在の実力がわかる。 リスニングの写真描写問題を聴き、理解できる。 リスニングの応答問題で、質問と答えの繋がりを理解できる。 リスニングの会話問題を聴き、理解できる。					
・ ALC NetAcademy2		課題を通して英語力を確立することができる。					
前期中間試験	1	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。					
試験の解説と解答	1	前期中間試験の解説と解答					
・ Intensive Training Lesson 4説明文問題 Lesson 5短文穴埋め問題	10	リスニングの高度な説明文問題を理解できる。 リーディングにおける語法問題を理解できる。					
・ TOEIC 模擬試験	3	自分の実力を把握できる。					
・ ALC NetAcademy2		夏季休業課題を通して英語力を確立することができる。					
前期末試験	あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。					
試験の解説と解答	2	前期末試験の解説と解答、授業アンケート					
・ Intensive Training Lesson 6 長文穴埋め問題 Lesson 7長文読解問題	16	リーディングにおける高度な語法問題を理解できる。 リーディングにおける様々なトピックの読解問題を理解できる。					
・ ALC NetAcademy2		課題を通して英語力を確立することができる。					
後期中間試験	1	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。					
試験の解説と解答	1	後期中間試験の解説と解答					
・ Intensive Training Practice Testテスト対策	4	実践練習をしながら、IPテストの準備ができる。					
・ 復習	7	学習してきたことを確立することができる。					
学年末試験	あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。					
試験の解説と解答	2	試験の解説と解答、授業アンケート、本授業のまとめ					
[到達目標] 語彙を増やし、英文の意味を正確に、速く読み取る力と、TOEICスコア 350点以上の英語力を身につけるのが目標である。							
[評価方法] 合格点は60点である。各中間、期末成績を、小テスト・課題の結果を30%、リスニングテスト20%、筆記試験50%、で評価する。学年総合成績＝(前期中間成績+前期期末成績+後期中間成績+学年末成績)/4							
[認証評価関連科目] 英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、英文法Ⅰ・Ⅱ、英語LL演習、英語会話、総合英語Ⅱ、上級英語							
[JABEE関連科目] 総合英語Ⅱ、工業英語、上級英語、応用英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ							
[学習上の注意] 英語の力を付けるには多くの時間をかけなければならない事を認識する。授業の基礎となる小テストの準備をし、授業では1つでも多くの表現を習得する心構えで真剣に取り組む。							
達成しようとしている 基本的な成果	(C)	秋田高専学習 ・教育目標	D-2	JABEE基準	a, f		

(出典 平成 25 年度授業計画機械工学科 P.49)

資料 5 - 2 - ① - 4

授 業 科 目	必・選	学 年	学 科 専 攻	担 当 教 員	単 位 数	授 業 時 間	自 学 自 習 時 間																								
基礎研究 Fundamental Research	必修	4 年	M	機械工学科 全教員	2	通年週 2 時間 (合計60時間)																									
〔教 材〕 各担当教員が準備するプリント、英論文、専門書など。 〔授業の目標と概要〕 前期：機械工学関連の英語の講義と演習を行い、工業英語に慣れさせる。 後期：校外実習の経験に基づくプレゼンテーションおよび各配属先研究室での卒業研究のための学習や準備を行い円滑に卒業研究に入れるようにする。 〔授業の進め方〕 各担当教員の指示による。 〔授業内容〕 <table border="1"> <thead> <tr> <th>授 業 項 目</th><th>時 間</th><th>内 容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 機械工学関連英語</td><td></td><td>担当の複数教員により様々な機械工学関連の英文題材をもとに講義あるいは演習を行い、機械工学関連の英語が分かるようになる。</td></tr> <tr> <td>2. インターシップ報告会</td><td></td><td>夏季休業中に行った校外実習（インターンシップ）の報告会を後期の早い時期に行う。パワーポイントなどを用いて報告をし、プレゼンテーションの方法が分かる。</td></tr> <tr> <td>3. 卒業研究配属先の決定</td><td></td><td>各教員が基礎研究テーマ（卒業権につながるもの）の説明を行い、11月中には配属先を決定させる。</td></tr> <tr> <td>4. 5年生の中間発表会への参加</td><td></td><td>5年生の卒業研究中間発表会に参加し、各研究室で行われている研究を理解する。</td></tr> <tr> <td>5. 各研究室での基礎的研究</td><td></td><td>配属先の各研究室で英論文や専門書の学習、および実験方法や計算方法の学習などを行い、卒業研究に円滑に入れるよう準備する。</td></tr> </tbody> </table> 〔到達目標〕 専門分野の文献を理解できるように日本語及び英語の専門用語を修得し、専門の文献のゼミを経験し、卒業研究で使用する実験装置の使用や専門分野に特有なコンピュータ処理ができるようになること。 〔評価方法〕 各指導教員が次に示す方法で総合的に評価する。 学年総合評価＝導入教育に対する姿勢 (30%) + 読解力 (20%) + 機器の利用能力 (20%) + コミュニケーション能力 (30%) 学年総合評価で 60 点以上を合格とする。 〔認証評価関連科目〕 機械工学科の 1 - 3 年の全ての科目 〔J A B E E 関連科目〕 機械工学科の 4 - 5 年の全ての科目、卒業研究、（特別研究） 〔学習上の注意〕 前期は、英語の理解に重点を置き、後期は5年生の卒業研究の準備を主とする。 <table border="1"> <tr> <td>達成しようとしている 基本的な成果</td><td>(F)</td><td>秋田高専学習 ・教育目標</td><td>E-2</td><td>J A B E E 基準</td><td>d-2 (c)、g</td></tr> </table>								授 業 項 目	時 間	内 容	1. 機械工学関連英語		担当の複数教員により様々な機械工学関連の英文題材をもとに講義あるいは演習を行い、機械工学関連の英語が分かるようになる。	2. インターシップ報告会		夏季休業中に行った校外実習（インターンシップ）の報告会を後期の早い時期に行う。パワーポイントなどを用いて報告をし、プレゼンテーションの方法が分かる。	3. 卒業研究配属先の決定		各教員が基礎研究テーマ（卒業権につながるもの）の説明を行い、11月中には配属先を決定させる。	4. 5年生の中間発表会への参加		5年生の卒業研究中間発表会に参加し、各研究室で行われている研究を理解する。	5. 各研究室での基礎的研究		配属先の各研究室で英論文や専門書の学習、および実験方法や計算方法の学習などを行い、卒業研究に円滑に入れるよう準備する。	達成しようとしている 基本的な成果	(F)	秋田高専学習 ・教育目標	E-2	J A B E E 基準	d-2 (c)、g
授 業 項 目	時 間	内 容																													
1. 機械工学関連英語		担当の複数教員により様々な機械工学関連の英文題材をもとに講義あるいは演習を行い、機械工学関連の英語が分かるようになる。																													
2. インターシップ報告会		夏季休業中に行った校外実習（インターンシップ）の報告会を後期の早い時期に行う。パワーポイントなどを用いて報告をし、プレゼンテーションの方法が分かる。																													
3. 卒業研究配属先の決定		各教員が基礎研究テーマ（卒業権につながるもの）の説明を行い、11月中には配属先を決定させる。																													
4. 5年生の中間発表会への参加		5年生の卒業研究中間発表会に参加し、各研究室で行われている研究を理解する。																													
5. 各研究室での基礎的研究		配属先の各研究室で英論文や専門書の学習、および実験方法や計算方法の学習などを行い、卒業研究に円滑に入れるよう準備する。																													
達成しようとしている 基本的な成果	(F)	秋田高専学習 ・教育目標	E-2	J A B E E 基準	d-2 (c)、g																										

(出典 平成 25 年度授業計画機械工学科 P. 82)

資料 5 - 2 - ① - 5

授業科目	必・選	学年	学科 専攻	担当教員	単位数	授業時間	自学自習時間		
卒業研究 Graduation Research	必修	5年	M 機械工学科 全教員		9	通年週9時間 (合計270時間)			
【教 材】 各指導教員が準備または指示する文献、書物および学生が自分で探した文献									
【授業の目標と概要】 それぞれの研究を通じて新しいことを行う場合の方法を学び、物事を総合的に把握する能力、まとめる能力、プレゼンテーション能力を養成する。また、自分の専門分野を構築する。									
【授業の進め方】 各指導教員の指示による。最後に研究論文をまとめ、成果の発表を行う。									
【授業内容】									
授 業 項 目					時 間	内 容			
○ 車いす自転車に関する研究					270	左記の授業項目は、今年度に予定している卒業研究のテーマであり、各教員は2から5名の学生の研究指導をする。時間数には全体で行う中間発表、卒業研究発表の時間数を含む。			
○ セミアクティブ振動制御に関する実験的研究					270				
○ 加熱自由噴流の測定					270				
○ リハビリテーション機器の開発に関する研究					270				
○ 劣駆動ロボットの設計と制御に関する研究					270				
○ 振動減衰を目的とした制振鋼板に関する研究					270				
○ 工作機械加工空間内の空気流及び熱移動のシミュレーション					270				
○ 熱を考慮した高速回転爪チャック最適形状に関する研究					270				
○ 熱交換器に関する基礎的研究Ⅰ（強制対流熱伝達実験）					270				
○ 熱交換器に関する基礎的研究Ⅱ（沸騰熱伝達実験）					270				
○ 熱交換器に関する基礎的研究Ⅲ（強制対流可視化実験）					270				
○ 電気炉製作と高温実験手法の確立					270				
○ 塩焼石灰の特性					270				
○ 連続鋳造鋳片の中心偏析可視化のための手法探索					270				
○ 高機能デバイスに関する基礎研究					270				
○ ヒューマンメカトロニクス設計技術に関する研究					270				
○ 特殊環境下で作業するロボット基盤技術に関する研究					270				
○ 向流移動層の温度分布に関する研究					270				
○ 向流移動層の粒子挙動に関する研究					270				
○ パルス管冷凍機の動作特性とエネルギー輸送機					270				
○ 超流動液体ヘリウム中の熱流動状態					270				
○ 低温流体の混相流動における計測技術の検討					270				
○ 鋳造工程の熱応力解析					270				
○ 鋼材熱処理時の変形挙動解析Ⅰ（丸鋼等）					270				
○ 鋼材熱処理時の変形挙動解析Ⅱ（リングサンプル等）					270				
○ 福祉機器の評価に関する研究					270				
○ スポーツの動作解析に関する研究					270				
○ 精密位置決めに関する研究					270				
【到達目標】 与えられたテーマを理解する能力、自主的かつ積極的な取組姿勢、最後に総合的にまとめること及びそれを発表するプレゼンテーションができるようになること。									
【評価方法】 指導教員が次に示す方法で中間発表、卒業研究発表を通じて総合的に評価する。ただし、質疑応答での理解度および図・表・式の出来映えについては副指導教員も評価する。 学年総合評価＝理解度（15%）＋創意工夫(10%)＋達成度(10%)＋研究に対する姿勢（15%）＋論文内容(20%)＋質疑応答での理解度(20%)＋図・表・式の出来映え(10%) 学年総合評価で60点以上を合格とする。									
【認証評価関連科目】 機械工学科の1～3年の全ての科目									
【J A B E E 関連科目】 機械工学科の4～5年の全ての科目、工学実験Ⅰ・Ⅱ。（特別研究）									
【学習上の注意】 各指導教員の専門分野の技術を十分吸収するよう努めること。									
達成しようとしている 基本的な成果	(F)	秋田高専学習 ・教育目標	C-4、E-2	J A B E E 基準	d-2(b)、d-2(c)、e、g、h				

(出典 平成 25 年度授業計画機械工学科 P. 102)

2013 年 6 月 24 日

2 年生へ

微分積分学 I 担当

微分積分学 I チェックテスト

前期末試験（7/29～8/2）に向けて、20 点満点（10 分）のチェックテストを 3 回実施する。10 点未満の者は課題を提出せねばならない。日程・範囲は以下の通り。

No.	月日曜	出題箇所（問題集）	分 野	課題提出日
CT2-1	7/ 3 (水) E B	1.1～1.5	関数の極限 (I) 関数の連続	7/11 (木) M
	7/ 4 (木) M	1.7		7/16 (火) C B
	7/ 9 (火) C			7/17 (水) E
CT2-2	7/11 (木) M	1.8～1.11	微分係数と導関数 基本的な関数の微分 関数の積・商の微分	7/22 (月) B
	7/16 (火) C B	1.12～1.14		7/23 (火) E C
	7/17 (水) E	1.15～1.19		7/24 (水) M
CT2-3	7/19 (金) E	1.20～1.29	合成関数の微分	微積分 I の試験日
	7/22 (月) B			
	7/23 (火) C			
	7/24 (水) M			

(出典 教室掲示物)

資料 5 - 2 - ② - 1

「授業計画の授業経過確認」

授業経過確認

確認した学生の氏名

村井 慶之介 ㊦

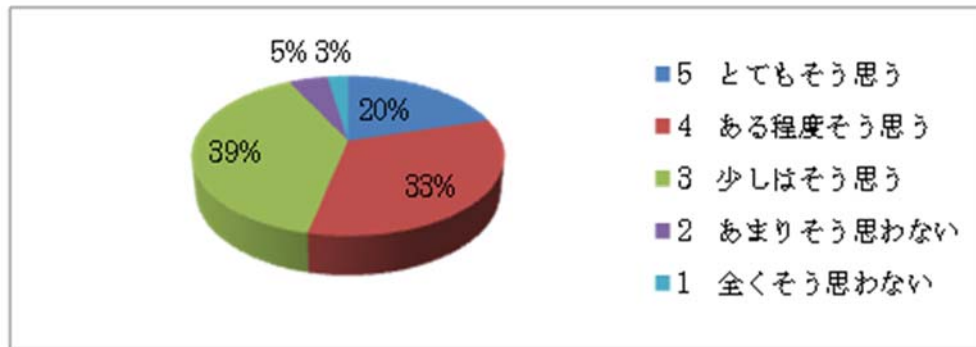
授業科目	必・選	担当教員	学年	学科	単位数	授業時間	自学自習時間	
応用解析II Applied AnalysisII	必修	成田文雄	4 年	M	2	通年週 2 時間 (合計 6 0 時間)		
【教 材】 教科書：「基礎解析学」（改訂版）（矢野健太郎、石原繁 共著、裳華房）								
【授業の目標と概要】 複素数、複素関数の基本、複素関数の微分積分の基本的な性質を修得する。								
【授業の進め方】 講義形式で演習もまじえて行う。小テストとレポート提出を行う。中間試験で合格点がとれない場合、再試験を行うことがある。								
【授業内容】								
授 業 項 目		時間	内 容					
1	授業のガイダンス	4/12 ㊦	4	授業の進め方と評価の仕方について説明する。				
	複素変数の関数	4/12 ㊦	4	複素数の四則演算ができる。㊦				
	(1) 複素数	4/12 ㊦	4	複素数の四則演算ができる。㊦				
	(2) n 乗根	5/10 ㊦	4	複素数の n 乗根を求めることができる。㊦				
(3) 数列・級数・関数	7/9 ㊦	6	無限級数の収束、発散、複素関数の極限がわかる。㊦					
前期中間試験			1	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。㊦				
2	試験の解説と解答		4	中間試験の解説と解答				
	正則関数							
	(1) 正則関数	7/9 ㊦	6	正則関数とはなにかを理解できる。㊦				
	(2) コーシー・リーマンの方程式	7/9 ㊦	6	コーシー・リーマンの方程式を利用できる。㊦				
(3) 基本的な正則関数	7/9 ㊦	6	いろいろな正則関数があることがわかる。㊦					
前期末試験		あり		上記項目について学習した内容の到達度を確認する。㊦				

(出典 JABEE 資料)

資料 5 - 2 - ② - 2

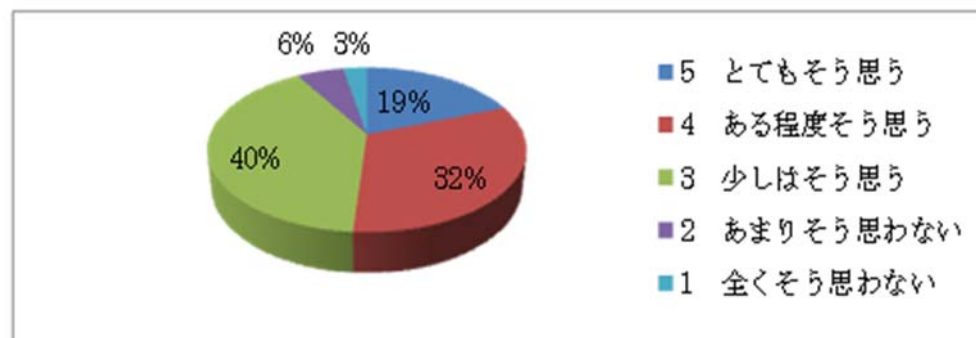
<講義科目>

Q3 授業のガイダンスにおいて先生はシラバスを活用していたと思いますか



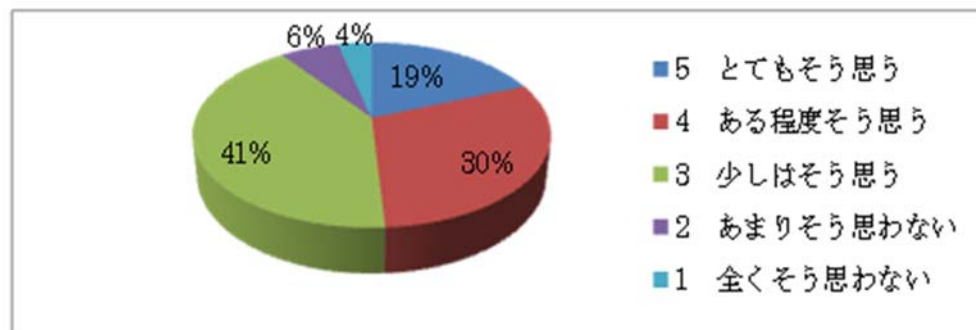
回答数：9378 人

Q4 授業のガイダンスにおいてシラバスの内容を理解したと思いますか



回答数：9382 人

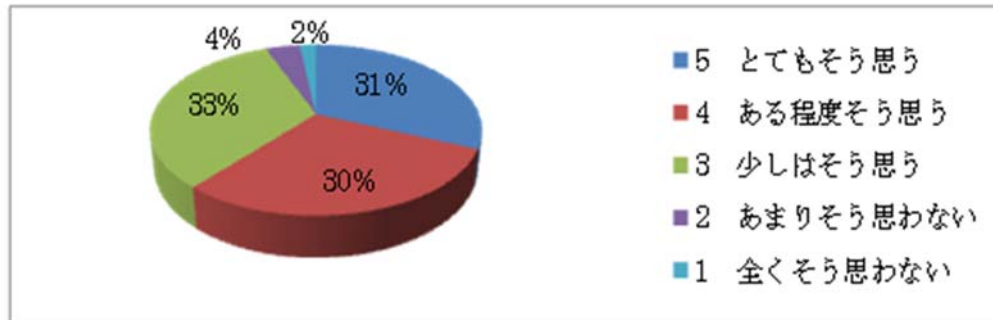
Q5 シラバスを見ることで評価方法や授業の進行状況の把握や理解の助けになったと思いますか



回答数：9387 人

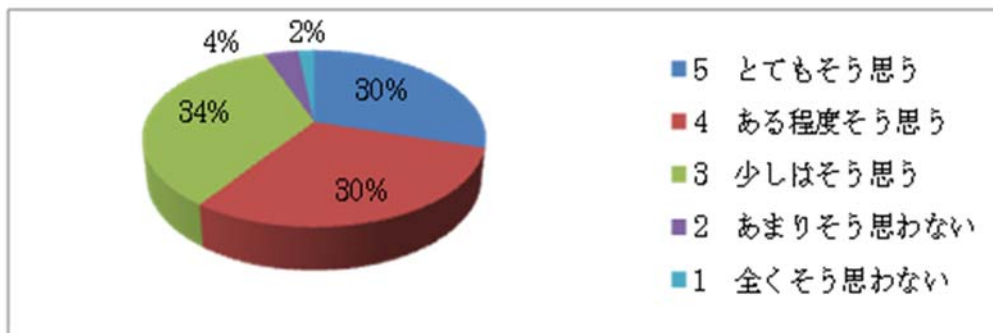
<体育科目>

Q1 授業のガイダンスにおいて先生はシラバスを活用していたと思いますか



回答数：671 人

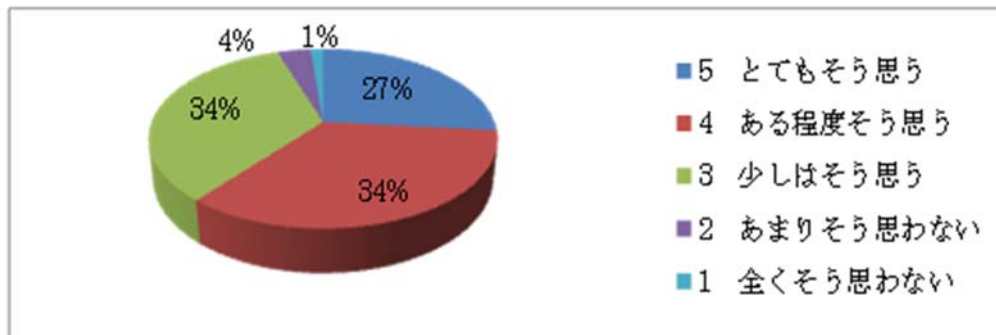
Q2 授業のガイダンスにおいてシラバスの内容を理解したと思いますか



回答数：671 人

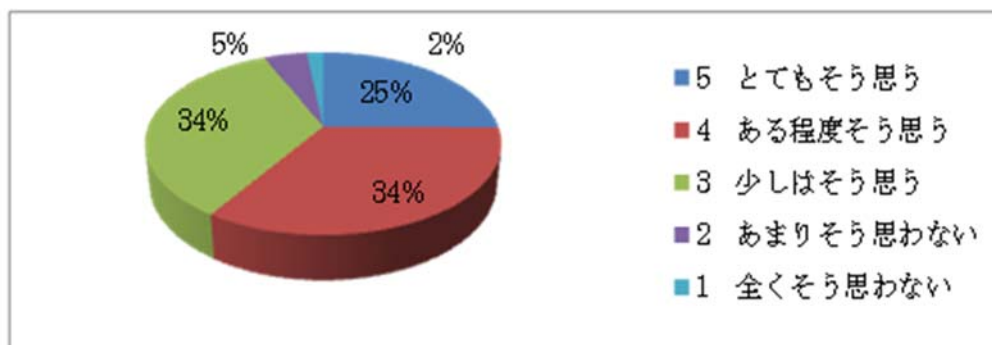
<実験科目>

Q3 実験・実習のガイダンスにおいて先生はシラバスを活用していたと思いますか



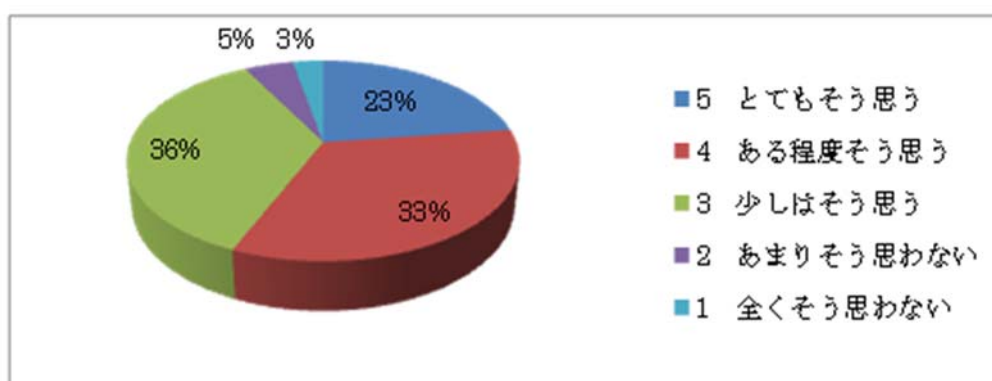
回答数：1192 人

Q4 実験・実習のガイダンスにおいてシラバスの内容を理解したと思いますか



回答数：1193 人

Q5 シラバスを見ることで評価方法や実験・実習の進行状況の把握や理解の助けになったと思いますか



回答数：1194 人

(出典 授業アンケート調査結果 平成 24 年度版より抜粋)

資料 5 - 2 - ③ - 1

「第 1 学年のものづくり教育科目一覧」

ものづくり教育 第 1 学年

学 科	授 業 科 目	単 位 数
機械工学科	工作実習 I	2
電気情報工学科	ものづくり工作実習	2
物質工学科	ものづくり工作実習	2
環境都市工学科	ものづくり実習	2

(出典 平成 25 年度学生便覧 P. 93～96 から作表)

資料 5-2-③-2

授 業 科 目	必・選	学 年	学 科	担 当 教 員	単 位 数	授 業 時 間	自 学 自 習 時 間
創造設計製作 Mechanical Design and Technology	必修	3 年	M	土 田 一 今 田 良 徳	2	後期週 4 時間 (合計 60 時間)	
[教 材] 基礎シリーズ「機械実習 上・中・下」 嵯峨常生, 中西佑二監修 実教出版 「機械製図」, 林 洋次 他, 実教出版							
[授業の目標と概要] 与えられた課題を満足する 1 台の機械を設計・製作する。これにより専門的な知識と技術の深化, 統合化を図るとともに, 問題解決の能力や自発的, 創造的な態度の育成を図る。また, グループでの製作活動を通して, 工程管理並びに生産技術に関する基礎的概念を修得する。							
[授業の進め方] 実習形式で行う。グループ毎に計画を立てながら行う。課題レポートの提出を求める。							
[授業内容]							
授 業 項 目	時 間	内 容					
授業ガイダンス	2	授業の進め方と評価の仕方について説明する。					
1. 安全教育	2	工場作業における基本的約束を理解し, 常に安全に気を配りながら製作活動を行う姿勢を身につける。					
2. 設計仕様策定・製作計画	6	与えられた課題をどのようにして解決するかを図面上で討議することができる。 図面を基にして製作の工程を考えることができる。					
3. 設計案発表会	2	プレゼンテーション能力を養う。					
4. 図面作成・使用材料選定	10	品物を第三角法によって図面に表現できる。 目的に合った材料, 部品を選定できる。 組み立てを意識しながら, 部品の形状を決定できる。					
5. 製 作	32	図面にしたがって部品を製作することができる。 部品を適切な加工法を選定し, 精度よく加工できる。 設計段階で考えることができなかった不具合を, 臨機応変に設計変更し, 製作することができる。					
6. コンテスト	2	設計・製作した機械の能力を説明できる。 製作した機械の能力を生かし, 競技することができる。					
7. 課題レポート作成	4	自己で行った, またはグループで行った製作活動(設計, 製図, 加工)について客観的に評価・反省し, 集団での製作活動の在るべき姿勢を身につける。 報告書の書き方を身につける。 本授業のまとめと授業アンケート					
[到達目標] 構想を実現化するため, 思い描いている品物を図面化したり, その図面にしたがって製作する品物を効率よく正確に製作できるようになること。共同活動を効率よくできるようになること。							
[評価方法] 合格点は 50 点である。課題レポート 50%, 製作日誌の内容 10%, 平素の活動の状況 20%, 製作した機械の完成度 10%, コンテストでの順位 10% の割合で評価する。特に, レポートの未提出者は単位取得が困難となるので注意すること。 学年総合成績 = 課題レポート × 0.5 + 製作日誌の内容 × 0.1 + 平素の活動状況 × 0.2 + 機械の完成度 × 0.1 + コンテスト順位 × 0.1							
[認証評価関連科目] 工作実習Ⅰ, 工作実習Ⅱ, 工学実験Ⅰ, 工学実験Ⅱ, (生産システム工学特別実験), (創造工学演習), (特別研究)							
[JABEE 関連科目]							
[学習上の注意] 製作活動は主体的に行うこと。製作の時間は授業時間のみでは足りないと考えられるため, 放課後等を利用して積極的に取り組むこと。							
達成しようとしている 基本的成果	(E)	秋田高専学習 ・教育目標			JABEE 基準		

(出典 平成 25 年度授業計画機械工学科 P.75)

資料 5 - 2 - ③ - 3

精留塔を自ら操作する「化学工学実験」



(出典 物質工学科教員資料)

資料 5 - 2 - ③ - 4

授 業 科 目	必・選	学 年	学 科 専 攻	担 当 教 員	単 位 数	授 業 時 間	自 学 自 習 時 間
意匠設計Ⅱ Design and Drawing Ⅱ	必修	3年	B	井上 誠 恒松 良純	1	後期週2時間 (合計30時間)	
[教 材] 教科書：「コンパクト設計資料集成」日本建築学会編 丸善 その他： 必要資料を適宜配布する							
[授業の目標と概要] 建築設計で用いる基本的な製図方法と図面のきまり、表現方法を整理し、分かりやすい建築図面の作成を修得する 建築設計を遂行する上で必要な諸機能の整理、面積の調整など、企画からプレゼンテーションまでの、一連の作業を修得する。 敷地条件から使用者、社会、気候風土との関係を読み取り、公共性の高い空間の設計を修得する。							
[授業の進め方] 各課題のはじめに講義を行ない、その後、演習形式を中心に行なう。 必要に応じて、エスキースの提出など、進行状況が把握できるものの提出を求める。 最終的な図面が合格基準に達しない場合、再提出を課すことがある。							
[授業内容]							
授 業 項 目		時 間	内 容				
授業ガイダンス		1	授業の進め方と評価の仕方について説明する。				
1 課題1 (公共空間)		1	課題1の趣旨および評価基準について説明する。				
(1) 先行事例の紹介		1	公共的な空間の事例紹介を学ぶ。				
(2) 敷地の分析		2	敷地状況の把握と分析ができる。				
(3) 機能の計画と空間の設計		2	必要と思われる機能の計画と空間構成ができる。 (中間提出)				
(4) プレゼンテーションボードの作成		6	(3)の建築空間を、様々な手法を用いて分かりやすく表現できる。				
課題1提出		1	評価基準を過不足なく満たした設計図書を提出する。				
2 課題2 (住宅)		1	課題2の趣旨および評価基準について説明する。				
(1)住宅の企画		3	また、プレゼンテーション手法について学ぶ。				
(2)住宅の設計		6	敷地などの与条件から、構造や必要機能の整理ができる。 1で整理した機能を充足する建築空間の設計ができる。 (中間提出)				
(3) プレゼンテーションボードの作成		6	2の建築空間を、様々な手法を用いて分かりやすく表現できる。				
課題2提出		1	評価基準を過不足なく満たした図面を提出する。 本授業のまとめ、および授業アンケート。				
後期期末試験		なし	-				
[到達目標] 建築単体のほか、外部空間や周辺状況を読み解き、それらを反映した建築空間を順序立てて考えられるようになること。 また、作図する上で、図面の配置レイアウトについての重要性を学ぶ。なお、各々の作品は、設計競技に応募できる内容と仕上げであることが望ましい。							
[評価方法] 合格点は50点である。 総合評価は、各課題の評価の平均を全体の80% (最終提出70%、中間提出10%) とし、授業態度を20%として評価する。特に、レポートや課題の未提出者は単位取得が困難となるので注意すること。							
[認証評価関連科目] 意匠設計Ⅰ、建築系演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ							
[JABEE関連科目]							
[学習上の注意] 多くの図面を閲覧し、設計者が計画意図をどのように表現しているか参考にすること。また、単位寸法に注意して人体スケールを把握すること。特に、授業時間外での検討が重要であるので日々の生活での空間の利用を意識すること。 指定された提出期限は厳守すること。遅れた場合は不利を被る場合がある。							
達成しようとしている 基本的な成果	D	秋田高専学習・教育目標			JABEE基準		

(出典 平成 25 年度授業計画環境都市工学科 P.75)

資料 5 - 2 - ③ - 5

「電気情報工学科実験実習風景（FPGA 学習風景）」



（出典 電気情報工学科担当教員資料）

資料 5 - 2 - ③ - 6

「ワンチップマイコンの実習」



（出典 電気情報工学科担当教員資料）

資料5-2-③-7

平成25年度 校外実習参加学生名簿

No	企 業 名	参 加 学 生 氏 名			
1	秋田印刷製本(株)	4M 猪 俣 克 明	4M 澤 谷 みのり		
2	秋田エプソン(株)	4M 佐々木 良 太	4M 佐 藤 宏二朗		
3	秋田県健康環境センター	4B 越 後 智 恵	4B 平 川 奈津子		
4	秋田県総合食品研究センター	4C 戸 祭 あすみ	4C 山 谷 鴻 介		
5	秋田県庁	4B 須 藤 啓 資	4B 中 村 捺 美	4B 三 浦 康 人	
		4B 山 下 瑠 太			
6	秋田県立大学木材高度加工研究所	4B 工 藤 寛 大			
7	一般社団法人 秋田県林業コンサルタント	4B 土 田 良 太	4B 照 井 雅 人		
8	秋田市役所	4M 三 浦 捷 人	4B 石 井 聖	4B 小 野 聖 斗	
		4B 木 島 璃 依			
9	(株)秋田放送	4E 工 藤 涼 太	4E 菅 原 潤		
10	曙ブレーキ工業(株)	4M 保 坂 健 太			
11	東電化工業(株)	4C 門 松 幸 太			
12	出光興産(株)北海道製油所	4C 戸井田 和 也	4B 佐 藤 祐 人	4B 村 上 雄 哉	
13	宇部興産(株)千葉石油化学工場	4C 須 藤 誠 也			
14	ANAライオンメンテナンス(株)	4M プラザモン タバット			
15	(株)エフエム秋田	4M 住 吉 瑛	4M 高 橋 圭 介	4E 三 浦 翔 平	
16	大阪ガス(株)	4E 村 井 啓之介			
17	男鹿市役所	4B 小山田 佳 奈	4B ノール マズニ		
18	小川香料(株)	4C 越 前 いずみ			
19	オムロンエレクトロニクス(株)	4E 鶴 田 総一郎			
20	花王(株)	4M 安 田 周 平	4C 成 田 知 広		
21	鹿島建設(株)東北支店	4B 伊 藤 駿	4B 古 屋 雄 人		
22	極東石油工業(同)	4M 泉 泰 秀	4C 坂 根 穰		
23	京セラ(株)福島梱包工場	4E 鈴 木 耕 也			
24	(株)クラレ新潟事業所	4C 工 藤 翔 翔			
25	キリン協和フーズ(株)	4C 伊 藤 翔 馬			
26	(株)鴻池組東北支店	4B 佐 藤 優			
27	国土交通省東北地方整備局	4B 高 橋 直 希	4B 堀 祐 輔	4B 松 浦 洋 人	
		4B 渡 部 真 人			
28	コスモ石油(株)千葉製油所	4M 奈 良 佳 祐	4E 工 藤 晃 鷹		
29	コニシノビテックソリューションズ(株)	4M 小 熊 裕 貴			
30	COM電子開発(株)	4E 西 島 翔	4E 大 和 凌		
31	三洋化成工業(株)	4C 山 口 優 汰			
32	(株)ジェイベック	4E 荒 木 雄 志			
33	ジェイベル東日本コンテナ(株)	4B 小河原 峻 汰			
34	JSR(株)千葉工場	4C 小 松 力 也			
35	JNC石油化学(株)市原製造所	4M 福 田 翔	4C 小 畑 茜		
36	JBCホールディングス(株)	4E 渡 辺 拓 希			
37	(株)柴田組	4B 福 田 太一朗			
38	清水建設(株)東北支店	4B 相 場 広 夢			
39	昭和電工(株)川崎事務所	4M 加 藤 翔			
40	新日鐵住金(株)	4M 齋 藤 圭 祐			
41	新日鐵住金(株)釜石製鉄所	4E 原 田 宙 也			
42	JXエンジニアリング(株)	4M 山 岡 慶 司	4B 川 辺 瞭 人		
43	JX日鉱日石エネルギー(株) 中央技術研究所	4M 赤 川 祐 太	4C 本 間 保 裕		
44	(株)スズキ部品秋田	4M 鈴 木 諒 介	4M 村 上 拓 也		
45	住友化学(株)千葉工場	4C 星 一 馬			
46	住友精化(株)	4M 大 高 駿	4C 吉 田 拓 也		

平成25年度 校外実習参加学生名簿

No	企 業 名	参 加 学 生 氏 名
47	星光PMC (株)	4C 柳 原 港 太
48	(株) 総合技術コンサルタント	4B 袴 田 武 大
49	ソライズエンジニアリング (株)	4E 畑 中 啓 輔
50	第一三共プロファーマ (株) 秋田工場	4C 木 村 有 伽
51	ダイキン工業 (株)	4M 畠 山 翔 4E 渡 邊 紫 乃
52	大成建設 (株) 東北支店	4B 芦 野 将 一 4B 鎌 田 啓 市 4B 松 川 直 樹
53	大日精化工業 (株)	4C 三 浦 孝 遥
54	大和製罐 (株)	4C 飯 尾 真 也
55	(株) 多加良製作所	4M 千 葉 恵 太 4C 千 田 竜 平
56	(株) 竹中工務店東北支店	4M 加 藤 洋 祐
57	タマボリ (株)	4M 草 階 彬 4E 宮 崎 航 平 4C 村 田 直 也
58	地熱エンジニアリング (株)	4C 堀 野 俊 希
59	(株) チバ・テクノ湯沢工場	4M 村 上 舜 4E 菊 地 優 太朗
60	中部電力 (株)	4E 菊 地 裕 輝
61	千代田化工建設 (株)	4M 菅 原 功 太
62	(株) ツムラ	4C 加 賀 谷 祐 斗
63	DIC (株)	4C 夏 井 友 里 奈
64	デジタルサーカス (株)	4E 北 川 祐 紀
65	(株) 東海理化	4E 袴 田 悠 斗
66	東北大学	1S 佐 藤 丈 実
67	東燃ゼネラル石油 (株) 東燃化学 (同)	4E 和 泉 達 也 4C 堀 涼 太
68	東部ガス (株)	4C 石 川 亮 太 4C 伊 藤 優 汰
69	一般財団法人 東北電気保安協会秋田事業本部	4E 熊 谷 峻 4E 小 林 陽 介
70	東洋水産 (株)	4M 菅 原 英 純
	(株) 東陽電装	4M 菅 野 誠 人
71	東レ (株)	4C 熊 谷 和 礼
72	DOWAセミコンダクター秋田 (株)	4M 鎌 田 涼 太 4C 中 山 稔 梨
73	(株) トラバンツ	4E 吉 田 将 大
74	豊橋技術科学大学	4C 佐々木 健 也
		4E 齋 藤 太 朗 4E 柴 田 晃 4E 寺 田 樹
75	長岡技術科学大学	4C 飯 澤 仁 規 4C 小 林 尚 広 4C 佐々木 伯 大
		4C 眞 田 郁 央 4C 箱 石 優 作 4C 畑 本 和 哉
76	新潟造船 (株)	4M 齊 藤 諒 4E 大 野 隆 秀 4E 櫻 田 光 貴
77	にかほ市役所	4E 横 山 悠 貴
78	(株) NIPPON 東北支店	4B 佐 藤 慈
79	西松建設 (株) 北日本支社	4B 伊 藤 啓 吾
80	日東電工 (株) 関東事業所	4C 佐々木 彩 也香
81	日発精密工業 (株) 横手工場	4M 後 藤 将 太
82	(株) 日本色材工業研究所	4C 児 玉 千 海
83	(株) 日本触媒川崎製造所	4C 鈴 木 禎 人
84	日本信号 (株)	4E 松 橋 翔 平
85	日本精工 (株)	4M 武 藤 極
86	日本ゼオン (株) 川崎工場	4C 鈴 木 健
87	日本たばこ産業 (株) 北関東工場	4E 福 田 航 平
88	日本バイリーン (株) 東京工場	4C 村 山 良 優
89	(株) 杉本・エンジニアリング 東北	4B 小笠原 永 人
90	東日本高速道路 (株)	4B 工 藤 捷
91	東日本電信電話 (株) 秋田支店	4M 福 田 壮 平 4E 白 鳥 翔 4E 三 浦 俊
		1S 梅 木 陽

平成25年度 校外実習参加学生名簿

No	企 業 名	参 加 学 生 氏 名		
92	(株) 日立製作所	4E 高 橋 光 夫		
93	富士電機 (株)	4M 竹 原 晃		
94	(株) ブルーフあいアーキテツ	4B 荒 川 良 祐	5B 菊 地 崇 寛	
95	Pengurus (マレーシア)	4C フライビリティス・マレー		
96	前田道路 (株) 東北支店	4M 吉 田 亮 介		
97	丸善石油化学 (株) 千葉工場	4E 佐 藤 竜 騎		
98	(独) 水資源機構	4B 杉 山 未 紗		
99	三井住友建設 (株)	4B 田 邊 直 也		
100	三菱重工業 (株)	4M 小 松 晃 大		
101	三菱重工環境・化学 エンジニアリング (株)	4M 板 垣 来 翼		
102	三菱地所コミュニティ (株)	4B 今 慎之介		
103	三菱電機ビルテクノサービス (株)	4E 武 曾 将 也		
104	宮本土木 (株)	4B 川 村 航 大		
105	村田機械 (株)	4M 長谷川 俊 幸		
106	ムラテックCCS (株)	4E 富 岡 慶 介		
107	(株) 明電舎	4M 成 田 伸		
108	(株) 森精機製作所	4M 佐 藤 佳 織		
109	(株) 友伸エンジニアリング	4E 澤田石 達 也		
110	湯沢市役所	4B 中 川 稔 希		
111	由利本荘市役所	4B 木 島 瑠 依		
112	(株) リガク	4M 小 玉 翔 太		

(出典 学生課教務係資料)

資料 5 - 2 - ③ - 8

「平成 25 年度校外実習発表会案内」

インターンシップ発表会

日 時：10月26日（土）・27日（日）

展 示：26日（パネル展示）

発 表：27日 11：00～12：00

14：00～15：00

場 所：4B教室（講義室棟3F）

本科学生が企業・大学での体験実習について報告致します。
是非、お越しください。

（出典 高専祭におけるインターンシップ（校外実習）発表会ご来場のご案内）

資料 5-3-①-1

「平成26年度授業時間割表（前期）」

[illegible]

(出典 平成 26 年度授業時間割表 (前期))

資料 5 - 3 - ① - 2

「平成 25 年度前期特別活動計画書」

平成 25 年度前期特別活動施設利用計画書

クラス： 1年1組 学級担任名 小林 貢

※学年により、特別活動の時間帯に行事が入っている場合がありますのでご注意ください。

(1～3年学級用)

月	日	学校行事	使用場所	備考
4月	10日 (水)	対面式・学生総会 (7・8限) 尿検査(全校)		
	17日 (水)	自転車ダブルロック確認及び ステッカー貼付・連絡・ 身体測定(身長、体重、座高、視 力、聴力)	駐輪場・第1体育館 他	
	24日 (水)	1学年学級対抗大縄飛び大会	第1体育館	学年行事
5月	8日 (水)	アンケート・諸連絡		
	15日 (水)	作文「自分を見つめる」・諸連絡		
	22日 (水)	前期中間試験対策・諸連絡		
	29日 (水)	前期中間試験対策・諸連絡		
6月	5日 (水)	前期中間試験総括・諸連絡		
	12日 (水)	校内外大清掃	教室・グラウンド	校内外大清掃
	19日 (水)	性教育講演会(1年 7限)	大講義室	注) 1年は性教育講演会
	26日 (水)	担任講話・諸連絡		防災避難訓練
7月	3日 (水)	結団式・壮行会(7限)		
	17日 (水)	体育大会報告会 全国大会壮行会(7限)		
	22日 (月)	水曜授業 前期末試験対策		
8月	5日 (月)	水曜授業 前期末試験総括 夏休み諸注意		

(出典 平成 25 年度前期特別活動計画書)

資料 5 - 3 - ① - 3

「平成 25 年度新入生合宿研修実施要項」

平成 25 年度 新入生合宿研修実施要項

1. 趣 旨

- (1) 本研修各プログラムを通じ、教員と新入生相互の意志疎通を図り、高専生活の意義と目的の理解に資する。
- (2) 合宿生活を通じ、集団生活における規律を体得させることを図り、高専生活への速やかなる適応に資する。

2. 日 程 平成 25 年 4 月 8 日 (月) ～ 9 日 (火)
(別紙日程表のとおり)

3. 講 演

演 題 「インターネットとの上手な付き合い方
ー情報セキュリティーポリシーと個人情報ー」
講 師 情報処理センター長 山崎博之 先生

4. 会 場 ユースパル (秋田県青少年交流センター)
〒011-0905 秋田県秋田市寺内神屋敷 3 - 1 TEL018-880-2303

5. 参加者 学生 平成 25 年度本科 1 年生 168 名
学科 5 年生 (引率学生) 8 名
教職員 校長、教務主事、学生主事、
情報処理センター長、学生相談室長、
学生主事補 (2 名)、1 学年学級担任 (4 名)、
各代表教員 (4 名)、事務局 (2 名) 17 名
合計 193 名

6. 経 費 1 人当たり約 6,000 円
(内訳: 宿泊費 2,520 円、食事代 2,625 円、国内旅行保険料 155 円)
新入生合宿研修終了後に精算の上、徴収する予定である。

7. 服装・携行品

服 装: 制服

携行品: 保険証の写し、筆記用具、学生便覧、授業計画 (シラバス)、
体育着上下、運動靴 (屋内用)、洗面具 (タオル類含む)
乗り物酔い止めの薬 (必要な人のみ)、雨具

(出典 平成 25 年度新入生合宿研修実施要項)

資料 5 - 3 - ① - 4

「平成 2 5 年度工場見学計画書 4 C」

平成25年度 工場見学旅行計画書						
月 日	見学先	見学先所在地	依頼状送付先	学科名		引率者
				物質工	見学時間	
10 月 2 日 (水)	昭和電工(株) 川崎事業所	〒210-0867 神奈川県川崎市川崎区扇町5-1 TEL 044-322-6813	〒210-0867 神奈川県川崎市川崎区扇町5-1 担当氏名 総務部総務グループ 藤岡 優太郎 様 TEL 044-322-6810 (内線)7810-2215	14:30~16:00	昼食の有無	上松 仁 鈴木祥子 藤井瑞香
					※初日の、昼食は新幹線内にて弁当の予定	昼食は新幹線 横浜マシナ
10 月 3 日 (木)	JX日鉱石エネルギー(株) 中央研究所	〒231-0815 横浜市中区千鳥町8番地 TEL 045-625-7111	〒231-0815 横浜市中区千鳥町8番地 担当氏名 研究サポートグループ 渡辺孝啓 様 TEL 045-625-7114	10:00~11:45	横浜赤レンガ(昼食)	
	味の素(株) 川崎工場	〒210-0801 神奈川県川崎市川崎区鈴木町1-1 TEL 0120-003476	〒210-0801 神奈川県川崎市川崎区鈴木町1-1 担当氏名 見学グループ 山口美世子 様 TEL 0120-003476	14:30~16:00	ハールホテル	
10 月 4 日 (金)	大日精化工業(株) 東京製造事業所	〒123-8555 東京都足立区堀之内1-9-4 TEL 03-3899-1111	〒103-8383 東京都中央区日本橋馬喰町1-7-6 担当氏名 総務・人事部室 三津田 耕士 様 TEL 03-3662-7111	9:45~12:30	見学先にて昼食	
	東京都水道局 みやぎ水再生センター	〒120-0047 東京都足立区宮城2-1-14 TEL 03-3919-7458 (見学受付窓口:03-3241-0944)	不要	13:30~15:00	東京駅にて	
※1 「依頼状送付先」欄には、係名、電話番号まで詳細に記入してください。 ※2 「昼食の有無」欄には、手配先(見学先、旅行会社)、昼食場所についても記入してください。						

(出典 学生課資料)

資料 5－3－①－5

「各種講演会」

平成 2 4 年 1 1 月 1 2 日

教職員 各位

学 生 主 事

薬物乱用防止講演会の開催について（通知）

本科 2 年生及び希望教職員を対象に、標記講演会を下記のとおり開催しますので、ご出席ください。

記

1. 実施目的 薬物乱用の恐ろしさを徹底させ、生涯、薬物乱用と縁のない生活態度を徹底させることを目的とする。
2. 期 日 平成 2 4 年 1 2 月 1 2 日（水） 1 4 時 5 5 分～1 5 時 4 5 分
3. 場 所 本校大講義室
4. 対 象 者 2 年生（1 6 6 名）及び希望教職員
5. 講 師 医療法人久盛会（きゅうせいかい）秋田緑ヶ丘病院副院長
高 橋 賢 一（たかはし けんいち）氏
6. 演 題 『薬物依存症』

平成 2 5 年度講演会開催計画

第 1 学年	性教育講演会 禁煙教育講演会
第 2 学年	薬物乱用防止講演会
第 3 学年	共同教育講演会
第 4 学年	就職講演会
第 5 学年 専攻科	最先端技術講演会
全学年	特別講演会

（出典 平成 25 年度年間計画書）

資料 5-3-①-6

「秋田工業高等専門学校の組織」

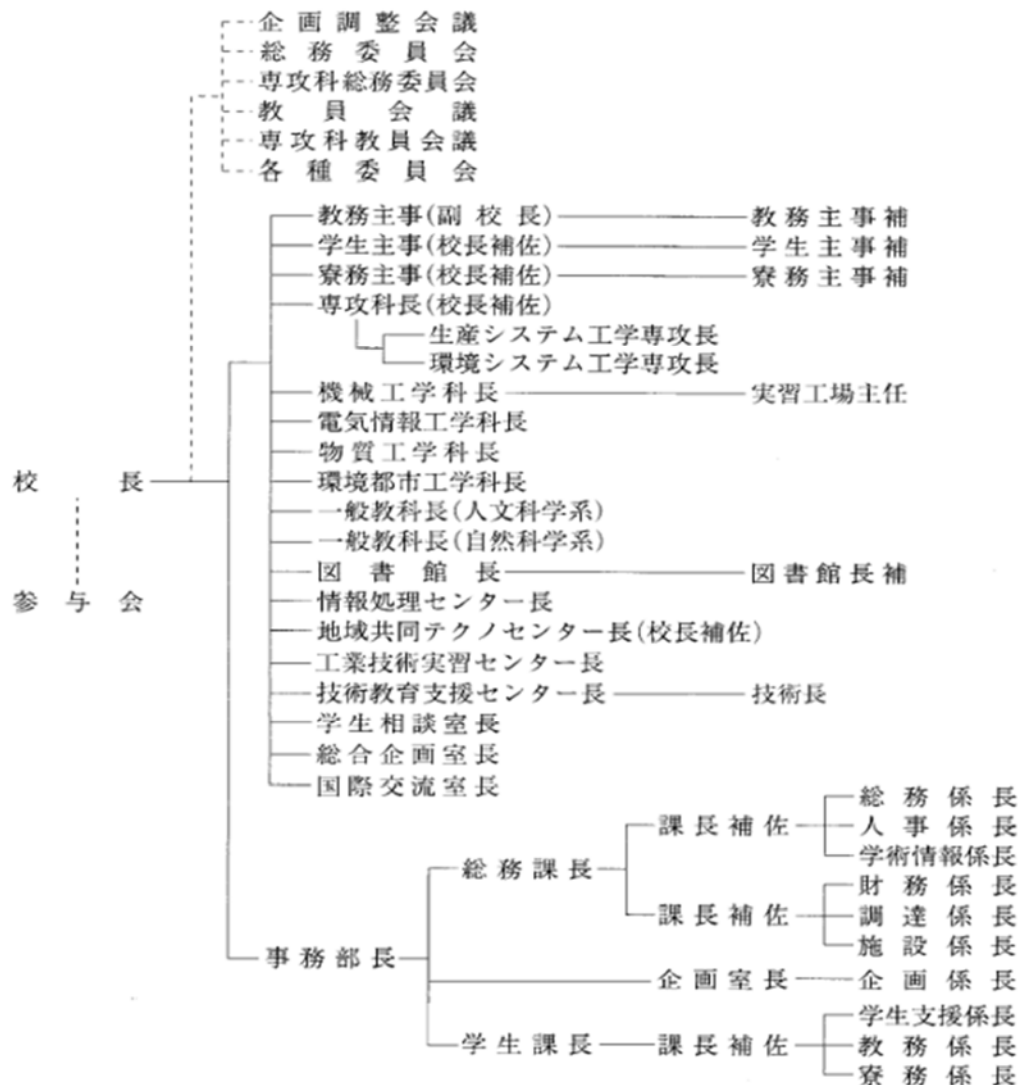
15. 秋田工業高等専門学校の組織

(1) 組織と業務

1. 管理組織

校長は本校の長であって、あらゆる問題が校長の決裁と責任にかかっている。なお、校長補佐する者及び組織として教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、地域共同テクノセンタール長及び事務部が置かれている。

また、高等専門学校においては、学科・学年・学級別に編成し、直接の学生生活の指導に専任教員が行っている。



2. 事務組織とその業務

学校運営に必要な事務を処理するため、事務部長の下に総務課、学生課、企画室の2課一室（事務部と称す）が置かれている。

このうち学生諸君が5年間の高専生活を送る上に最も密接な関係のある学生課の業務内容は、次のとおりである。

学生課には教務係、学生支援係、寮務係の3係があり、一口に言えば学生に対するサービス業務を行っている。

教務係においては学生の募集及び入学者選抜、教育課程の編成及び授業、学生の指導要録の整理・記録及び保管、学生の学業成績の整理・記録及び保管、学生の進学、学生の諸証明、学生の校外実習並びに工場見学等に関する事務を行っている。

学生支援係は学生の課外活動、授業料の減免・徴収猶予及び経済援助、奨学金、学生旅客運賃割引証及び通学証明書等、学生の就職、学生の保健管理及び保健施設の管理運営等に関する事務を行っている。

寮務係は学生の入退寮、学生寮の管理運営、寮生の給食・栄養指導及び衛生、所掌事務に係る調査統計及び諸報告等に関する事務を行っている。

以上のように、学生課の業務は学生と極めて関係が深いので大いに利用して欲しい。

その他学生に関係のある係の業務内容は次のとおりである。

総務課学術情報係

図書館資料（図書・雑誌・CD等）の閲覧及び貸出、整理保管等。

総務課財務係

授業料、寄宿料等の徴収。

（出典 平成25年度学生便覧 P.139～140）

資料 5 - 3 - ① - 7

「校訓」

SEARCH

校 訓

Sincerity, Enterprise, Accountability

誠実 創造 責任

Research, Cooperation, Health

研究 協働 健康

教 育 理 念

Independence, Challenge, Creativity

自 立 ・ 挑 戦 ・ 創 造

(出典 平成 25 年度学生便覧 P. 1)

5. 学生の諸心得

(1) 挨拶の励行

1. 学生は、教職員に対しても学生間においても挨拶をすること。
2. 来客者に対しては挨拶をし、丁寧に応接すること。

(2) 自動車・自動二輪車による通学について

〔本科生〕

自動車・自動二輪車による通学（課外活動の場合も含む）は堅く禁止する。自動車、自動二輪車で通学した場合は、処分の対象となる。

〔専攻科生〕

学外の駐車場を確保すれば、自動車・自動二輪車による通学を許可制で認める。無許可の自動車・自動二輪車による通学は、処分の対象となる。

〔特例措置〕

本科生及び専攻科生で、怪我によりやむを得ず自動車を利用して通学せざるを得ない場合は、自動車による通学を特別に許可する場合もあるので、学生主事に許可を願い出ること。

(3) 原動機付自転車（バイク）による通学について

やむを得ない事情を有し、以下の手続に従って許可された者については50cc以下のバイクに限り認めることがある。その際、年々交通事情が悪化し交通事故等多発していることを考慮しバイクの利用者は交通法規、交通道德を守り、各自の自覚により常に安全運転に留意し、交通事故、違反等の防止に心がけてもらいたい。

ただし、1年生に対しては、教育上の理由と安全面を考慮し、バイク通学を許可しない。

〔バイク通学の許可条件〕

バイクによる通学は原則として公的交通機関の利用では通学に著しい支障がある者に限る。

〔バイク通学の手続き〕

バイクで通学しようとする者は、「バイク通学許可願」（以下「許可願」という。）を学級担任を経由して学生支援係に提出すること。バイク通学を許可するかどうかは審査の上決定する。審査を通った者については、安全運転誓約書の提出を求めるので保護者連署の上学生支援係に提出し、

許可証として学校指定のステッカーの交付を受けること。ただし、許可願の提出時期は原則として年 2 回とし、これ以外の期間は受け付けないので注意すること。

〔遵守事項〕

1. 許可を受けた者は、交付されたステッカー（車体用、ヘルメット用の 2 種）をバイクの指定の場所とヘルメットに貼付すること。車種を変更した時、及びステッカーを紛失したときは許可願を再提出し、ステッカーの再交付を受けること。
2. ステッカーの有効期限は、許可を受けた年の年度末とする。
3. 使用するバイクの名義は、本人もしくは家族のものであること。
4. バイクの運転に適した服装をし、ヘルメットを必ず着用すること。
5. バイクの安易な貸し借りをしないこと。
6. 構内では極力音を抑えて徐行運転を心がけること。
7. バイクは学校所定の場所に置き、登下校以外の時間には運転しないこと。
8. 積雪期は危険なためバイクに乗らないこと。
9. 交通事故を起こしたとき、交通違反をしたときは速やかに学級担任に届けること。
10. その他、学校が指示する事項。

〔違反者に対する注意事項〕

上記の遵守事項に違反した者に対してはバイク通学の許可を取り消すことがある。

許可を受けずにバイクで通学し、構内及び学校周辺の道路上や空地に無断駐車する者については厳罰に処することもある。

〔免許取得〕

原付、普通二輪、普通免許等の運転免許取得のため授業中に出かけることは禁止する。放課後、休日、長期休業期間などを利用して教習、試験などを受けること。

なお、普通運転免許については 3 年修了の春休み以降とする。

〔免許届出〕

原付、普通二輪、普通免許等の運転免許を取得した場合は学級担任を経由して「免許取得届」を学生支援係に提出すること。

（4）自転車の利用について

自転車で通学するときは次のことを守ること。

〔遵守事項〕

1. 利用者は、防犯登録番号（または車体番号）を学生支援係に提出し、所定のステッカーの交

付を受けること。そのステッカーは、車体の後部の見やすい位置に貼付すること。また、ステッカーを紛失したときは再交付を受けること。

2. 自転車盗難防止のため、必ずダブルロックをすること。
3. 交通法規、交通道德を守ること。(たとえば、「傘さし」「携帯電話の使用」「ヘッドホン・イヤホンで音楽等の視聴」等をしての運転禁止など)
4. 整備点検を怠らず、不良欠陥車は使用しないこと。
5. 自転車は学校所定の自転車置場に整頓し、施錠を確実にすること。
6. 積雪期は危険なため自転車に乗らないこと。
7. その他、学校が指示する事項。

(5) 生活指導について

① 飲酒、喫煙の禁止について

最近、未成年者の喫煙・飲酒が増加している。これらは健康上有害であり、学生本人にとっても好ましくなく、本校ではいずれも禁止している。守らない場合は、法律で認められた年齢に達していても、本校の教育方針により厳罰に処せられる。

なお、登下校・部活・研修などにおいても学校の管理下であり、また、実際に飲酒・喫煙をしていなくとも、酒・煙草・ライターなどを所持することが不良行為であり、いずれも処分の対象となる。

② 交通違反について

- 1) 自転車通学での事故や、自転車に係わる市民からの苦情があとを絶たない。自転車でも、交通違反があると、自動車と同じように罰則が適用される。バイクや自動車と同じように、交通規則を守り、安全運転を徹底してもらいたい。
- 2) 本校学生のバイク・自動車の免許保有者による交通違反があとを絶たない。原動機付自転車（原付バイク）の通学については許可制をとっているが、交通事故・違反の恐ろしさ、責任の重大さは計り知れないものがあり、十分に注意してほしい。
- 3) 交通事故を起こしたとき、交通違反をしたときは速やかに学級担任に届け出ること。
なお、この場合についても処分の対象となる。

③ 防犯カメラの設置について

外部からの不審者の侵入予防、校内での盗難予防、その他校内の安全管理を目的として、校内に防犯カメラを設置している。

このようなセキュリティ対策の他に、①貴重品は各自で責任もって管理すること②教室外で実習等を行うときは教室に必ず鍵をかけることなど、自己管理も怠らないこと。

④ アルバイトについて

原則として禁止する。ただし、家庭の事情等によりやむを得ずアルバイトをしなければならない場合、あるいは長期休業期間中の場合のみ許可制とする。この場合、学業に支障が出ないこと、本当にアルバイトをしなければならないかどうかを、保護者さらには学級担任と学生主事と十分に話し合い、その上で許可願を提出すること。ただし、1年生については学業に専念すべきとの理由から、原則として許可しない。

「アルバイト許可願」は、学級担任経由で学生支援係に提出する。その際、雇い主の住所・電話番号・氏名を記入捺印の上、アルバイトの種類・具体的な内容・期間及び時間帯などを明確に記入し提出すること。認められた場合には許可書を発行するが、許可書は雇い主へ提出しなければならない。

なお、無許可でアルバイトを行った場合は、処分の対象となる。

⑤ 服装・身だしなみについて

学校は学習の場である。普段から学習の場としてふさわしい服装（制服と制服を基準とした私服の併用）・身だしなみを心がけてもらいたい。

〔遵守事項〕

1. 1～3学年は**入学式、始業式、対面式、終業式、特別講演会、新入生合宿研修**においては制服を必ず着用すること。違反した場合は、処分の対象となる。
2. 制服を着用しない場合は、制服に準じた学生らしい清楚な服装に努め、派手あるいは見苦しい（例えば、半ズボン等の短いズボンや腹部の露出）服装は禁止する。違反した場合は、処分の対象となる。
3. 染髪・ピアスは禁止する。違反した場合は処分の対象となる。
4. 学習の場にふさわしくない以下の服装・身だしなみはしないこと。
サンダル・下駄・草履、化粧・マニキュア、他校のジャージ着用。
5. 女子学生制服のネクタイとリボンは、学校が指定するものを着用すること。

⑥ 懲戒について

上記の違反行為およびその他の不良行為に対して、学生主事注意から始まり誓約書の提出、保護者召還が行われ、場合によっては相応する期間の停学に処せられる。

⑦ インフルエンザ等の感染症について

インフルエンザ等感染症の症状が出たときには直ちに医師の診断を受けること。感染していることが明らかになったときには速やかに学級担任に届けること。医師の診断書または通院証明書（インフルエンザの場合は罹患報告書）の提出により出席停止の措置をとる。

（出典 平成 25 年度学生便覧 P. 37～40）

資料 5 - 3 - ① - 9

「校内の巡回学生指導（前期分）」

H25年度前期校内外巡回指導

日 時 平成25年4月19(金)～7月29日(月) 12:15～13:00

H25前期校内外巡回指導割振表

	4/19(金)	5/13(月)	6/6(木)	6/26(水)	7/16(火)	7/29(月)
安東	③		③	③		③
白根	②					
野澤			②		②	
増田		②		②		②
宮川				①		
土田		①				
山崎	①					
菅原				①		
佐藤						①
横山		①				
金			①			
井上			①			
長井	①					
金田						①
森本					①	
上林					①	

①: 校内(科学技術教育棟, 高学年講義室棟, 図書館, グラウンド周辺)

②: 校外(学校周辺道路) ③: 校内外

※御都合がつかない時は, 相互交代, あるいは実施日を変更して下さい。

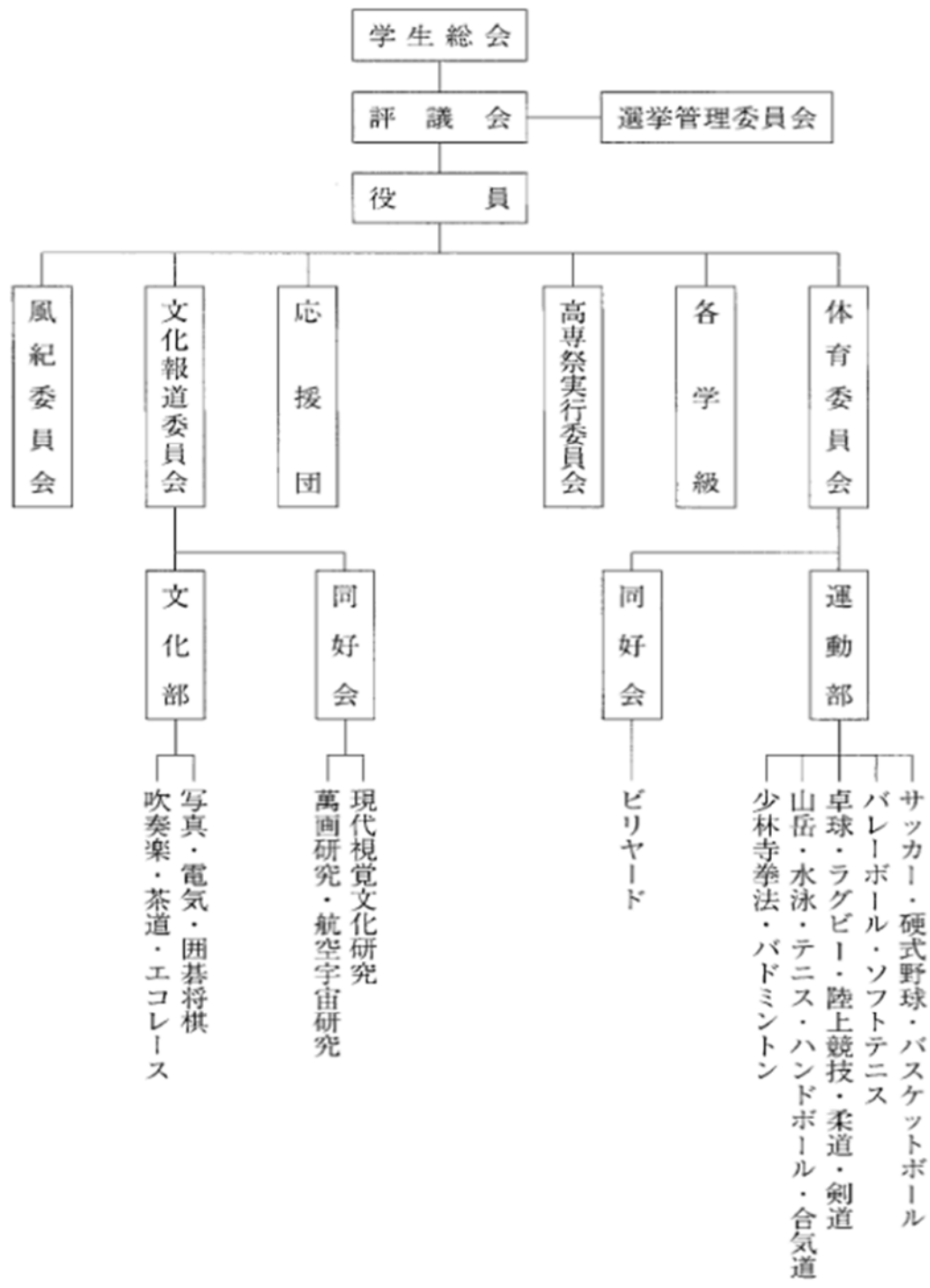
※巡回日変更の際は, 事前に学生主事まで御連絡願います。

※学生支援係で, 記録簿とジャンパーを受け取して下さい。

(出典 平成 25 年度学生委員会資料)

資料 5 - 3 - ① - 10

学 生 会 組 織 図



(出典 平成 25 年度学生便覧 P.135)

ANCT 校内スポーツ大会 2013 要項

1. 日程

10月10日 (木)

8:35 集合・整列(第1体育館)
9:00 開会式
9:30 競技開始
17:30 第1日目終了(予定)

10月11日 (金)

8:50 競技開始
16:15 全競技終了・閉会式(予定) 正面玄関前

2. 競技規則

- (1) 共通規則 ①出場チームは全クラス 20、専攻科、教職員の 22 チームとする。
②出場は自チームに限る。他チームに助人出場は出来ない。他チームとの混成はその発見時をもってそのチームの負けとする。
③平成 25 年 5 月に各部が提出した部員名簿に名前が記載されている者は出場できない。また、ソフトテニスに硬式テニス部とソフトテニス部、ソフトボールに硬式野球部、駅伝に陸上競技部の各部員の出場は認めない。ただし、各部のマネージャーは出場できる。
④ラフプレーは厳禁する。審判の判定には絶対に従うこと。これにより競技進行の妨げとなった場合には、原因となったチームを失格とする。
⑤理由を問わず、失格となった場合そのチームの得点を減点する。
⑥勝利得点の配分は次のとおりとする。

順位	1	2	3	4	5	6	7	8
駅伝	100	80	60	50	40	30	20	10
女子種目	60	40	20			10		
他種目	80	60	40			20		

※ 3 位決定戦は行わない。

※ 2 日目に雨天中止の種目については、ベスト 8 の場合各 35 点、ベスト 4 の場合各 55 点を与える。

⑦総合得点をもって順位を決める。

⑧学生会体育委員長の決定には反論を認めず、従うものとする。

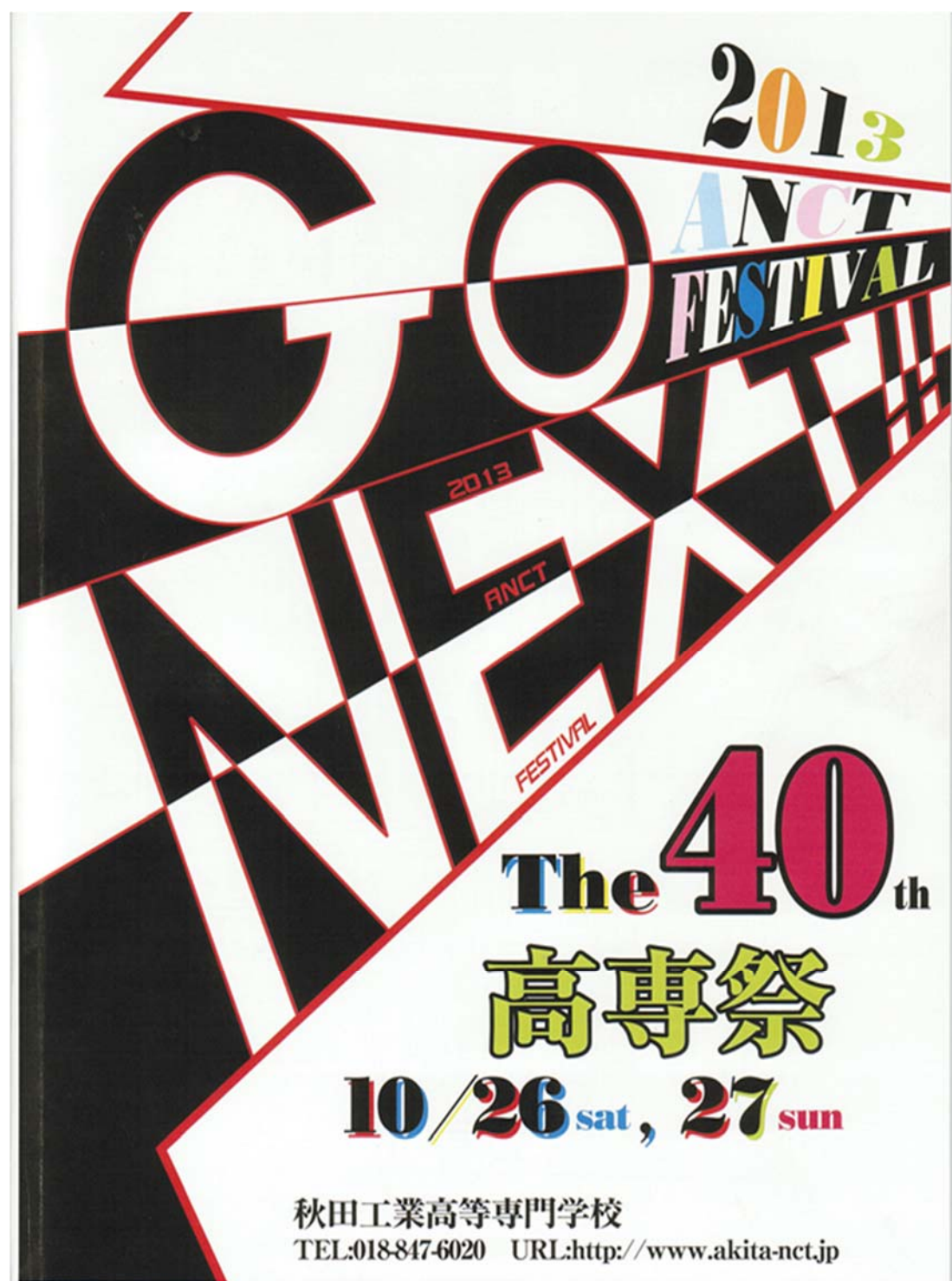
- (2) 種目別規制及び組み合わせ 次項より参照

3. その他

- (1) 各クラスの各種目責任者は競技場所、時刻をその都度確かめて選手に連絡し競技運営、対戦相手に迷惑をかけないように十分配慮する。5 分以上の遅刻は棄権とみなす。
(2) 天候により、屋外競技を中止する場合がある。その際、競技時刻等に変更があるので十分注意すること。
(3) 担当の各部は競技運営(審判の割り振り、会場・用具の準備、記録、時計、本部への報告など)に責任を持って行うこと。
(4) 各種目の責任者は競技終了後、結果を本部に必ず報告すること。
(5) 体育館はズックの履き替えを厳守すること。
(6) 競技場での飲食は厳禁である。
(7) 留年生の前クラスでの参加は認めず、現クラスでの参加のみとする。

(出典 学生課学生支援係資料)

資料 5 - 3 - ① - 12



(出典 学生課学生支援係資料)

(10) 秋田工業高等専門学校学生表彰規則

(趣旨)

第1条 秋田工業高等専門学校学則第37条及び49条の規定に基づく本校学生の表彰（以下「表彰」という。）については、この規則の定めるところによる。

(表彰対象者)

第2条 表彰は、次の各号の一に該当する者について行う。

- 一 学業によく励み、極めて優秀な成績を上げ、他の模範となり、課外活動、学生会活動あるいは寮生会活動等の向上発展に顕著な功績があった者
- 二 卒業研究で最優秀と認められた者
- 三 特別研究及び学業で、優秀な成績を収めた者
- 四 学術的な活動で、顕著な功績があった者
- 五 課外活動等における顕著な功績により、本校の名誉を高めた者、又は団体に所属する者
- 六 社会的に学生の模範として推奨できる善行のあった者
- 七 学外の団体等の活動において、他の模範となる成績を上げた者、又は団体に所属する者
- 八 学外の学術的な団体等の活動において自己研鑽に努め、他の模範となる成績を上げた者、又は団体に所属する者
- 九 在学期間の出席が良好な者

2 表彰の種別は、別表のとおりとし、表彰の基準は別に定める。

(表彰の時期)

第3条 表彰は、終業式当日に行う。ただし、特別の必要があるときは随時に行うことができる。

(表彰の方法)

第4条 表彰は、校長が表彰状を授与することにより行う。

2 前項の表彰状にあわせて、記念品を贈呈することができる。

(被表彰者の推薦及び決定)

第5条 第2条に規定する表彰に該当する行為があった場合は、別表に定める推薦者は校長に推薦書（様式第1号）を提出するものとする。

2 校長は提出された推薦書を、学生委員会（以下「委員会」という。）に諮問するものとする。

3 委員会は、推薦書に基づき内容を審査の上、その結果を校長に答申し、校長が決定する。

(表彰の記録及び公示)

第6条 表彰された者は、記録にとどめるほか全学生に公示する。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、表彰の実施に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

1 この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年12月14日から施行する。

別表

表彰の種別	該 当 条 項	推 薦 者	備 考
特別表彰	第2条第1項第1号	学科長	表彰状 様式第2号
学術賞	第2条第1項第2号 第2条第1項第3号 第2条第1項第4号	学科長 専攻科長	表彰状 様式第5号
功 績 賞	第2条第1項第5号 第2条第1項第6号	主事 専 攻 科 長 各種委員会委員長 学 級 担 任 クラブ指導教員	表彰状 様式第3号 表彰状 様式第3号
ス ポ ー ツ 賞	第2条第1項第5号	クラブ指導教員 学 級 担 任	表彰状 様式第4号
文 化 賞	第2条第1項第5号	クラブ指導教員 学 級 担 任	表彰状 様式第4号
優秀賞	第2条第1項第7号	クラブ指導教員 担 当 教 員 学 級 担 任 専 攻 科 長	表彰状 様式第5号
奨励賞	第2条第1項第8号	担 当 教 員 学 級 担 任 専 攻 科 長	表彰状 様式第6号
皆 勤 賞	第2条第1項第9号	学 級 担 任	表彰状 様式第7号

(出典 平成25年度学生便覧 P.121～122)

資料 5 - 3 - ① - 14

「平成 25 年度受賞者」

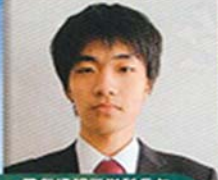
平成25年度
受賞者一覽

日本機械学会品山賞



機械工学科5年
湯 沢 光

秋田県電子工業振興協議会賞



電気情報工学科5年
伊 藤 純 市

日本化学会東北支部長賞



物質工学科5年
石 井 孝 幸

全国高専土木工学会近畿賞



環境都市工学科5年
中 山 望

秋田化学技術協会賞



物質工学科5年
金 田 真 篤

秋田県建設・工業技術センター理事長賞



環境都市工学科5年
平 元 南

卒業生・修了生

学 術 賞
卒業研究で最優秀

機械工学科5年
湯 沢 光

電気情報工学科5年
伊 藤 純 市

物質工学科5年
佐 渡 友 広

環境都市工学科5年
中 山 望

学 術 賞
特別研究及び卒業において優秀

生産システム工学専攻2年
田 村 賢 介

環境システム工学専攻2年
加 納 亘

功 績 賞
部長として専攻の発展と発展に尽力

機械工学科5年
遠 田 賢 也

功 績 賞
第9回全日本学生
車内飛行ロボットコンテスト

機械工学科5年
鈴 木 隆 也

電気情報工学科5年
伊 藤 純 市

物質工学科5年
池 田 裕 裕

環境都市工学科5年
宮 原 大 斗

スポーツ賞
第48回全高専等専門学校の体育大会
最速短距離男子個人種730g級 1等賞

機械工学科5年
佐 藤 靖 徳

皆 勤 賞
5年間無欠席及び無欠課

機械工学科5年
伊 藤 慎 一 郎

機械工学科5年
倉 部 貴 皓

機械工学科5年
小 林 英 章

機械工学科5年
佐 藤 靖 徳

機械工学科5年
鈴 木 智 大

機械工学科5年
鈴 木 晋 太 朗

電気情報工学科5年
相 沢 光

電気情報工学科5年
伊 藤 純 市

電気情報工学科5年
小 田 剛 大 利

電気情報工学科5年
奈 良 裕 亮

電気情報工学科5年
堀 井 さ や こ

物質工学科5年
坂 田 谷 和 司

物質工学科5年
佐 渡 友 広

物質工学科5年
古 野 篤 史

環境都市工学科5年
船 木 航

奨 励 賞
「アート＆テクノロジー」展2012」
において最優秀賞

生産システム工学専攻2年
真 壁 純 矢

- 180 -



在校生

奨励賞 TOEIC 機械工学科5年 佐藤 靖徳 機械工学科5年 モハドニビンティ 電気情報工学科5年 伊藤 純市 電気情報工学科5年 加藤 慶輝 電気情報工学科5年 柳 沼 奏 汰 電気情報工学科5年 宮 城 諒 物質工学科5年 佐々木 開 物質工学科5年 スレートンブクビライ 生産システム工学専攻2年 田 村 賢 介	功 績 賞 第9回全日本学生 室内飛行ロボットコンテスト 機械工学科4年 齊 藤 諒 機械工学科4年 佐 藤 佳 織 電気情報工学科3年 深 谷 天 馬 環境都市工学科3年 齋 藤 匠 悟 機械工学科2年 五十嵐 大 樹 機械工学科2年 岡 部 凌 機械工学科2年 菅 原 拓 斗 機械工学科2年 原 田 達 也 機械工学科2年 吉 岡 佑 真 機械工学科2年 吉 田 一 貴	奨励賞 公益財団法人日本経済教育会東北支部 第17回秋田県立産業学生賞 環境都市工学科4年 荒 川 良 祐 奨励賞 石井路月都全全全大会 高校生優秀の部特賞 物質工学科2年 藤 原 直 大 奨励賞 TOEIC 機械工学科4年 畠 山 翔 機械工学科4年 プラナアモンタナバット 電気情報工学科4年 西 島 翔 電気情報工学科4年 齋 藤 太 朗 電気情報工学科4年 三 浦 翔 平 電気情報工学科4年 渡 辺 拓 希 物質工学科4年 小 林 尚 広	物質工学科4年 アフィカビティズレブリ 環境都市工学科4年 ノールマズニビンティ モハドニビンティ 環境システム工学専攻1年 鈴木 惇 哉
--	---	--	---

(出典 学校だより Vol. 85)

資料 5 - 4 - ① - 1

(3) 秋田工業高等専門学校学業成績の評価並びに進級及び卒業の認定に関する規則**第 1 章 総則****(目的)**

第 1 条 この規則は、秋田工業高等専門学校における試験、学業成績の評価、進級及び卒業の認定等について定めることを目的とする。

第 2 章 試験**(試験)**

第 2 条 定期試験は、各学期末に実施する。

- 2 必要ある科目については、中間試験を行う。
- 3 前 2 項のほか必要があると認めたときは、追試験を行うことがある。
- 4 追加認定試験は、原則として第 2 学年から第 4 学年までに進級した者の不可の科目について実施する。

第 3 条 平素の成績で評価し得る科目については、試験の全部又は一部を行わないことがある。

(追試験)

第 4 条 定期試験及び中間試験に欠席した場合で、病気その他の事故でやむを得ない理由があったと認められた者については追試験を行うことがある。

- 2 追試験を受けようとする者は、速やかに受験願（病気の場合は医師の診断書、事故の場合はその理由を証明する書類を添付）を当該科目担当教員及び学級担任教員を経て校長に提出しなければならない。
- 3 前項の願い出があった場合は、教務主事が当該関係教員と協議の上、実施の可否を決定する。
- 4 追試験は、病気の場合を除き、原則として定期試験終了後 1 週間以内に行う。

第 3 章 学業成績の評価**(追加認定試験)**

第 5 条 追加認定試験を受けようとする者は、受験願を学級担任教員を経て校長に提出しなければならない。

- 2 追加認定試験の実施及び方法については、教務主事の指示による。
- 3 科目の合格認定は、当該学年にさかのぼって行う。
- 4 故意に試験に欠席したと認められた者は、当該試験科目に係るその後の追加認定試験の受験を認めない。

(試験の成績の評価)

第 6 条 学期の成績は、その学期において実施した試験の成績及び平素の成績等を総合して 100 点法により評価する。

- 2 追試験の成績は、前項の規定により評価する。
- 3 追加認定試験の成績の評価は、第1学年から第3学年の科目は最高を50点とし、49点以下を不合格とする。第4学年及び第5学年の科目は最高を60点とし、59点以下を不合格とする。
- (学年成績の評価及び評定)
- 第7条 各科目の学年成績は、その学年における各学期の成績を総合して100点法により評価し、次の区分により優、良、可、不可の評語で評定する。
- 2 学年成績を指導要録に記載する場合及び校外に通知する場合は評語によるものとする。

評語 \ 学年	第1学年から第3学年	第4学年及び第5学年
優	100点～80点	100点～80点
良	79点～60点	79点～65点
可	59点～50点	64点～60点
不可	49点～0点	59点～0点

(故意に試験に欠席した場合等の成績)

- 第8条 故意に試験に欠席したと認められた者又は懲戒処分のため試験を受けることができなかった者の当該科目の成績は零点とする。

(不正行為をした場合の成績)

- 第9条 試験中不正行為を行った者は、その時間以降の受験を停止させ、当該試験全科目の成績を零点とする。

第4章 進級及び卒業の認定

(進級及び卒業の認定)

- 第10条 進級及び卒業は認定会議に付し、学業成績及び特別教育活動の履修状況等を統合して、校長が認定する。この認定にあたっては、原則として次の号の基準に該当していなければならない。

- (1) 欠席日数が年間実授業日数の4分の1以下であること。又各科目の欠課時数が年間実授業時数の4分の1以下であること。ただし、校長が認める理由(長期病欠、その他)のある場合は、3分の1以下とする。
- (2) 本校の規定する単位数を満たしていること。
- (3) 卒業の認定にあつては、各学科指定の科目が不可でないこと。

- 第11条 前条各号に掲げる基準を満たさない者で、特別の理由があると認めた者については、校長が進級及び卒業を認めることがある。

- 第12条 休学の場合を除き、3年連続して同一学年にとどまることはできない。

(編入学)

第13条 校長は、第4学年に編入した者については、当該編入学科の第1学年から第3学年までの履修単位を修得したものとみなす。

2 第3学年に編入した外国人留学生については、前項に準ずる。

第5章 雑則

(雑則)

第14条 この規則の実施について必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成17年4月1日から施行する。

2 平成15、16年度に履修した科目に関する追加認定試験の成績の評価は、第6条の規則にかかわらず全学年共最高を60点とし、59点以下を不合格とする。

附 則

この規則は、平成18年3月3日から施行し、第2条第4項、第12条第1項及び第12条第2項は平成17年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から適用する。

成績評価及び進級、卒業の認定に関する内規（抜粋）

(進級、卒業の認定)

第9条 第4学年までの進級の認定に当たっては、原則として次の基準に該当していなければならない。第5学年への進級は必修科目をすべて修得していなければならない。

- 一 実験実習並びに設計製図等の実技を伴うものについては、当該学年で単位を修得すること。
- 二 当該学年も含めた必修科目のうち、未修得の累積単位数が次の表に定める単位数以下であること。

学 年	1 年	2 年	3 年
累積単位数	8	8	6

第10条 卒業の認定に当たっては、修得単位数は167単位以上とする。ただし、必修科目は、すべて修得しなければならない。

進級要件について

第4学年までの進級の認定に当たっては、原則として次の基準に該当していなければならない。第5学年への進級は必修科目をすべて修得していなければならない。

- (1) 実験実習並びに設計製図等の実技を伴うものについては、当該学年で単位を修得すること。なお、実技を伴う必修科目は次の通りである。

実技を伴う必修科目（平成25年度）

	機械工学科	電気情報工学科	物質工学科	環境都市工学科
1学年	機械製図Ⅰ 工作実習Ⅰ	ものづくり工作実習 電気製図	ものづくり工作実習	ものづくり実習 環境都市工学実験実習Ⅰ
2学年	機械製図Ⅱ 工作実習Ⅱ	基礎工学実験	分析化学実験 有機化学実験	環境都市工学実験実習Ⅱ
3学年	機械製図Ⅲ 創造設計製作	電気情報基礎実験	無機化学実験 生物工学実験	環境都市工学実験実習Ⅲ
4学年	基礎研究 工学実験Ⅰ	基礎研究 電気情報工学実験Ⅰ	基礎研究 物理化学実験 機器分析実験 化学工学実験	基礎研究 環境都市工学応用実験Ⅰ
5学年	卒業研究 工学実験Ⅱ	電気情報工学実験Ⅱ 卒業研究	卒業研究 物質工学実験（物質コース） 生物工学実験（生物コース）	環境都市工学応用実験Ⅱ 卒業研究

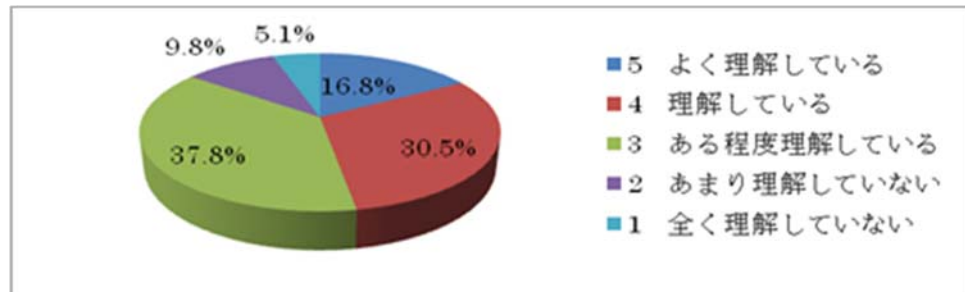
- (2) 当該学年も含めた必修科目のうち、未修得の累積単位数が次の表に定める単位数以下であること。

学 年	1 年	2 年	3 年
累積単位数	8	8	6

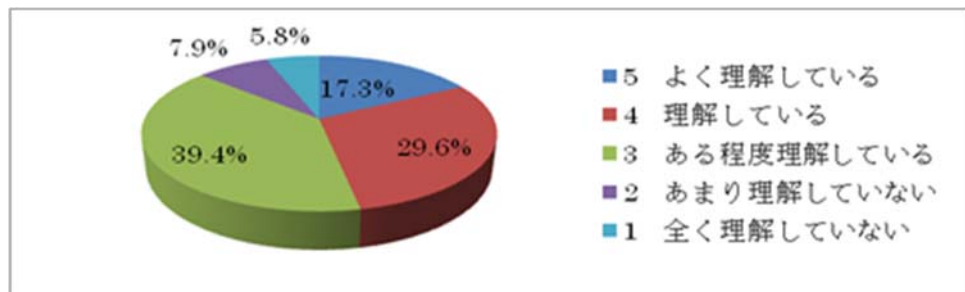
（出典 平成25年度授業計画機械工学科 P. 6～9）

資料 5-4-①-2

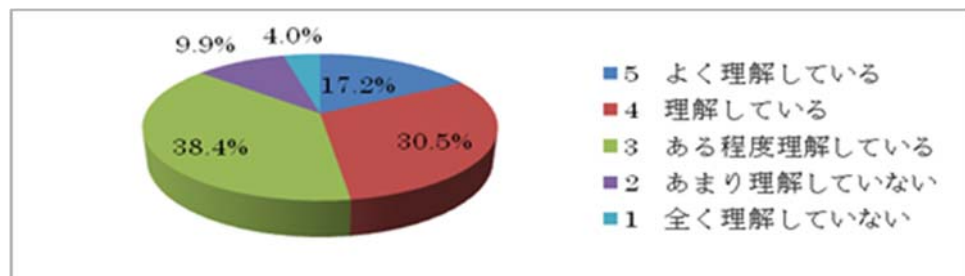
Q1 成績評価・単位認定規程の説明を受け、理解していますか？（準学士課程の1～4年生）



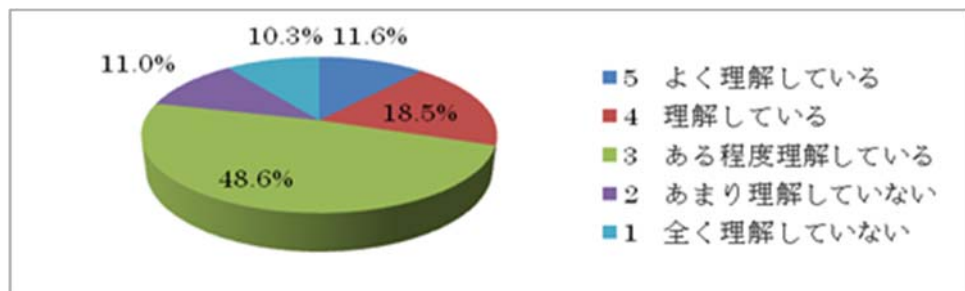
Q2 進級規程の説明を受け、理解していますか？（準学士課程の1～4年生）



Q1 成績評価・単位認定規程の説明を受け、理解していますか？（準学士課程卒業予定者）



Q2 卒業認定規程の説明を受け、理解していますか？（準学士課程卒業予定者）



（出典 平成 25 年度「学校の目的と諸制度に関するアンケート」結果）

表1 生産システム工学専攻の教育課程の体系性と科目系統図(平成23年度以降入学者)

達成しようとしている 基本的な成果	機械工学科 および 電気情報工学科 教育課程との 科目関連	授業科目名 (必修は必修科目、選択は選択科目、数字は単位数)			
		第1学年		第2学年	
		前期	後期	前期	後期
(1) 自ら問題を発見・解決する 能力を備え、生涯に亘って 学ぶことのできる能力を修 得する。	(1)①	特別研究(必4)	特別研究(必4)	特別研究(必4)	特別研究(必4)
	(1)②	生産システム工学特別実験 (必2)	創造工学演習(必2)		創造工学演習(必2)
(2) 産業社会におけるグロー バル化に対応するため、正 しい日本語で表現(記 述・口述・討論)し、か つ国際的に通用するプレ ゼンテーション能力を修 得する。	(2)①		日本文化論(必2)		
	(2)②		社会経済史(選2)	事業経営論(選2)	
	(2)③	応用英語Ⅰ(必2)	応用英語Ⅱ(必2)	応用英語Ⅲ(選2)	
(3) 複雑で多岐にわたる工業技 術分野に貢献できる技術を 有し、複合領域にも対応で きる能力を修得する。		校外実習Ⅱ(選2)	校外実習Ⅰ(選1)		
	(3)①	システム情報工学(必2)		システム工学特論(選2)	情報理論(選2)
		応用数学(必2)		図形・画像工学(選2)	
	(3)②	量子力学(選2)	熱・統計力学(必2)		
			固体物性論(選2)		
		応用力学(必2)			
		環境科学(必2)			
	(3)③		超精密加工工学(選2)	生産システム工学(選2)	
	(3)④				機能性高分子材料(選2)
	(3)⑤			振動工学(選2)	
	(3)⑥		熱移動論(選2)		
	(3)⑦	高速流体力学(選2)			
	(3)⑧	電気磁気学特論(選2)	電磁波工学(選2)		
	(3)⑨		エネルギー材料科学(選2)		
			電子物性(選2)	フォトエレクトロニクス(選2)	
	(3)⑩	エネルギー変換工学(選2)			

資料 5 - 5 - ① - 2

表2 環境システム工学専攻の教育課程の体系性と科目系統図(平成23年度以降入学者)

達成しようとしている 基本的な成果	物質工学科 および 環境都市工学科 教育課程 との科目関連	授業科目名 (必修は必修科目、選択は選択科目、数字は単位数)			
		第1学年		第2学年	
		前期	後期	前期	後期
(1) 自ら問題を発見・解決する 能力を備え、生涯に亘って 学ぶことのできる能力を修 得する。	(1)①	特別研究(必4)	特別研究(必4)	特別研究(必4)	特別研究(必4)
	(1)②	環境システム工学特別実験 (必2)	製造工学演習(必2)		製造工学演習(必2)
(2) 産業社会におけるグロー バル化に対応するため、正 しい日本語で表現(記 述・口述・討論)し、か つ国際的に通用するプレ ゼンテーション能力を修 得する。	(2)①		日本文化論(必2)		
	(2)②		社会経済史(選2)	事業経営論(選2)	
	(2)③	応用英語Ⅰ(必2)	応用英語Ⅱ(必2)	応用英語Ⅲ(選2)	
(3) 複雑で多岐にわたる工業技 術分野に貢献できる技術を 有し、複合領域にも対応 できる能力を修得する。	(3)①	校外実習Ⅱ(選2)	校外実習Ⅰ(選1)		
		システム情報工学(必2)		システム工学特論(選2)	
	(3)②	応用数学(必2)		図形・画像工学(選2)	
		量子力学(選2)	熱・統計力学(必2)		
	(3)③	応用力学(必2)	固体物性論(選2)		
			エネルギー材料科学(選2)		
	(3)④	無機材料論(選2)		高分子物性論(選2)	
	(3)⑤	反応工学特論(選2)	有機合成化学特論(選2)		
	(3)⑥			微生物工学(選2)	
	(3)⑦		環境地域計画学(選2)		
	(3)⑧	環境科学(必2)		生産システム工学(選2)	環境水文学(選2)
	(3)⑨	防災システム工学(選2)			
		コンクリート工学特論(選2)	環境地盤工学(選2)	構造力学特論(選2)	

(出典 平成 25 年度専攻科授業計画 P. 4)

資料 5 - 5 - ① - 3

表3 機械工学科の教育課程の体系性と科目系統図(平成18年度以降入学者)

達成しようとしている 基本的な成果	授業科目名 (必は必修科目、選は選択科目、数字は単位数、※は学修単位)					生産システム工学 専攻(平成23年 度以降入学者) 教育課程との 科目関連
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	
(A) 自らの意思を的確に表 現し行動できる能力、 知識を整理し構造化 化できる能力、技術者 倫理等、人間としての 素養を年齢の発達段階 に応じて修得する。	国語ⅠA(必2) 国語ⅠB(必2)	国語Ⅱ(必2)	国語Ⅲ(必2)	日本語表現(必2)		→ (2)①
	現代社会(必2)	政治経済(必1) 人間史Ⅰ(必2)	人間史Ⅱ(必2) 科学技術史(必1)	科学技術社会史(選1) 社会と文化(選1)	技術者倫理(必1)	→ (2)②
	保健体育Ⅰ(必2)	保健体育Ⅱ(必2)	保健体育Ⅲ(必2)	スポーツ教育Ⅰ(必1)	スポーツ教育Ⅱ(必1)	
	芸術Ⅰ(必1)	芸術Ⅱ(必1)	教養ゼミナール(必1)			
(B) 工学基礎としての自然 科学系科目を深く理解 する。	基礎数学Ⅰ(必4) 基礎数学Ⅱ(必2)	基礎数学Ⅲ(必2) 微分積分Ⅰ(必4)	基礎解析(必2) 微分積分Ⅱ(必3)	応用解析Ⅰ(必2※) 応用解析Ⅱ(必2※)	応用解析Ⅲ(選1※)	→ (3)①
	化学Ⅰ(必3)	化学Ⅱ(必2)		応用化学(選1)		
	生物(選1)					
		物理Ⅰ(必3)	物理Ⅱ(必1) 応用物理(必2)	現代応用物理学(必2※)		→ (3)②
			教養ゼミナール(必1)			
(C) 世界の多様な国・地域 の歴史・伝統・文化を 理解する能力、互いの 意思の疎通ができる実 践的な英語能力を修得 する。	英語Ⅰ(必4) 英語LL演習(必2)	英語Ⅱ(必4) 英語会話(必2)	英語Ⅲ(必4)	総合英語Ⅰ(必2) 英語(必2)	総合英語Ⅱ(必2) 上級英語(選1) 工業英語(必2※)	→ (2)③
(D) 実践的かつ専門的な知 識と技術の基礎となる 専門基礎学力を修得す る。		電気計測(必1)			センサ工学(選2)	
	電気基礎(必2)	基礎電気磁気学(必2) 電気回路Ⅰ(必2)	電気回路Ⅱ(必2)	電気磁気学(必2※) 回路網理論(必2※) 電子回路(必2※)	電波工学(必2※)	→ (3)④
		論理回路(必1)	コンピュータ基礎(必2)		IC応用回路(必2※)	
	情報処理基礎(必2)	情報処理応用(必2)		ソフトウェア工学(必2※) ソフトウェア工学演習(選2)	Cシミュレーション(必2) 情報技術(選1)	
			電子デバイス工学(必2)	半導体工学(必2※)	物性工学(必2※)	→ (3)⑤
			電気機器学(必2)	電気機械変換工学(必2)	制御システム工学(必2※)	
				電力工学(選2)	電気法規(必2※)	→ (3)⑥
	電気製図(必2)				環境工学(選1)	
(E) 職業教育による工学基礎 および専門基礎を土台と し、現象・動作を具体的に 理解できる実践的な能 力を修得する。	ものづくり工作実習(必2)	基礎工学実験(必3)	電気情報基礎実験(必3)	電気情報工学実験Ⅰ(必2※) 校外実習A(選1) 校外実習B(選2)	電気情報工学実験Ⅱ(必2※)	→ (1)②
(F) 問題・課題の解決のため の方法・手段を模索し、 実行できる能力を身につ ける。				基礎研究(必2)	卒業研究(必9)	→ (1)①

資料 5 - 5 - ① - 4

表4 電気情報工学科の教育課程の体系性と科目系統図(平成18年度以降入学者)

達成しようとしている 基本的な成果	授業科目名 (必は必修科目、選は選択科目、数字は単位数、※は学修単位)					生産システム工学 専攻(平成23年 度以降入学者) 教育課程との 科目関連
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	
(A) 自らの意思を的確に表 現し行動できる能力、 知識を整理し構造化 できる能力、技術者 倫理等、人間としての 素養を年齢の発達段階 に応じて修得する。	国語ⅠA(必2) 国語ⅠB(必2) 現代社会(必2)	国語Ⅱ(必2) 政治経済(必1) 人間史Ⅰ(必2)	国語Ⅲ(必2) 人間史Ⅱ(必2) 科学技術史(必1)	日本語聴解(必2) 科学技術社会史(選1) 社会と文化(選1)	技術者倫理(必1) スポーツ教育Ⅰ(必1) スポーツ教育Ⅱ(必1)	(2)① (2)②
	保健体育Ⅰ(必2) 芸術Ⅰ(必1)	保健体育Ⅱ(必2) 芸術Ⅱ(必1)	保健体育Ⅲ(必2) 教育ゼミナール(必1)	スポーツ教育Ⅰ(必1)	スポーツ教育Ⅱ(必1)	
	基礎数学Ⅰ(必4) 基礎数学Ⅱ(必2)	基礎数学Ⅲ(必2) 微分積分Ⅰ(必4)	基礎解析(必2) 微分積分Ⅱ(必3)	応用解析Ⅰ(必2※) 応用解析Ⅱ(必2※)	応用解析Ⅲ(選1※)	(3)①
	化学Ⅰ(必3) 生物Ⅰ(選1)	化学Ⅱ(必2) 物理Ⅰ(必3)	物理Ⅱ(必1) 応用物理(必2) 教育ゼミナール(必1)	応用化学(選1) 現代応用物理学(必2※)		(3)②
	英語Ⅰ(必4) 英語ⅠL(演習)(必2)	英語Ⅱ(必4) 英語会話(必2)	英語Ⅲ(必4)	総合英語Ⅰ(必2) 英語(必2)	総合英語Ⅱ(必2) 上級英語(選1)	(2)③
(C) 世界の多様な国・地域 の歴史・伝統・文化を 理解する能力、互いの 意思の疎通ができる実 践的な英語能力を修得 する。	機械製作Ⅰ(必2)			機械加工Ⅰ(必2※)	工作機械(選1※)	(3)③
			材料学(必2)	材料工学Ⅰ(必1※)	材料工学Ⅱ(選1※)	(3)④
			基礎材料力学(必1)	材料力学Ⅰ(必2※) 材料力学Ⅱ(必1※)	計算力学(必2※)	
			工力学(必1)	機械力学Ⅰ(必2※)	機械力学Ⅱ(必1※)	(3)⑤
			機械設計基礎(必1)	機械設計Ⅰ(必1※)	機械力学Ⅲ(選1※)	
	情報処理Ⅰ(必1)	情報処理Ⅱ(必2)	情報処理Ⅲ(必1)	制御工学Ⅰ(必2※) 制御工学Ⅱ(選1※) 情報技術(選1)		
		電気工学Ⅰ(必1)	電気工学Ⅱ(必1) 電子基礎(必1)	電子応用(必1※) 計測工学(選1※)	ロボット工学(選1※)	
				工業熱力学Ⅰ(必2※) 工業熱力学Ⅱ(必1※)	内燃機関Ⅰ(必1※) 内燃機関Ⅱ(選1※)	(3)⑥
				流体工学Ⅰ(必2※) 流体工学Ⅱ(必1※)	熱工学(必1※) 流体工学Ⅲ(必2※) 流体機械(選1※)	(3)⑦
	機械製図Ⅰ(必2)	機械製図Ⅱ(必2)	機械製図Ⅲ(必2) コンピュータ制御(必1)	設計製図Ⅰ(必2※)	設計製図Ⅱ(必2※) 環境工学(選1)	
(D) 実践的かつ専門的な知 識と技術の基礎となる 専門基礎学力を修得す る。						
(E) 教養教育による工学基礎 および専門基礎を土台と し、現象・動作を具体的に 理解できる実践的な能力 を修得する。	工作実習Ⅰ(必3)	工作実習Ⅱ(必3)	製造設計製作(必2)	工学実験Ⅰ(必2※) 校外実習A(選1) 校外実習B(選2)	工学実験Ⅱ(必2※)	(1)②
(F) 問題・課題の解決のため の方法・手段を模索し、 実行できる能力を 身につける。				基礎研究(必2)	卒業研究(必※)	(1)①

資料 5 - 5 - ① - 5

表5 物質工学科の教育課程の体系性と科目系統図(平成18年度以降入学者)

達成しようとしている 基本的な成果	授業科目名 (物は物質コース、生は生物コース、必は必修科目、選は選択科目、数字は単位数、※は学修単位)					環境システム工学 専攻(平成23年 度以降入学者) 教育課程との 科目関連
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	
(A) 自らの意思を的確に表 現し行動できる能力、 知識を整理し構造総合 化できる能力、技術者 倫理等、人間としての 素養を年齢の発達段階 に応じて修得する。	国語ⅠA(必2) 国語ⅠB(必2) 現代社会(必2)	国語Ⅱ(必2) 政治経済(必1) 人類史Ⅰ(必2)	国語Ⅲ(必2) 人類史Ⅱ(必2) 科学技術史(必1) 保健体育Ⅲ(必2) 芸術Ⅱ(必1) 教養ゼミナール(必1)	日本語表現(必2) 科学技術社会史(選1) 社会と文化(選1) スポーツ教育Ⅰ(必1)	技術者倫理(必1) スポーツ教育Ⅱ(必1)	→ (2)① → (2)②
	基礎数学Ⅰ(必4) 基礎数学Ⅱ(必2)	基礎数学Ⅲ(必2) 微分積分Ⅰ(必4) 物理Ⅰ(必3)	基礎解析(必2) 微分積分Ⅱ(必3) 物理Ⅱ(必1) 応用物理(必2) 教養ゼミナール(必1)	応用解析Ⅰ(必2※) 応用解析Ⅱ(必2※) 現代応用物理(必1※)	応用解析Ⅲ(選1※)	→ (3)① → (3)②
	英語Ⅰ(必4) 英語LL演習(必2)	英語Ⅱ(必4) 英語会話(必2)	英語Ⅲ(必4)	総合英語Ⅰ(必2) 英語(必2)	総合英語Ⅱ(必2) 上級英語(選1) 工業英語(必1)	→ (2)③
	情報処理(必1)	情報処理(必2) 分析化学(必2)		材料計測工学(必1) 無機材料工学(必2※)	情報技術(選1) 機能性無機材料(必2※) 無機工業化学(必2※)	→ (3)③
	化学Ⅰ(必4)	無機化学(必2) 有機化学(必2)	無機化学(必2) 有機化学(必2)	高分子材料工学(必2※) 有機合成化学(必2※)	有機工業化学(必2※)	→ (3)④
(D) 実践的かつ専門的な知 識と技術の基礎となる 専門基礎学力を修得す る。	物質工学浮論(必1)		基礎物理化学(必2) 基礎化学工学(必1)	物理化学Ⅰ(必2※) 物理化学Ⅱ(必2※) 化学工学(必2※)	環境工学(選1) プロセス工学(必2※) 反応工学(必2※)	→ (3)⑤
	生物(必2)		生物化学(必2)	生物化学Ⅰ(必2※) 生物化学Ⅱ(必2※) 応用微生物学(必2※)	医薬品工学(選1) 食品・薬品工学(必2※)	→ (3)⑥
	物質工学概論(必1)			品質管理(選1)	電気工学概論(選1)	
	工作実習(必1)			校外実習A(選1) 校外実習B(選2)		
	物質工学基礎実験(必1)	分析化学実験(必3)	無機化学実験(必3) 有機化学実験(必3)	物理化学実験(必3) 化学工学実験(必3)	物質工学実験(物必2※) 生物工学実験(生必2※)	→ (1)②
(E) 教養教育による工学基 礎および専門基礎を土 台とし、現象・動作を具 体的に理解できる実践 的な能力を修得する。						
(F) 問題・課題の解決のた めの方法・手段を模索 し、実行できる能力を 身につける。				基礎研究(必2)	卒業研究(必9)	→ (1)①

資料 5 - 5 - ① - 6

表 6 環境都市工学科の教育課程の体系性と科目系統図(平成18年度以降入学者)

達成しようとしている 基本的な成果	授業科目名 (必は必修科目、選は選択科目、数字は単位数、※は学修単位)					環境システム工学 専攻(平成23年 度以降入学者) 教育課程との 科目関連
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	
(A) 自らの意思を的確に表 現し行動できる能力、 知識を整理し構造総合 化できる能力、技術者 倫理等、人間としての 素養を年齢の発達段階 に応じて修得する。	国語ⅠA(必2) 国語ⅠB(必2)	国語Ⅱ(必2)	国語Ⅲ(必2)	日本語表現(必2)		→ (2)①
	現代社会(必2)	政治経済(必1) 人間史Ⅰ(必2)	人間史Ⅱ(必2)	科学技術社会史(選1)	技術者倫理(必1)	→ (2)②
	保健体育Ⅰ(必2)	保健体育Ⅱ(必2)	保健体育Ⅲ(必2)	社会と文化(選1)		
	芸術Ⅰ(必1)	芸術Ⅱ(必1)	科学技術史(必1)	スポーツ教育Ⅰ(必1)	スポーツ教育Ⅱ(必1)	
			教養ゼミナール(必1)			
(B) 工学基礎としての自然 科学系科目を深く理解 する。	基礎数学Ⅰ(必4) 基礎数学Ⅱ(必2)	基礎数学Ⅲ(必2) 微分積分Ⅰ(必4)	基礎解析(必2) 微分積分Ⅱ(必3)	応用解析Ⅰ(必2※) 応用解析Ⅱ(必2※)	応用解析Ⅲ(選1※)	→ (3)①
	化学Ⅰ(必3)	化学Ⅱ(必2)		応用化学(選1)		
	生物(選1)					
		物理Ⅰ(必3)	物理Ⅱ(必1)	現代応用物理学(必1※)		→ (3)②
			応用物理(必2)			
			教養ゼミナール(必1)			
(C) 世界の多様な国・地域 の歴史・伝統・文化を 理解する能力、互いの 意思の疎通ができる実 践的な英語能力を修得 する。	英語Ⅰ(必4)	英語Ⅱ(必4)	英語Ⅲ(必4)	総合英語Ⅰ(必2)	総合英語Ⅱ(必2)	→ (2)③
	英語LL演習(必2)	英語会話(必2)			上級英語(選1)	
				独語(必2)		
(D) 実践的かつ専門的な知 識と技術の基礎となる 専門基礎学力を修得す る。	情報処理Ⅰ(必2)	情報処理Ⅱ(必2)			情報技術(選1)	
	測量Ⅰ(必1)	測量Ⅱ(必2)			測量Ⅲ(必2※)	
				建築デザイン論(必2※)	室内環境工学(選1※)	
				建設法規論(選1※)	建築史(必1※)	
	意匠設計Ⅰ(必1)	意匠設計Ⅱ(必1)	意匠設計Ⅲ(必1)	建築系演習Ⅰ(必2)	建築系演習Ⅱ(必1)	
	基礎設計演習Ⅰ(必1)	基礎設計演習Ⅱ(必1)		設計製図Ⅰ(必1)	設計製図Ⅱ(必1)	
					都市計画(必2※)	
					計画数理(必1※)	
					交通工学(選1※)	
			基礎水理学(必1)	水理学(必2※)	水工学(選2※)	
				水理学演習(必1)		
			基礎生体工学(必1)	環境衛生工学(必2※)	環境アセスメント(必1※)	
					都市環境工学(必2※)	
					環境工学(選1※)	
	材料Ⅰ(必1)	材料Ⅱ(必1)	土質工学(必2)	地盤工学(必2※)		
				地盤工学演習(必1)		
			コンクリート構造学(必2)	鉄筋コンクリート工学(必2※)		
				鋼構造学(必2※)		
			建築一般構造学(必1)		建築施工論(選1※)	
			基礎構造力学(必1)	構造力学演習(必2)		
				構造力学(必2※)	耐震工学(必1※)	
(E) 職業教育による工学基礎 および専門基礎を土台と し、現象・動作を具体的に 理解できる実践的な能力 を修得する。	環境都市工学実験 実習Ⅰ(必2)	環境都市工学実験 実習Ⅱ(必2)	環境都市工学実験 実習Ⅲ(必2)	環境都市工学応用 実験Ⅰ(必1※)	環境都市工学応用 実験Ⅱ(必1※)	→ (1)②
	工作実習(必1)			校外実習A(選1)		
				校外実習B(選2)		
(F) 問題・課題の解決のため の方法・手段を模索し、 実行できる能力を 身につける。				基礎研究(必2)	卒業研究(必9)	→ (1)①

平成23年度以降入学者

— 13 —

– 193 –

資料 5-5-②-2

別紙第 6

環境システム工学専攻教育課程

平成23年度以降入学者

区 分	必修 選択	授 業 科 目						講 義 演 習 実 験 実 習 の 義 習 験 別	単 位 数	学 年 配 当				備 考	
		1 年 次		2 年 次											
		前 期	後 期	前 期	後 期										
一 般 科 目	外国語	必修	応 応	用 用	英 英	語 語	I II	講 講	義 義	2 2	2				
			応	用	英	語	III	講	義	2			2		
	一 般	必修	日 応	本 用	文 文	化 数	論 学	講 講	義 義	2 2	2 2	2			
			環	境			科	講	義	2	2				
	選 択	社 事	会 業	経 経	済 管	史 論	講 講	義 義	2 2		2		2		
		一 般 科 目 開 設 単 位 小 計						16	6	6	4				
一 般 科 目 修 得 単 位 小 計						12以上	12以上								
専 門 共 通 科 目	必修	熱 シ	・ ス	統 テ	計 ム	力 情	学 報	講 工	義 学	2 2		2			
		応	用	力	学	学	講	義	2	2					
	選 択	エ 量	ネ ル	ギ ー	材 料	科 学	講 義	義	2 2		2				
		シ ス	テ ム	工 学	特 論	講 義	義	2 2		2					
		固 体	物 性	工 学	論 学	講 義	義	2 2		2					
		生 産	シ ス	テ ム	工 学	論 学	講 義	義	2 2			2			
		図 形	・ 画	像	工 学	講 義	義	2 2				2			
		校 外	実 習	I	講 義	義	2 2				1				
	校 外	実 習	II	講 義	義	2 2				2					
	専 門 共 通 科 目 開 設 単 位 小 計						21	8	7	6					
専 門 共 通 科 目 修 得 単 位 小 計						12以上	12以上								
専 門 専 攻 科 目	必修	特 別	研 究	演 習	16	4	4	4	4						
		環 境	シ ス	テ ム	工 学	特 別	実 験	2	2						
		創 造	工 学	演 習	4		2		2						
	選 択	有 機	合 成	化 学	特 論	講 義	義	2 2		2					
		無 機	材 料	論 学	講 義	義	2 2		2						
		反 応	工 学	特 論	講 義	義	2 2				2				
		微 生	物 性	工 学	論 学	講 義	義	2 2				2			
		高 分	子 物	性	工 学	論 学	講 義	義	2 2				2		
		防 災	シ ス	テ ム	工 学	論 学	講 義	義	2 2		2				
		環 境	地 域	計 画	工 学	論 学	講 義	義	2 2			2			
		環 境	地 盤	工 学	論 学	講 義	義	2 2				2			
		構 造	力 学	特 論	講 義	義	2 2						2		
		環 境	水 文	工 学	論 学	講 義	義	2 2						2	
		コ ン	ク リ	ー ト	工 学	特 論	講 義	義	2 2		2				
専 門 専 攻 科 目 開 設 単 位 小 計						44	14	12	10	8					
専 門 専 攻 科 目 修 得 単 位 小 計						38以上	38以上								
専 門 科 目 開 設 単 位 小 計						65	22	19	16	8					
専 門 科 目 修 得 単 位 小 計						50以上	50以上								
一 般 ・ 専 門 科 目 開 設 単 位 小 計						81	28	25	20	8					
一 般 ・ 専 門 科 目 修 得 単 位 小 計						62以上	62以上								

資料 5－5－②－3

	専攻科 1 年		専攻科 2 年		修得単位
	前期	後期	前期	後期	
一般必修	6 単位	4 単位			一般科目 1 2 単位以上
一般選択		2 単位	4 単位		
共通必修	4 単位	2 単位			共通科目 1 2 単位以上
共通選択	4 単位	5 単位	6 単位		
生産システム工学専攻					
専門必修	6 単位	6 単位	4 単位	6 単位	専門科目 3 8 単位以上
専門選択	6 単位	8 単位	4 単位	4 単位	
環境システム工学専攻					
専門必修	6 単位	6 単位	4 単位	6 単位	専門科目 3 8 単位以上
専門選択	8 単位	6 単位	6 単位	2 単位	

(出典 専攻科教育課程から抜粋)

資料 5 - 5 - ③ - 1

授 業 科 目	必・選	学年	専攻	担当教員	単位数	授業時間	自主学习時間
校外実習 I Practice outside school I	選択	1 年	生産 工学専攻長	生産システム 工学専攻長	1	4 5 時間以上	
[教 材] プリント (実習先で配布される資料)							
[授業の目標と概要] 学生時代に実社会を経験することにより学ぶ目的意識を高め、高専で学んでいる内容が実際の現場でどのように応用されているかを理解し、今後の勉学に役立てる。また、現場の人間関係を経験し、将来実社会に出たときに必要な協調性を身につける。							
[授業の進め方] 夏休みまたは春休みに行う。実習先での体験を報告書としてまとめ、実習内容を発表する。							
[授業内容]							
授 業 項 目	時間	内 容					
実習ガイダンス	1	実習の心構え、評価方法を説明する。					
1. 企業などの実習内容を理解し実習先を選択	3	受け入れ先の内容を検討し実習先を選択できる。					
2. 実習内容と実習先の技術内容	30 以上	実習内容、実習先の業務内容が理解できる。					
3. 実習中の実習内容を記載	5 以上	毎日の実習内容を記載できる。					
4. 実習報告書をまとめ考察	5	実習内容をまとめ報告書を作成できる。					
5. 実習内容の発表	1	実習内容を発表できる。					
[到達目標] 企業などの業務内容を理解し、実体験を通して講義・実験と実際の技術との関連づけができるようになること。それを通して、将来の自分の職業に対する目標が立てられるようになること。							
[評価方法] 評価は実習先担当者、専攻長および専攻科長が以下の各項目を担当して行う。							
1. 実習先担当者による評価 実習先において以下の評価項目について総合的に、S (非常に満足: 100点), A (満足: 90点), B (やや満足: 80点), C (普通: 70点), D (やや不満: 60点), E (不満: 50点) の評価を行う。 ①実習への取り組み姿勢。②実習内容の理解度および成果など。③報告書の内容、出来映えなど。							
2. 専攻長による実習報告書の評価 以下の評価項目について総合的に、S (非常に満足: 100点), A (満足: 90点), B (やや満足: 80点), C (普通: 70点), D (やや不満: 60点), E (不満: 50点) の評価を行う。 ①実習の目的、内容が理解できているか。②記述が簡潔で、正しい日本語で記述されているか。 ③図や表が適切で見やすいか。④実習内容、成果の水準など。							
3. 専攻長および専攻科長による報告会の評価 以下の評価項目について総合的に、S (非常に満足: 100点), A (満足: 90点), B (やや満足: 80点), C (普通: 70点), D (やや不満: 60点), E (不満: 50点) の評価を行う。 ①実習の目的、内容がわかりやすく説明されているか。②図や表が適切で見やすいか。 ③データの分析や考察が適切になされているか。④話し方、質疑応答が分かりやすく説得力があるか。 総合評価=実習先担当者による評価: 50%, 実習報告書の評価: 25%, 報告会での評価: 25%で、合計100点満点で採点し、60点以上を合格とする。							
[認証評価関連科目] (校外実習 A, B)							
[J A B E E 関連科目] (校外実習 A, B)							
[学習上の注意] 実習先への移動も含め、実習期間中には十分安全確保に努める。実習先の指示に従う。長期間の滞在になることもあるので、健康管理には十分配慮する。							
達成しようとしている 基本的な成果	(3)	秋田高専学習 ・教育目標	C-3	J A B E E 基準	d-2 (d)		

資料 5-5-③-2

授 業 科 目	必・選	学 年	専 攻	担当教員	単位数	授 業 時 間	自主学習時間
校外実習Ⅱ Practice outside schoolⅡ	選択	1 年	生産 工学専攻長	生産システム 工学専攻長	2	90時間以上	
[教 材] プリント (実習先で配布される資料)							
[授業の目標と概要] 学生時代に実社会を経験することにより学ぶ目的意識を高め、高専で学んでいる内容が実際の現場でどのように応用されているかを理解し、今後の勉学に役立てる。また、現場の人間関係を経験し、将来実社会に出たときに必要な協調性を身につける。							
[授業の進め方] 夏休みまたは春休みに行く。実習先での体験を報告書としてまとめ、実習内容を発表する。							
[授業内容]							
授 業 項 目	時間	内 容					
実習ガイダンス	1	実習の心構え、評価方法を説明する。					
1. 企業などの実習内容を理解し実習先を選択	3	受け入れ先の内容を検討し実習先を選択できる。					
2. 実習内容と実習先の技術内容	70以上	実習内容、実習先の業務内容が理解できる。					
3. 実習中の実習内容を記載	10以上	毎日の実習内容を記載できる。					
4. 実習報告書をまとめ考察	5	実習内容をまとめ報告書を作成できる。					
5. 実習内容の発表	1	実習内容を発表できる。					
[到達目標] 企業などの業務内容を理解し、実体験を通して講義・実験と実際の技術との関連づけができるようになること。それを通して、将来の自分の職業に対する目標が立てられるようになること。							
[評価方法] 評価は実習先担当者、専攻長および専攻科長が以下の各項目を担当して行う。							
1. 実習先担当者による評価 実習先において以下の評価項目について総合的に、S (非常に満足:100点)、A (満足:90点)、B (やや満足:80点)、C (普通:70点)、D (やや不満:60点)、E (不満:50点) の評価を行う。 ①実習への取り組み姿勢。 ②実習内容の理解度および成果など。 ③報告書の内容、出来映えなど。							
2. 専攻長による実習報告書の評価 以下の評価項目について総合的に、S (非常に満足:100点)、A (満足:90点)、B (やや満足:80点)、C (普通:70点)、D (やや不満:60点)、E (不満:50点) の評価を行う。 ① 実習の目的、内容が理解できているか。 ②記述が簡潔で、正しい日本語で記述されているか。 ③図や表が適切で見やすいか。 ④実習内容、成果の水準など。							
3. 専攻長および専攻科長による報告会の評価 以下の評価項目について総合的に、S (非常に満足:100点)、A (満足:90点)、B (やや満足:80点)、C (普通:70点)、D (やや不満:60点)、E (不満:50点) の評価を行う。 ① 実習の目的、内容がわかりやすく説明されているか。 ②図や表が適切で見やすいか。 ② データの分析や考察が適切になされているか。 ④話し方、質疑応答が分かりやすく説得力があるか。 総合評価＝実習先担当者による評価:50%、実習報告書の評価:25%、報告会での評価:25%で、合計100点満点で採点し、60点以上を合格とする。							
[認証評価関連科目] (校外実習A、B)							
[JABEE関連科目] (校外実習A、B)							
[学習上の注意] 実習先への移動も含め、実習期間中には十分安全確保に努める。実習先の指示に従う。長期間の滞在になることもあるので、健康管理には十分配慮する。							
達成しようとしている 基本的な成果	(3)	秋田高専学習 ・教育目標	C-3	JABEE基準	d-2(d)		

資料 5 - 5 - ③ - 3

秋田県における大学、短期大学及び高等専門
学校間の単位互換に関する協定書

秋田大学、秋田県立大学、国際教養大学、ノースアジア大学、秋田看護福祉大学、日本赤十字秋田看護大学、秋田公立美術大学、秋田栄養短期大学、聖霊女子短期大学、日本赤十字秋田短期大学、聖園学園短期大学及び秋田工業高等専門学校（以下「参加大学等」という。）は、相互の交流と協力を推進し、大学教育の活性化と充実に資するとともに、意欲ある学生に多様な学習機会を提供することを目的とし、次により単位互換を行うことに合意する。

（対象学生）

- 1 本協定により単位互換ができる学生は、参加大学等に在学する学生とする。

（受入学生の呼称）

- 2 本協定に基づき、参加大学等が受け入れる学生は、特別聴講学生と称する。

（受入学生数）

- 3 参加大学等が受け入れる特別聴講学生数は、授業に支障のない範囲とし、必要に応じ、参加大学等間で調整する。

（履修方法）

- 4 特別聴講学生の科目登録、単位の認定等については、受入大学等の規則の定めるところによる。

（授業料等の費用）

- 5 受入に係る検定料、入学料及び授業料は徴収しない。

（会議）

- 6 本協定による単位互換を円滑に実施するため、運営に関する会議を大学コンソーシアムあきたに置く。

（有効期間）

- 7 本協定の有効期間は、平成25年4月1日から平成28年3月31日までとする。

（改廃）

- 8 この協定の改廃は、参加大学等間の協議によるものとする。

（その他）

- 9 本協定書の定めるもののほか、単位互換の実施に関する細目は、覚書により別に定める。

（出典 総務課総務係資料）

学生が修了時に身に付ける学力や資質・能力の各項目に対する授業形態の割合(平成25年度)

学科名	学年	合計単位数	(1)自ら問題を発見・解決する能力を備え、生涯に亘って学ぶことのできる能力を修得する。								(2)産業社会におけるグローバル化に対応するため、正しい日本語で表現(記述・口述・討論)し、かつ国際的に通用するプレゼンテーション能力を修得する。								(3)複雑で多岐にわたる工業技術分野に貢献できる技術者を育成し、学際領域にも対応できる能力を修得する。							
			講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計								
生産システム工学 専攻	1年	合計単位数	0	10	2	12	8	0	0	8	30	0	0	0	30	0	0	30								
		割合	0.0%	83.3%	16.7%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%								
	2年	合計単位数	0	10	0	10	4	0	0	4	14	0	0	0	14	0	0	14								
		割合	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%								
環境システム工学 専攻	1年	合計単位数	0	10	2	12	8	0	0	8	30	0	0	0	30	0	0	30								
		割合	0.0%	83.3%	16.7%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%								
	2年	合計単位数	0	10	0	10	4	0	0	4	14	0	0	0	14	0	0	14								
		割合	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%								

(出典 平成 25 年度専攻科授業計画 専攻科教育課程から抜粋)

資料 5 - 6 - ① - 2

授 業 科 目	必・選	学 年	専攻	担 当 教 員	単位数	授 業 時 間	自学自習時間
応 用 英 語 I Applied English I	必修	1 年	生産 環境	菅原 隆行	2	前期週 2 時間 (合計 30 時間)	前期週 4 時間 (合計 60 時間)
[教 材] 教科書: 「A Briefer History of Time」 Stephen Hawking Bantam Press 「The Expanding Universe of English」 東京大学出版会 補助教材: 「即戦ゼミ 8 大学入試基礎英語頻出問題総演習」 上垣曉雄編著 桐原書店							
[授業の目標と概要] 英文の精読とTOEICの問題演習を通して、より高度な英語の運用能力と国際的に通用するプレゼンテーション能力の基礎を養う。							
[授業の進め方] 演習形式で行い、2週に1回のペースで小テストを実施する。なお、アルクネットアカデミーは主に自習課題として用いる。							
[授業内容]							
授 業 項 目	時 間	内 容					
授業ガイダンス	1	授業の進め方と評価の仕方について説明する。					
アルクネットアカデミー (E-Learning)							
レベル診断テスト	1	1. TOEICの問題性質を理解し、各パートに対するトレーニング法がわかる。					
リスニング:Unit 1～20	3	2. 大量の情報から、必要な情報を選び出すことができる。					
リーディング:Unit 1～20	3	3. 英文を速読することができる。					
<A Briefer History of Time>		4. シャドーイングによるリスニングの伸ばし方が分かる。					
10. Wormholes and Time Travel	10	ワームホールによるタイムトラベルの可能性に関する英文を読み、ビッグバン理論・量子力学の基礎を理解できる。					
<The Expanding Universe of English>							
Session 10 Seeing with a Stick	10	視覚障害のある人の日記を英文で読み、内容を理解できる。					
定期試験	あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。					
試験の解説と解答	2	試験の解説と解答、授業アンケート、本授業のまとめ					
[到達目標] 長い英文の意味を正確に読み取る力と、国際的に通用するプレゼンテーション能力の基礎として必要なTOEICスコア500点以上の英語運用能力を身につけるのが目標である。							
[評価方法] 合格点は60点である。評価方法は、定期試験結果を50%、小テスト結果を20%、TOEIC IPテスト結果を30%で評価する。 なお、TOEICスコア400点未満の学生は、単位取得が困難になる可能性があるので注意すること。							
[認証評価関連科目] (英語 I), (英語 I L 演習), (英語 II), (英語会話), (英語 III), (総合英語 I), (総合英語 II), (工業英語), (上級英語), 応用英語 II, 応用英語 III							
[JABEE関連科目] (総合英語 I), (総合英語 II), (上級英語), (工業英語), 応用英語 II・III							
[学習上の注意] 英文を読んで新しい知識を得る為の英文読解力を養成するので、英文法の高度な運用能力と幅広い教養を身につけておくことが重要である。また、TOEIC対策の授業では積極的に授業に参加すること。							
達成しようとしている 基本的な成果	(2)	秋田高専学習成果 ・教育目標					
	D-2	JABEE基準					
	a, f						

資料 5 - 6 - ① - 3

授 業 科 目	必・選	学 年	学 科 (組) 専攻	担 当 教 員	単 位 数	授 業 時 間	自 学 自 習 時 間
応用英語 II Applied English II	必修	1 年	生産 環境	小林 貴	2	後期週 2 時間 (合計 30 時間)	後期週 4 時間 (合計 60 時間)
[教 材] 教科書: <i>Preparation Course for the TOEIC Test</i> , Akira Morita 他 SEIBIDO 補助教材: 「即戦ゼミ 8 大学入試基礎英語頻出問題総演習」 上垣曉雄編著 桐原書店							
[授業の目標と概要] 産業社会におけるグローバル化に対応するため、国際的に通用するプレゼンテーション能力を修得するための英語によるコミュニケーションに必要な基本的能力を身につける。							
[授業の進め方] 演習形式で行い、2 週に 1 回のペースで補助教材による単語小テストを実施する。尚、E-Learning は課題及び小テストに使用する。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。							
[授業内容]							
授 業 項 目		時 間	内 容				
授業ガイダンス		1	授業の進め方と評価の仕方について説明する。				
「ALC NetAcademy2 スーパースタンドコース」 (E-Learning)							
リスニング: Unit 21~40		3	TOEICの問題性質を理解し、リスニングの各パートに対するトレーニング法がわかる。				
リーディング: Unit 21~40		3	大量の情報から、必要な情報を選び出すことができる。英文を速読することができる。				
「ALC NetAcademy2 TOEICテスト演習 2000コース」 (E-Learning)		3	小テストを解くことができる。小テストは適宜行う。				
<i>Preparation Course for the TOEIC Test</i>							
LISTENING SECTION Part I, Part II		2	LISTENING SECTIONを正確に聞き取る力を身につける。				
LISTENING SECTION Part III, Part IV		3	LISTENING SECTIONを正確に聞き取る力を身につける。				
READING SECTION Part V, Part VI		3	READING SECTIONを正確に読み取る力を身につける。				
READING SECTION Part VII		3	READING SECTIONを正確に読み取る力を身につける。				
モデルコアカリキュラム		7	英語コミュニケーション能力を向上させる。				
後期試験		あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
試験の解説と解答		2	試験の解説と解答、授業アンケート、本授業のまとめ				
[到達目標] 産業社会におけるグローバル化に対応するため、国際的に通用するプレゼンテーション能力を修得するための英語によるコミュニケーションに必要な基本的能力を身につける。そのために英文を正確に聞き取る力と読み取る力を身につける。							
[評価方法] 合格点は60点である。後期試験結果を60%、単語小テストを10%、「TOEICテスト演習2000コース」小テストを10%、モデルコアカリキュラム (必須) を20%で評価する。							
[認証評価関連科目] (英語Ⅰ)、(英語Ⅱ演習)、(英語Ⅱ)、(英語会話)、(英語Ⅲ)、(総合英語Ⅰ)、(総合英語Ⅱ)、(上級英語)、(工業英語)、応用英語Ⅰ・ⅢⅢ							
[JABEE関連科目] (総合英語Ⅰ)、(総合英語Ⅱ)、(上級英語)、(工業英語)、応用英語Ⅰ・ⅢⅢ							
[学習上の注意] 英文を正確に聞き取る力、読み取る力及び英語コミュニケーション能力を向上させるために、授業への準備を欠かさないこと。また、学習の過程で疑問が生じた時には積極的に辞書、参考書等を参照し解決するよう努めること。							
達成しようとしている 基本的な成果	(2)	秋田高専学習 ・教育目標	D-2	JABEE基準	a, f		

資料 5 - 6 - ① - 4

授 業 科 目	必・選	学 年	学 科 専 攻	担 当 教 員	単 位 数	授 業 時 間	自 学 自 習 時 間
熱移動論 Theory of Heat Transfer	選択	1 年	生産	一田守政	2	後期週 2 時間 (合計 30 時間)	後期週 4 時間 (合計 60 時間)
[教 材] 教科書：伝熱工学 一色 尚次、北山 直方 共著 森北出版 その他：自製プリントの配布							
[授業の目標と概要] エネルギー有効利用のための基本技術として、現実の伝熱過程で要求される伝熱抑制技術（断熱技術）、伝熱促進技術、蓄熱技術などの基礎事項について習得することを目的とする。							
[授業の進め方] 講義形式で行う。演習を随時行うと同時にレポートの提出を行う。 試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。							
[授業内容]							
授 業 項 目		時 間	内 容				
授業ガイダンス		1	授業の進め方と評価の仕方について説明する。				
1 熱移動の基礎		3	伝熱工学の概要と熱伝導、熱伝達、熱放射を理解できる。				
2 熱伝導の基礎		2	熱伝導を律する法則を理解できる。				
3 定常熱伝導の計算		4	平行平板、円管、球状壁の定常熱伝導の計算式を導く。				
4 非定常熱伝導の計算		2	非定常熱伝導の基礎式を導くと同時に図式解法で計算できる。				
5 熱通過の計算		2	ニュートンの冷却の法則を用いて、固体－流体間に単位時間に移動する熱量を計算できる。				
6 熱交換器の種類と伝熱計算		3	熱交換器のメカニズムを理解すると同時に熱交換器の伝熱を計算できる。				
7 対流熱伝達と実験式		3	自然対流、強制対流の実験式を使用できる。				
8 沸騰の熱伝達		2	沸騰の熱伝達の現象を説明できる。				
9 凝縮を伴う熱伝達		2	凝縮を伴う熱伝達の現象を説明できる。				
10 放射伝熱		3	放射伝熱の現象を説明できる。				
11 物質伝達		1	物質伝達の現象を説明できる。				
後期試験		あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
試験の解説と解答		2	後期試験の解説と解答、本授業のまとめ、および授業アンケート				
[到達目標] エネルギー有効利用の観点から要求されている熱交換装置、蓄熱技術、断熱技術などに関する基礎事項を理解し応用できるようになることを目的とする。							
[評価方法] 合格点は 60 点である。 試験結果を 80%、演習問題またはレポートを 20% で評価する。 学年総合成績 = (学年末試験結果) × 0.8 + (演習問題またはレポートの結果) × 0.2							
[認証評価関連科目] (工業熱力学Ⅰ、Ⅱ)、(熱工学)、(内燃機関Ⅱ)、(熱工学)、(流体工学Ⅰ)、(流体工学Ⅰ、Ⅱ)							
[JABEE 関連科目] (工業熱力学Ⅰ)、(工業熱力学Ⅱ)、(熱工学)、(機械設計)、(内燃機関Ⅰ)、(内燃機関Ⅱ)							
[学習上の注意] 授業で問題を解くので、事前に目を通しておくこと。電卓は必ず持ってくること。							
達成しようとしている基本的な成果	(3)	秋田高専学習 ・教育目標	C-1	JABEE 基準	d-2(a)		

資料 5-6-①-5

授 業 科 目	必・選	学 年	専 攻	担 当 教 員	単 位 数	授 業 時 間	自 学 自 習 時 間
反応工学特論 Chemical Reaction Engineering	選択	1 年	環境	船山 齊	2	前期週 2 時間 (合計 3 0 時間)	前期週 4 時間 (合計 6 0 時間)
[教 材] 教科書：改訂版「反応工学」 橋本 健治著、培風館 補助教科書：							
[授業の目標と概要] 化学反応装置の設計に関する講義である。反応速度を理解するための基礎知識から反応装置の設計に至る広い範囲の知識を修得する。							
[授業の進め方] 演習を多く取り入れながら講義形式で行う。 必要に応じてレポートの提出を求める。 試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。							
[授業内容]							
授 業 項 目	時 間	内 容					
1.授業ガイダンス	1	授業の進め方と評価の仕方について説明する。					
2.反応工学の対象	3	化学反応の種類と反応装置の種類について理解する。					
3.反応速度式							
1)反応速度と反応次数および反応分子数	2	反応速度の意味を理解する。					
2)反応速度式の導出		反応速度式を導出できる。					
定常状態仮定	2	定常状態仮定を理解し、これを用いて反応速度式を導出できる。					
律速段階の近似	2	律速の概念を理解し、反応速度式の導出に応用できる。					
酵素反応	2	酵素反応の反応速度式を導出できる。					
4.反応器設計の基礎							
1)化学量論	2	量論関係を記述できる。					
2)反応器の設計方程式		物質収支をもとにして、反応の装置設計方程式を導出できる。					
回分反応器の設計方程式	2	回分反応器の設計方程式を利用できる。					
槽型反応器の設計方程式	2	槽型反応器の設計方程式を利用できる。					
管型反応器の設計方程式	2	管型反応器の設計方程式を利用できる。					
5.反応速度解析							
1)微分法による解析	3	微分法を用いて反応速度を解析できる。					
2)積分法による解析	3	積分法を用いて反応速度を解析できる。					
6.総括	2	本授業のまとめ					
前期試験	あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。					
試験の解説と解答	2	前期試験の解説と解答、授業アンケート					
[到達目標] ① 反応速度の概念を理解する。② 量論関係を記述できる。③ 設計方程式を利用できる。 ④ 反応速度を正確に解析できる。							
[評価方法] 合格点は60点である。 試験結果を70%、ゼミ資料の内容を20%、演習レポートを10%で評価する。							
[認証評価関連科目] (化学工学, プロセス工学, 反応工学)							
[JABEE関連科目] (化学工学, プロセス工学, 反応工学)							
[学習上の注意] 演習問題を積極的に解くことにより、反応速度や反応装置を理解することが出来る。 具体的な現象と関連づけながら理解することが必要である。							
達成しようとしている 基本的な成果	(3)	秋田高専学習・ 教育目標	C-1	J A B E E 基準	d-2(a)		

資料 5 - 6 - ② - 1

授業科目	必・選	学年	専攻	担当教員	単位数	授業時間	自学自習時間
環境科学 Environmental Science	必修	1年	生産環境	佐藤 恒之 金 主紘	2	後期週2時間 (合計30時間)	後期週4時間 (合計60時間)
[教材] 教科書:「環境の科学」山口勝三、菊地立、斎藤絃一共著、培風館 その他:自製プリントの配布							
[授業の目標と概要] 地球環境に関する問題を、大気汚染、水質汚濁、温暖化、難分解性物質などの諸現象から理解を深め、資源とエネルギー問題の解決を念頭に、問題の存在と対処法に関してその要素技術や解決プロセスへの理解を深める。							
[授業の進め方] 講義形式で行う。レポート提出や課題発表を実施する。							
[授業内容]							
授業項目			時間	内 容			
授業ガイダンス			1	授業の進め方と評価の仕方について説明する。			
1. 環境問題とは			2	環境問題発生背景とその本質について理解できる。			
(1) 環境問題の出現と本質							
2. 地球の自然と物質			1	宇宙の誕生とその中の地球について理解できる。			
(1) 宇宙と地球			1	水の誕生と他の物質とは異なる水の性質を説明できる。			
(2) 不思議な物質-水							
3. 資源と環境			2	エネルギーの使用経過と有限の資源に関して理解できる。			
(1) 資源問題とエネルギー			2	水資源や食糧問題について説明できる。			
(2) 水資源と食料			2	難分解性物質の誕生とその利用、健康への影響について説明できる。			
4. 難分解性物質による汚染							
5. 都市環境			2	近年の都市気温の傾向を理解し、その原因を説明できる。			
(1) 都市の気温上昇			2	大気汚染物質の発生源について説明できる。自然を利用した都市や、環境保全策について理解できる。			
(2) 都市の大気汚染							
(3) 自然の仕組みと都市づくり、環境保全			2				
6. 大気汚染と酸性雨			2	光化学汚染の原因物質と発生要因について理解できる。			
(1) 汚染物質と光化学汚染			2	酸性雨の定義と影響及び現状に関して説明できる。			
(2) 酸性雨							
7. 水質汚濁と汚染物質			1	水質指標を理解し、環境基準について説明できる。			
(1) 水質指標と環境基準			2	富栄養化の意味とその解決策について説明できる。			
(2) 富栄養化と海洋汚染							
8. 温暖化する地球			1	大気中ガス濃度と温室効果について説明できる。			
(1) 地球環境と温室効果			1	物質循環の中で炭素の循環に関して理解できる。			
(2) 人間活動と炭素の循環			2	温暖化が地球環境に与える影響について説明できる。			
(3) 温暖化の影響と対策							
期末試験			あり	上記項目について学習した内容の到達度を確認する。			
試験の解説と解答			2	試験の解説と解答、授業のまとめ、授業アンケート			
[到達目標] 地球環境問題の解決は、分野を問わず全ての技術の基礎になっている。このことを講義を通して学び、ものづくりや環境問題の解決など、将来各自が進むべき道で役立つような知識を修得する。							
[評価方法] 合格点は60点である。試験結果80%、レポート・課題発表等20%で評価する。							
[認証評価関連科目] 生産システム工学、環境水文学、(基礎生態工学)、(環境衛生工学)、(基礎水理学)、(環境工学)							
[JABEE関連科目] 技術者倫理、(環境工学)							
[学習上の注意] 自ら広く調べ、学ぶことによって知識が身に付くことを知り、環境問題が広範囲な分野に影響を与えていることを理解する。							
達成しようとしている基本的な成果	(3)	秋田高専学習・教育目標	B-2	JABEE基準	d-1⑤		

自学自習に係わる課題提出の一覧表

(本科 4, 5 学年の学修単位科目(講義科目必修&選択)および専攻科講義科目対象)

学科(専攻)・学年 環境システム工学専攻・2年 学生氏名 高野 聖科目名 構造力学時論 (前期・後期・通年)担当教員 堀江 保

年月日(実施日)	課題内容(予習等を含む)	時間	教員確認
2012.4.14(土)	課題レポート1 (例題1)	4	堀江
2012.4.20(金)	弾性荷重法の予習	4	堀江
2012.5.6(日)	課題レポート2 (例題2)	6	堀江
2012.5.12(土)	課題レポート3 (例題2・マコリーの プリント)	4	堀江
2012.5.19(土)	課題レポート4 (例題4・片持ち)	4	堀江
2012.5.26(土)	課題レポート5 (例題1 例題2)	4	堀江
2012.6.1(金)	トラスのたわみ 予習	4	堀江
2012.6.10(日)	課題レポート6 (トラスの 変形図)	6	堀江
2012.6.14(木)	たわみ角法の手順 予習	4	堀江
2012.6.20(水)	課題レポート7	4	堀江
2012.6.30(土)	ラーメンのたわみ 予習	4	堀江
2012.7.5(木)	課題レポート8 (トラスの たわみ30)	6	堀江
2012.7.11(水)	課題レポート9 (層状程式 例題5)	6	堀江

(出典 自学自習に係わる課題提出の一覧表)

資料 5 - 6 - ③ - 1

授業科目	必・選	学年	専攻	担当教員	単位数	授業時間	自学自習時間
創造工学演習 Exercise of Creative Engineering	必修	1年	生産	木澤 悟	2	後期週4時間 (合計60時間)	後期週2時間 (合計30時間)
[教 材] 教科書：プリント（自作テキスト） 補助教科書：電子工作のためのPIC活用ガイドブック 後閑哲哉 著 技術評論社							
[授業の目標と概要] ワンチップマイコンであるPICを用いたサッカーロボットの設計と製作を通してメカトロシステムの構築法について学習し、競技会によって成果を発表する。関連する内容について、書籍やインターネットで補助資料を収集できる能力を養う。							
[授業の進め方] 演習形式で行います。最後に競技会によって成果を発表する。							
[授業内容]							
授業項目	時間	内 容					
授業ガイダンス	1 3	授業の進め方と評価の仕方について説明する					
1 メカトロニクスの基礎							
(1) 実験の目的、競技説明、製作の進め方		製作のための段取りと進め方が理解できる					
(2) PIC マイコンの動作		PIC の使い方を理解することができる					
(3) モータドライブとモータ制御		モータドライバの動作原理が理解できる					
(4) 送受信赤外線モジュール		赤外線モジュールの使い方がわかる					
(5) プログラミング		C言語による PIC の操作が理解できる					
2 構想と設計	16						
(1) サッカーロボットの構想		戦術を基にロボット製作を構想することができる					
(2) メカ部の設計と製図		CAD等を利用して設計製図ができる					
(3) 制御のための電子回路の設計および構成		ブレッドボード上で配線し制御回路が理解できる					
(4) 中間報告会（プレゼンテーション）		構想設計したアイデアを発表する					
3 製 作	36						
(1) 機械加工		メカ部を旋盤やフライス盤による機械加工ができる					
(2) 制御のための電子回路基盤の作成		基盤にPICや電子素子を配置し半田付けができる					
(3) プログラムの作成		プログラムをPICに転送しデバッグすることができる					
4 サッカーロボット競技会	2	グループで製作したロボットで競技することができる					
5 最終報告レポート	2	設計図、回路図を添付し製作したロボットの特徴や欠点をまとめた報告書を提出できる。本授業のまとめ授業アンケート					
[到達目標] 製作を通して、新しい技術や知識を積極的に取り入れ、創造的な思考を養う。製作過程の中で、失敗を繰り返しながら問題発見能力および問題解決能力の向上を目指す。共同しながら作業を進める能力を獲得する。 最終的には競技可能なロボットを製作できること。							
[評価方法] 総合評価は、『構想力・計画設計・具現化』30点、『取り組み』20点、『成果報告』50点の計100点として、合格点は60点とする。その内訳に関しては、 ・『構想力・計画設計・具現化』は「創造性のあるアイデアを提案できる」10点、「複数の知識を応用できる」10点、「コスト等の制約条件や解決すべき問題点を考慮したデザインあるいは解決策となっている」10点を評価観点とする。具体的には、それぞれ「構想力」10点、「設計・開発力」10点、「技術・大会結果」10点とする。 ・『取り組み』は「コミュニケーション力ならびにチームワーク力」10点、「積極的に取り組み、計画的に実施する能力などがある」10点を評価観点とする。具体的には、それぞれ、「共同作業によるコミュニケーション」10点、「実務能力」10点とする。 ・『成果報告』は「解決すべき課題の自然や社会への影響および改善・発展について考察している」25点、「発表や報告書等でデザイン、構想あるいは解決策の結果を分かりやすく提示するために、図、文章、式、プログラム等で表現している」25点を評価観点とする。具体的には、それぞれ、「最終報告書」25点、「中間報告書(10点)・プレゼンテーション(15点)」25点とする。							
[認証評価関連科目] 生産システム工学特別実験、創造工学演習(2年) 機械工学系：(工作実習Ⅰ・Ⅱ)、(創造設計製作)、(工学実験Ⅰ・Ⅱ) 電気情報工学系：(電気製図)、(ものづくり工作実習)、(基礎工学実験)、(電気情報基礎実験)、(電気情報工学実験Ⅰ・Ⅱ)							
[JABEE関連科目] 生産システム工学特別実験、創造工学演習(2年)							
[学習上の注意] 自分でよく考え、いろいろな方法にチャレンジしてみること。話し合う中から良いアイデアが浮かぶ可能性もあるのでグループでの話し合いも大切にする。							
達成しようとしている基本的な成果	(1)	秋田高専学習・教育目標 C-4、D-1、E-1 J A B E E 基準 d-2(c), e, f, h					

資料 5 - 6 - ③ - 2

授業科目	必・選	学 年	学科(組) 専 攻	担 当 教 員	単位数	授 業 時 間	自学自習時間
創造工学演習 Exercise of Creative Engineering	必修	1 年	環 境	西野 智路 恒松 良純	2	後期週 4 時間 (合計 60 時間)	後期週 2 時間 (合計 30 時間)
【教 材】 教科書：自製プリント 参考書：色素増感太陽電池の最新技術Ⅱ（普及版），荒川裕則著，シーエムシー出版 コンパクト建築設計資料集成，日本建築学会，丸善							
【授業の目標と概要】 色素増感太陽電池について，基礎となる各要素技術の実験を通じて発電プロセスについて理解し，発電効率を向上させるための提案ならびに太陽電池の製作ができる能力，また，身近な生活の場としての都市のあり方について，問題点を抽出し，よりよい空間になるための提案をできる能力を身につけることを目標とする。							
【授業の進め方】 演習形式で行う。具体的には，実験準備，実験，データ整理，発表準備，発表を 1 サイクルとし，これを 2 サイクル行う。必要に応じてレポートの提出を求める。							
【授業内容】							
授 業 項 目		時 間	内 容				
授業ガイダンス		2	授業の進め方と評価の仕方について説明する。				
1. 色素増感太陽電池の要素技術と作成							
(1) 酸化物質電極と光電変換特性		4	色素増感太陽電池の構造と評価方法が理解できる。				
(2) 増感色素の光吸収と光電変換特性		4	増感色素の光吸収について理解できる。				
(3) オリジナル太陽電池の作成		8	自分たちで作成する太陽電池について提案ならびに作成ができる。				
(4) オリジナル太陽電池の性能評価		4	作成した太陽電池の性能評価ができる。				
2. プレゼンテーションⅠ							
(1) プレゼンテーション資料の作成		4	プレゼンテーション資料を作成できる。				
(2) プレゼンテーション発表		4	説得力あるプレゼンテーションができる。				
3. 都市空間への提案							
(1) 問題点の抽出		4	都市空間における問題点を抽出・検討できる。				
(2) 関連分野の資料収集		6	関連分野の特徴を調べることの重要性を理解できる。				
(3) コンセプトの作成・提案		8	問題に対する提案・デザインの手法が理解できる。				
4. プレゼンテーションⅡ							
(1) プレゼンテーション資料の作成		6	プレゼンテーション資料を作成できる。				
(2) プレゼンテーション発表		4	説得力あるプレゼンテーションができる。				
後期試験		なし					
		2	本授業のまとめ，および授業アンケート				
【到達目標】 色素増感太陽電池の発電プロセス・作成方法ならびに都市の問題点を理解するとともに，資料の作成と発表を通じてプレゼンテーション技術を身につけることができるようになること。							
【評価方法】 総合評価は『構想力・計画設計・具現化』30点，『取り組み』20点，『成果報告』50点の計100点として，合格点は60点とする。その内訳に関しては，・『構想力・計画設計・具現化』は「創造性のあるアイデアを提案できる」10点，「複数の知識を応用できる」10点，「コンテスト等の制約条件や解決すべき問題点を考慮したデザインあるいは解決策となっている」10点を評価観点とする。・『取り組み』は「コミュニケーション力ならびにチームワーク力」10点，「積極的に取り組み，計画的に実施する能力などがある」10点を評価観点とする。・『成果報告』は「解決すべき課題の自然や社会への影響および改善・発展について考察している」25点，「発表や報告書等でデザイン，構想あるいは解決策の結果を分かりやすく提示するために，図，文章，式，プログラム等で発現している」25点を評価観点とする。							
【認証評価関連科目】 創造工学演習（2年），特別研究（2年）							
【JABEE関連科目】 創造工学演習（2年）							
【学習上の注意】 配布資料を参考に各演習テーマに関する事項について調べ，演習より得られた結果と併せてまとめておくことが重要である。特に，レポート・宿題の未提出者は単位取得が困難となるので注意すること。							
達成しようとしている基本的な成果	(1)	秋田高専学習・教育目標	C-4, D-1, E-1	JABEE基準	d-2(c), c, f, h		

平成 24 年度専攻科インターンシップ報告会

期日 平成 24 年 12 月 14 日（金）

会場 テクノコミュニティ

報告者

15:00 ～海外インターンシップ

240707 佐々木 貴晃（生産システム，ランス）

240708 田村 賢介（生産システム，ベティース）

240715 松浦 慶（生産システム，ベティース）

16:00 ～国内インターンシップ

240703 小野 嵩晃（生産システム，山梨大学）

240713 藤原 滉司（生産システム，山梨大学）

240801 伊藤 遼太（環境システム，秋田県立大学）

240809 佐藤 裕太（環境システム，秋田県立大学）

報告時間 発表，質疑応答を含め 10 分を目安とする

報告会の評価 専攻科長および専攻長

（出典 平成 24 年度専攻科インターンシップ報告会プログラム）

平成 25 年度専攻科インターンシップ報告会

期日 平成 26 年 1 月 16 日（木）

会場 301 教室

報告者

15:00 ～海外インターンシップ

250703 小松 瞭（生産システム，リール A）

250707 高橋 乃基（生産システム，リール A）

250802 木村 雪花（環境システム，テマセクポリテク）

250808 鈴木 淳哉（環境システム，リール A）

16:00 ～国内インターンシップ

250702 梅木 陽（生産システム，N T T 秋田支店）

250804 佐藤 丈実（環境システム，東北大学）

報告時間 発表，質疑応答を含め 10 分～ 15 分を目安とする

報告会の評価 専攻科長および専攻長

（出典 平成 25 年度専攻科インターンシップ報告会プログラム）

資料 5－7－①－1

カテゴリ 02 規則

タイトル 新たに専攻科担当教員となる場合の取扱い（別紙、様式 1～3 未添付）

新たに専攻科担当教員となる場合の取扱い

平成 6 年 9 月 12 日

校 長 裁 定

1 専攻科の授業科目を担当する教員（以下「専攻科担当教員」という。）の資格審査を行う場合は、校

長は、教務主事及び専攻科長の意見を徴し行うものとする。

2 専攻科担当教員の資格審査の申請にあたっては、専攻科長は、別紙申請書に次の書類を添えて、原

則として新たに担当させる年度の前年度末までに校長に提出するものとする。

（1） 専攻科の授業科目を担当する教員の個人調書

（その 1）履歴書

（その 2）教育研究業績書

（2） 担当授業科目に係る講義要目

3 専攻科担当教員となることが承認された教員に関わる審査書類は、独立行政法人大学評価・学位

授与機構が行う「認定を受けた専攻科における教育の実施状況等の審査」に備え、校長が保存するも

のとする。

4 専攻科担当教員となることが承認された教員の専攻科における授業の担当は、原則として承認され

た年度の翌年度からとする。

附 則

この取扱いは、平成 6 年 9 月 12 日から施行する。

附 則

この取扱いは、平成 11 年 4 月 2 日から施行する。

附 則

この取扱いは、平成 15 年 1 月 21 日から施行する。

附 則

この取扱いは、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

※様式関係 略

（出典 秋田高専専攻科学生の指導教員に関する申し合わせ）

資料 5 - 7 - ① - 2

カテゴリ 02 規則

タイトル 秋田工業高等専門学校専攻科学生 of 指導教員（特別研究テーマ）決定に関する申合せ

秋田工業高等専門学校専攻科学生 of 指導教員（特別研究テーマ）決定に関する申合せ

1. 博士 of 学位を有する教員は、次により特別研究を履修する学生（以下「学生」という。）を受入れ、指導教員となるものとする。

ただし、当該学生 of 修業年限（2 年）について、指導教員となることができない教員は除くものとする。

2. 大学評価・学位授与機構が実施する特別研究担当教員 of 資格審査で認定を受けた教員（以下、「特別研究担当教員」という。）と認定を受けていない教員（以下「準特別研究担当教員」という。）とに分ける。指導教員として、受け入れることができる学生数を原則として次のとおりとする。

特別研究担当教員 1 学年 2 名

準特別研究担当教員 1 学年 1 名

3. 指導教員は、学生 1 名に対して副指導教員 2 名（1 名は特別研究担当教員とする。）を置かなければならない。

ただし、副指導教員 2 名を置くことができないときは、専攻科長との相談による。

4. 副指導教員は、原則として博士 of 学位を有する教員とし、指導できる学生数は専攻科長との相談による。

5. 各教員は、毎年度受入れ可能な最近の研究テーマ数題を専攻長に提出し、専攻長はこれを編集して学生に提示する。

なお、この研究テーマは、研究の内容と方向を示すもので最終的な研究テーマではない。

6. 学生と受入れ教員との調整がつかないときは、専攻科長、各専攻長、各学科等 of 専攻科教務委員のもとで調整する。

附 則

この申合せは、平成 6 年 4 月 14 日から施行する。

附 則

この申合せは、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この申合せは、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この申合せは、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

（出典 秋田高専特別研究テーマ決定に対する指導プロセス）

資料 5 - 7 - ① - 3

指導教員及び副指導教員一覧

生産システム工学専攻

修 了 生		指 導 教 員	副 指 導 教 員
氏 名	出 身 学 科	氏 名	氏 名
伊 藤 和 也	電気情報工学科	宮 田 克 正	山 崎 博 之 堀 江 保
奥 山 康 平	電気情報工学科	高 橋 身 佳	安 東 至 山 崎 博 之
金 田 啓 佑	機 械 工 学 科	一 田 守 政	土 田 一 野 澤 正 和
鎌 田 大 地	機 械 工 学 科	小 林 義 和	宮 脇 和 人 木 澤 悟
工 藤 駿	機 械 工 学 科	木 澤 悟	宮 脇 和 人 小 林 義 和
金 悠 生	電気情報工学科	宮 田 克 正	田 中 将 樹 伊 藤 桂 一
齊 藤 匠	電気情報工学科	上 田 学	浅 野 清 光 成 田 章
佐 藤 光	機 械 工 学 科	木 澤 悟	小 林 義 和 山 崎 博 之
竹 内 翔 太	電気情報工学科	宮 田 克 正	田 中 将 樹 伊 藤 桂 一
千 蒲 悠 平	電気情報工学科	坂 本 文 人	上 林 一 彦 伊 藤 桂 一
布 川 和 宏	機 械 工 学 科	木 澤 悟	宮 脇 和 人 小 林 義 和
松 橋 正 峻	電気情報工学科	安 東 至	高 橋 身 佳 山 崎 博 之
三 浦 一 成	機 械 工 学 科	木 澤 悟	宮 脇 和 人 小 林 義 和
水 野 学	機 械 工 学 科	野 澤 正 和	一 田 守 政 茂 木 良 平
村 越 拓 真	電気情報工学科	平 石 広 典	浅 野 清 光 長谷川 裕 修

環境システム工学専攻

修了生		指導教員	副指導教員
氏名	出身学科	氏名	氏名
阿部翔平	物質工学科	丸山耕一	野坂肇 坂本文人
熊谷咲子	物質工学科	西野智路	船山齊 野中利瀬弘
佐々木大地	環境都市工学科	金主鉉	上松仁 佐藤悟
猿田一平	物質工学科	榊秀次郎	上松仁 伊藤浩之
鈴木大士	物質工学科	船山齊	佐藤恒之 西野智路
中西慎太郎	物質工学科	丸山耕一	榊秀次郎 上林一彦
新田愛祈嗣	物質工学科	鈴木祥子	石塚眞治 横山保夫
畠山絵梨	物質工学科	榊秀次郎	上松仁 伊藤浩之
畠山諒也	物質工学科	横山保夫	石塚眞治 鈴木祥子
藤井摩弥	環境都市工学科	堀江保	脇野博 角哲
保坂隆之	物質工学科	鈴木祥子	上松仁 横山保夫
村井織羽	物質工学科	上松仁	伊藤浩之 横山保夫

(出典 平成 24 年度専攻科特別研究論文集 P. 201～202)

平成26年4月17日

平成26年度前期技術教育支援センター業務計画表

	月								火								水								金								備 考
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	
松田 英昭	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	事務担当 (実習工場)
佐々木智征	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	事務担当 (センター)
辻 尚史	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	事務担当 (機 械)
鎌田 勝治 (非常勤)	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	
金澤 徳雄 (非常勤)	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	
八重樫知宏	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	事務担当 (電気情報)
渡部 秀崇	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	
伊藤 恵	2M化学Ⅰ	2M化学Ⅰ	2M化学Ⅰ	2M化学Ⅰ	2M化学Ⅰ	2M化学Ⅰ	2M化学Ⅰ	2M化学Ⅰ	2M化学Ⅰ	2M化学Ⅰ	2M化学Ⅰ	2M化学Ⅰ	2M化学Ⅰ	2M化学Ⅰ	2M化学Ⅰ	2M化学Ⅰ	2M化学Ⅰ	2M化学Ⅰ	2M化学Ⅰ	2M化学Ⅰ	2M化学Ⅰ	2M化学Ⅰ	2M化学Ⅰ	2M化学Ⅰ	2M化学Ⅰ	2M化学Ⅰ	2M化学Ⅰ	2M化学Ⅰ	2M化学Ⅰ	2M化学Ⅰ	2M化学Ⅰ	2M化学Ⅰ	事務担当 (物 質)
野中 恵	1C化学Ⅰ	1C化学Ⅰ	1C化学Ⅰ	1C化学Ⅰ	1C化学Ⅰ	1C化学Ⅰ	1C化学Ⅰ	1C化学Ⅰ	1C化学Ⅰ	1C化学Ⅰ	1C化学Ⅰ	1C化学Ⅰ	1C化学Ⅰ	1C化学Ⅰ	1C化学Ⅰ	1C化学Ⅰ	1C化学Ⅰ	1C化学Ⅰ	1C化学Ⅰ	1C化学Ⅰ	1C化学Ⅰ	1C化学Ⅰ	1C化学Ⅰ	1C化学Ⅰ	1C化学Ⅰ	1C化学Ⅰ	1C化学Ⅰ	1C化学Ⅰ	1C化学Ⅰ	1C化学Ⅰ	1C化学Ⅰ	1C化学Ⅰ	事務担当 (一般化学)
花田 智秋	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	事務担当 (環境都市)
米谷 裕 (再雇用)	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	事務担当 (物質・物理)
大友 歩平	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	事務担当 (情報処理)
岡部 克利	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	事務担当 (情報処理)
新井 博貴	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	3B応物Ⅰ	事務担当 (情報処理)
保坂トミ (非常勤)	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	2E物理Ⅰ	

※卒業研究、専攻科特別研究、基礎研究は随時対応 科目名欄記は短縮しています
科目欄記 A : 1E化学Ⅰ、2B化学Ⅱ を表す

(出典 技術教育支援センター資料)

修了生の研究実績一覧

生産システム工学専攻

著 者 名	論 文 名	発 表 機 関	発表年月
阿 部 晃 大 安 東 至 落 合 政 司	ロスレススナバを活用したインターリーブ式ソフトスイッチングPFC回路	平成23年度電気関係学会東北支部連合大会講演論文集1B09	2011.8
阿 部 晃 大 安 東 至 落 合 政 司	ロスレススナバを組み入れたインターリーブ式ソフトスイッチング昇降圧チョッパ	第17回高専シンポジウムin熊本 講演番号SB31	2012.1
阿 部 晃 大 安 東 至 落 合 政 司	ロスレススナバを組み入れたインターリーブ式ソフトスイッチングPFC回路の実験的検討	平成24年度電気関係学会東北支部連合大会講演論文集2G22	2012.8
阿 部 晃 大 松 橋 正 倫 安 東 至 落 合 政 司	ロスレススナバを組み入れたインターリーブ式ソフトスイッチングPFC回路の波形改善	平成25年電気学会全国大会	2013.3
松 浦 慶 阿 部 晃 大 安 東 至 大 石 潔	スイッチングの事前情報を必要としない直流電流検出による三相交流電流の復元	平成25年電気学会全国大会	2013.3
門 松 英 田 中 将 樹	カーボンナノチューブ添加高分子のミリ波照射による温度変化の測定	応用物理学会東北支部第67回学術講演会講演予稿集 講演番号7pB06,pp.184-185	2012.12
川 上 主 朗 田 中 将 樹	FDTD法によるミリ波帯回折光学素子の偏向特性の解析	応用物理学会東北支部第67回学術講演会講演予稿集 講演番号7pB03,pp.178-179	2012.12
古 仲 弘太郎 野 澤 正 和 一 田 守 政 上 林 一 彦	超流動ヘリウム中に発生する特異な膜沸騰現象の流動状態の考察	平成23年東北地区高等専門学校専攻科研究発表交流会	2011.11
古 仲 弘太郎 野 澤 正 和 一 田 守 政 上 林 一 彦	極低温流体中の膜沸騰現象における熱流動状態の解明	平成24年度高専-長岡技科大（機械系）教員交流研究集会	2012.8

生産システム工学専攻

著 者 名	論 文 名	発 表 機 関	発表年月
古 仲 弘太郎 野 澤 正 和 一 田 守 政 上 林 一 彦	極低温流体中に発生する膜沸騰現象における熱流動状態の解析	東北学生会 第43回学生 員卒業研究発表講演会	2013.3
小 又 紘 成 田 章	EuOのバンド構造計算と光吸収スペクトル	日本素材物性学会平成 23年度（第21回）年会, B-6	2011.6
小 松 薫 伊 藤 桂 一 田 中 将 樹 宮 田 克 正	誘電体レンズ装荷導波管スロットアンテナの整合に関する数値計算	平成24年度電気・情報 関係学会北海道支部連 合大会講演論文集, 95	2012.10
小 松 薫 伊 藤 桂 一 田 中 将 樹 宮 田 克 正	進化型計算手法を用いたアンテナの整合	第18回高専シンポジウ ムin仙台講演要旨集, PD-14,p.434	2013.1
坂 本 卓 也 竹 下 大 樹	煙のアニメーションにおける輪郭線の描画を目的とした曲線生成手法の検討	第18回高専シンポジウ ムin仙台講演要旨集, p.213	2013.1
佐々木 信 哉 坂 本 文 人 平 澤 秀 悟	高周波加速空洞の高精度解析のための有限要素解析における要素形状に関する検討	第9回日本加速器学会 年会, WEPS038	2012.8
平 澤 秀 悟 坂 本 文 人 佐々木 信 哉	六節点アイソパラメトリック要素を用いたX-band高周波電子銃の高精度有限要素解析	第9回日本加速器学会 年会, WEPS039	2012.8
佐 藤 和 樹 大 上 哲 郎 小 林 義 和 永 澤 茂	チタン薄板の円筒深絞りのシミュレーション	東北支部第48期秋季講 演会	2012.9
進 藤 怜 史 浅 野 清 光	電気的特性によるMoナノ薄膜/4H-SiC (0001) 接触界面に関する研究	秋田高専研究紀要第46 号	2011.2
進 藤 怜 史 浅 野 清 光	電気的特性によるMoナノ薄膜/4H-SiC (0001) 接触界面に関する研究	日本素材物性学会平成 23年度年会	2011.6
進 藤 怜 史 浅 野 清 光	電気的特性によるMo,Pt/4H-SiC (0001) 接触界面に関する研究	平成23年東北地区高等 専門学校専攻科研究発 表交流会	2011.11

生産システム工学専攻

著 者 名	論 文 名	発 表 機 関	発表年月
進 藤 怜 史 浅 野 清 光	電気的特性によるMo,Pt/4H-SiC (0001) 接触界面に関する研究	秋田高専研究紀要第47号	2012.2
進 藤 怜 史 浅 野 清 光	電気的特性によるMo,Pt,Y/4H-SiC (0001) 接触界面に関する研究	日本表面科学会東北・北海道支部講演会	2012.3
進 藤 怜 史 佐久間 涼 宇 瀬 尚 平 浅 野 清 光	電気的特性によるInGa/4H-SiC接触界面に関する研究	秋田高専研究紀要第48号	2013.2
進 藤 怜 史 浅 野 清 光	Mo,Pt/n 型4H-SiC (0001) 接触界面のショットキー障壁	表面科学に投稿中	
鈴 木 優之介 高 橋 身 佳 山 崎 博 之	小型永久磁石同期発電機特性評価用M-Gセットのドライブ装置の試作検討	電気関係学会東北支部連合大会講演論文集 講演番号1B08	2011.8
鈴 木 優之介 高 橋 身 佳 山 崎 博 之 山 崎 克 己	表面磁石型発電機の性能改善に関する実験的研究	電気学会産業応用部門大会YPC講演論文集 Y-76	2012.8
高 橋 光 紀 平 石 広 典	電波強度による位置推定機能を利用した校内ナビゲーションシステムの設計	情報処理学会第74回全国大会, Vol.3, pp.459-460	2012.3
樋 場 貴 俊 高 橋 身 佳 山 崎 博 之 山 崎 克 己	表面磁石型電動機の大容量化バランス設計法に関する研究	電気学会産業応用部門大会YPC講演会 講演番号Y-77	2012.8
夏 井 貴 臣 一 田 守 政	向流移動層内温度分布に及ぼす粒子速度とガス流速の影響	日本機械学会東北学生会第41回卒業研究発表会	2011.3
平 澤 秀 悟 佐々木 信 哉 坂 本 文 人	六節点アインパラメトリック要素を用いたX-band高周波電子銃の高精度有限要素解析	第9回日本加速器学会年会, WEPS038	2012.8
佐々木 信 哉 平 澤 秀 悟 坂 本 文 人	高周波加速空洞の高精度解析のための有限要素解析における要素形状に関する検討	第9回日本加速器学会年会, WEPS039	2012.8

生産システム工学専攻

著 者 名	論 文 名	発 表 機 関	発表年月
樋 渡 靖 弘 野 澤 正 和 一 田 守 政 土 田 一	排水の熱を有効利用する熱交換器の動作特性の検討	平成24年度高専-長岡技科大（機械系）教員交流研究集会	2012.8
樋 渡 靖 弘 野 澤 正 和 一 田 守 政 土 田 一	旋回流を利用した熱交換器の開発および検討	東北学生会 第43回学生員卒業研究発表講演会	2013.3
渡 辺 勇 真 宮 脇 和 人 巖 見 武 裕 島 田 洋 一	リハビリテーション機器の評価に関する研究	平成23年度日本機械学会東北支部第47回秋季講演会 講演番号207	2011.9
渡 辺 勇 真 宮 脇 和 人 巖 見 武 裕 島 田 洋 一	座圧、足圧に着目したローイングマシンの評価に関する研究	平成23年東北地区高等専門学校専攻科研究発表交流会 講演番号T11-D16	2011.11
渡 辺 勇 真 宮 脇 和 人 巖 見 武 裕 島 田 洋 一	座圧・足圧に着目したローイングマシンの開発と評価	平成24年度機械学会技術と社会部門講演会 講演番号124	2012.11

環境システム工学専攻

著 者 名	論 文 名	発 表 機 関	発表年月
阿 部 竜 榊 秀次郎 上 林 一 彦	分子動力学による熱応答性高分子に関する基礎研究	平成24年度化学系学協会東北大会	2012.9
阿 部 竜 榊 秀次郎 上 林 一 彦	分子動力学による熱応答性高分子に関する基礎研究	秋田高専研究紀要第48号	2013.3
阿 部 竜 榊 秀次郎 上 林 一 彦	分子動力学による熱応答性高分子に関する基礎研究	第60回応用物理学会春季学術講演会	2013.3
伊 藤 有 生 積 田 洋 恒 松 良 純 鎌 田 光 明	指摘法実験による不連続景観の要素の傾向と把握－不連続景観の空間と構成（その11）－	日本建築学会大会学術講演梗概集	2012.9
恒 松 良 純 積 田 洋 鎌 田 光 明 伊 藤 有 生	地方主要都市の街路景観における意識型分析－不連続景観の空間と構成（その10）－	日本建築学会大会学術講演梗概集	2012.9
伊 藤 有 生 積 田 洋 恒 松 良 純 鎌 田 光 明	Analysis on the relationship of visual recognition on the roadside and plane composition	EBRA	2012.10
大 野 香 澄 野 中 利瀬弘	イモゴライトの液相合成反応に及ぼす調製条件の影響	平成23年東北地区高等専門学校専攻科研究発表交流会	2011.11
大 野 香 澄 野 中 利瀬弘	金属塩共存下におけるイモゴライト生成挙動	平成24年度化学系学協会東北大会	2012.9
佐 藤 貴 彦 佐 藤 恒 之 山 田 宗 慶	ゼオライト酸溶解特性	平成24年度石油・石油化学討論会秋田大会講演番号P14	2012.10
佐 藤 佑 卓 榊 秀次郎	ホスホリルコリン基含有高分子複合材料の合成	平成23年度東北地区高等専門学校専攻科研究発表交流会講演番号T11-G01	2011.11

環境システム工学専攻

著 者 名	論 文 名	発 表 機 関	発表年月
佐藤 佑 卓 石原 一 彦 榊 秀次郎	過酸化酵素修飾MPCポリマーの合成	平成24年度化学系学協会東北大会 講演番号1P119	2012.9
佐藤 佑 卓 榊 秀次郎	過酸化酵素修飾MPCポリマーの合成	第18回高専シンポジウムin仙台 講演番号A1-12	2013.1
佐藤 佑 卓 榊 秀次郎	過酸化酵素修飾MPCポリマーの合成	第24年度東北地区高等専門学校専攻科産学連携シンポジウム 講演番号T12-P3-20	2013.3
高野 聖 佐藤 悟	衛星画像を利用した地表面情報の評価について	平成23年度土木学会東北支部技術研究発表会	2012.3
高橋 菜未子 恒松 良 純	景観計画における助成制度の現状の把握、秋田の景観に関する研究（その6）	日本建築学会大会学術講演梗概集	2012.9
水田 敏 彦 高橋 菜未子	秋田県の歴史地震の教訓を防災教育教材にする試み－1896年陸羽地震を対象とした子ども向け教材の作成－	東北地域災害科学研究 第48巻	2012
畠山 広 大 石原 一 彦 榊 秀次郎	ホルムアルデヒドでヒドロゲナーゼを用いた水溶性バイオ高分子	平成23年度化学系学協会東北大会 講演番号2P138	2011.9
畠山 広 大 石原 一 彦 榊 秀次郎	ホルムアルデヒドでヒドロゲナーゼを用いた水溶性バイオ高分子	平成23年度東北地区高等専門学校専攻科研究発表交流会 講演番号T11-F19	2011.11
畠山 広 大 石原 一 彦 榊 秀次郎	ホルムアルデヒドでヒドロゲナーゼを用いた水溶性バイオ高分子	平成24年度化学系学協会東北大会 講演番号1P121	2012.9
畠山 広 大 榊 秀次郎 石原 一 彦	ホルムアルデヒドでヒドロゲナーゼを用いた水溶性バイオ高分子	第18回高専シンポジウムin仙台 講演番号A1-11	2013.1
畠山 広 大 榊 秀次郎	ホルムアルデヒドでヒドロゲナーゼを用いた水溶性バイオ高分子	平成24年度東北地区高等専門学校専攻科産学連携シンポジウム 講演番号T12-A-02	2013.3

環境システム工学専攻

著 者 名	論 文 名	発 表 機 関	発表年月
宮 脇 舞 佐 藤 恒 之 浅 野 清 光	高密度ポリエチレンのガラス膜複合化	第13回化学工学会学生 発表会秋田大会B20	2011.3
宮 脇 舞 佐 藤 恒 之 浅 野 清 光	高圧水素容器ライナー用ガラス膜樹脂複合 材料の合成	平成23年東北地区高等 専門学校専攻科研究発 表交流会T11-F06	2011.11
宮 脇 舞 佐 藤 恒 之 浅 野 清 光 大 上 哲 郎 野 中 利 瀬 弘	RFマグネトロンスパッタリングによる HDPE/ガラス膜複合薄膜の合成	平成24年度化学系学協 会東北大会2P105	2012.9
村 上 いくみ 増 田 周 平	八郎湖流入河川の秋季における溶存態亜酸 化窒素の実態調査	平成23年度土木学会東 北支部技術研究発表 会, VII-7	2012.3
村 上 いくみ 増 田 周 平	八郎湖とその流入河川における溶存態亜酸 化窒素の通年調査	第47回日本水環境学会 年会 講演番号1-A-14-3	2013.3

専攻科科目履修及び修了要件について

1. 授業科目、単位等

各専攻の授業科目及び単位数は、各専攻案内の教育課程表のとおりである。

授業科目の 1 単位は、45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算する。

- (1) 講義及び演習については、15 時間から 30 時間までの範囲で本校が定める時間の授業をもって 1 単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30 時間から 45 時間までの範囲で本校が定める時間の授業をもって 1 単位とする。

2. 履修方法

- (1) 授業科目の履修に当たっては、年度始めに指導教員の署名を受けた「受講申告書」(様式は学生便覧を参照すること。)を所定の期日(前期の授業開始から 2 週間以内)までに学生課教務係へ提出しなければならない。
- (2) 受講申告した選択科目を変更(追加又は取り下げ)する場合は、「受講申告変更届」(様式は学生便覧を参照すること。)を所定の期日(追加の場合は授業開始から 2 週間以内に、取り下げの場合は前期科目は 4 月末日、後期科目は 10 月末日)までに学生課教務係へ提出しなければならない。
- (3) 特別研究については、次節を参照すること。

3. 特別研究の履修方法

- (1) 学生は、指導教員が提示する「専攻科特別研究教授要項」の中から研究テーマを選択する。
- (2) 学生は、上記により希望する研究テーマを 3 題選択し、順位を付して「特別研究テーマ選択届」(様式は学生便覧を参照すること。)を学生課教務係に提出する。
- (3) 研究テーマは、研究の内容と方向を示すもので、最終的研究テーマではない。
- (4) 学生から提出された「特別研究テーマ選択届」により、研究テーマ(指導教員)を決定する。ただし、希望学生数が受入限度を超える場合は、調整を行う。

4. 試験、成績の評価等

- (1) 定期試験は、原則として前期末及び後期末に行うが、授業科目によっては、平素の成績又はレポート等をもって代えることがある。
- (2) 成績は、授業科目ごとに当該授業科目の実授業時数の 4 分の 3 以上の出席がある科目について、試験の成績及び平素の成績を総合して 100 点法によって評価し、次の区分により優、良、可又は不可の評語で表し、優、良、可を合格とする。ただし、校長が認める理由(長期病欠そ

の他) のある場合は、3分の2以上の出席がある科目について評価することができる。

評語	評 定 区 分
優	80 点以上
良	65 点以上 79 点まで
可	60 点以上 64 点まで
不可	59 点以下

- (3) 病気その他やむを得ないと認められる理由によって、定期試験を受験できなかった学生については、追試験を行うことができる。

なお、追試験の成績は、上記(2)に準じて評定する。

また、追試験の受験を希望する学生は、「追試験受験願」(様式は学生便覧を参照すること。)を所定の期日までに学生課教務係に提出し、当該授業科目担当教員の指示を受けなければならない。

- (4) 成績が不可と評定された学生については、再試験を行うことができる。

なお、再試験の成績は最高 60 点として評価する。

また、再試験の受験を希望する学生は、「再試験受験願」(様式は学生便覧を参照すること。)を所定の期日までに学生課教務係に提出し、当該授業科目担当教員の指示を受けなければならない。

- (5) 評定が可以上及び合格の科目については、所定の単位が認められる。なお、既得単位の取消及び成績の更新はできない。

- (6) 成績は、前期及び後期試験期間終了後、原則として、2 週間以内に学生課教務係から各人に通知する。

5. 修了要件

修了要件は、専攻科に 2 年以上在学(4 年を限度とする。)し、学則第 47 条に規定する教育課程に基づき、62 単位以上を修得しなければならない。

6. 学士の学位取得について

学士(工学)の学位を取得するためには、学位規則第 6 条第 1 項の規定に基づく学士の学位の授与に関する規程(平成 16 年 4 月 1 日規程第 28 号)第 4 条の規定に基づき大学評価・学位授与機構が定める所定の手続きを執らなければならない。

なお、詳細については、大学評価・学位授与機構が発行する「新しい学士への途」を参照すること。

資料 5-8-①-2

平成 25 年度専攻科第 1 学年学生ガイダンス実施要項

期 日：平成 25 年 4 月 5 日（金）

時 間	事 項	そ の 他
10:00	入学式	第 1 学年 22 名
11:00	専攻科長挨拶 専攻科の教育方法について	場所：テクノコミュニティ
	「技術者教育プログラム」に関する専門部会長 創造工学システムプログラムについて	
	学位取得について（学生課） 学生課からの連絡事項	
	専攻科履修指導について 生産システム工学専攻（浅野専攻長） 環境システム工学専攻（伊藤専攻長） (1) カリキュラムの説明 (2) 履修方法 (3) 修了要件 (4) 受講申告書の提出について (5) 特別研究テーマ（指導教員）について (6) その他 1) 学生代表者の選出（各専攻 1 名） 2) 専攻科学生に対する連絡方法 3) その他	場所 生産：専攻科講義室 I 環境：専攻科講義室 II

備 考

◎ 出席者

専攻科長，専攻長，「技術者教育プログラム」に関する専門部会長，学生課長補佐

◎ 配付資料

- ①ガイダンス実施要項 ②学生便覧（2 部）③専攻科授業計画・特別研究教授要項
 ④新しい学士への途―平成 25 年度版 ⑤平成 24 年度専攻科特別研究論文集
 ⑥受講申告書 ⑦特別研究テーマ選択届 ⑧平成 25 年度時間割表（前期）
 ⑨教科書購入一覧 ⑩学生のための安全マニュアル ⑪実験実習安全必携
 ⑫通学用自転車のステッカーについて ⑬学生定期健康診断について
 ⑭学生の心得（保護者用）

（出典 平成 25 年度専攻科第 1 学年学生ガイダンス実施要項）

資料 5－8－①－3

平成 25 年度専攻科第 2 学年学生ガイダンス実施要項

期 日：平成 25 年 4 月 4 日（木）

時 間	事 項	そ の 他
13:00	始業式	第 2 学年 27 名
15:00	専攻科長挨拶	場所：テクノコミュニティ
	「技術者教育プログラム」に関する専門部会長 創造工学システムプログラムについて	
	学位取得について（学生課） 学生課からの連絡事項	
	専攻科履修指導について 生産システム工学専攻（浅野専攻長） 環境システム工学専攻（伊藤専攻長） (1) 履修（単位修得）について (2) 受講申告書の提出について (3) 特別研究について (4) 学生代表者の選出（各専攻 1 名） (5) その他	場所 生産：専攻科講義室 I 環境：専攻科講義室 II

備 考

◎ 出席者

専攻科長，専攻長，「技術者教育プログラム」に関する専門部会長，学生課長補佐

◎ 配付資料

- ①ガイダンス実施要項 ②学生便覧 ③専攻科授業計画・特別研究教授要項
 ④新しい学士への途－平成 25 年度版 ⑤平成 25 年度学位授与申請書類
 ⑥受講申告書 ⑦平成 24 年度専攻科特別研究論文集
 ⑧平成 24 年度大学評価・学位授与機構小論文試験問題 ⑨身上調査票
 ⑩平成 25 年度時間割表（前期）⑪教科書購入一覧 ⑫学生のための安全マニュアル
 ⑬通学用自転車のステッカーについて ⑭学生定期健康診断について

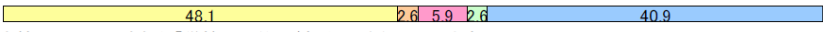
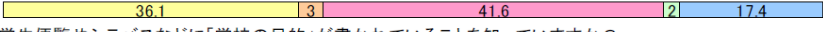
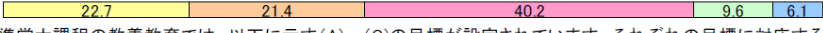
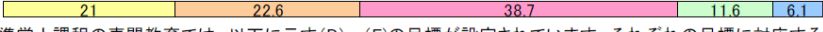
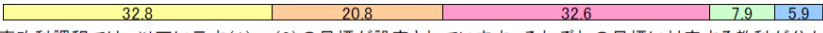
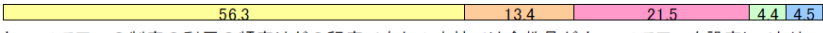
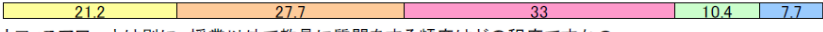
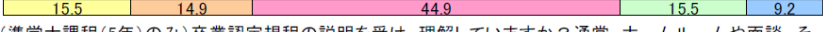
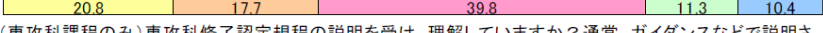
（出典 平成 25 年度専攻科第 2 学年学生ガイダンス）

資料 5 - 8 - ① - 4

集計枚数 - 848 枚

2014年度 集計結果

学年- 全学年 / 学科- 全て

設問 1		% 平均: 2.856 (回答数 847)
本校には明文化された「学校の目的」があることを知っていますか？		
設問 2		% 平均: 2.615 (回答数 847)
学生便覧やシラバスなどに「学校の目的」が書かれていることを知っていますか？		
設問 3		% 平均: 2.551 (回答数 819)
準学士課程の教養教育では、以下に示す(A)～(C)の目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか？ (A)自らの意志を的確に表現し行動できる能力、知識を整理し総合化できる能力、技術者倫理等、人間としての素養を年齢の発達段階に応じて習得する。 (B)工学基礎としての自然科学系科目を深く理解する。 (C)世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意志の疎通ができる実践的な英語能力を習得する。		
設問 4		% 平均: 2.592 (回答数 819)
準学士課程の専門教育では、以下に示す(D)～(F)の目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか？ (D)実践的かつ専門的な知識と技術の基礎となる専門基礎学力を習得する。 (E)教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし、現象・動作を具体的に理解できる実践的な能力を習得する。 (F)問題・課題解決のための方法・手段を模索し、実行できる能力を身につける。		
設問 5		% 平均: 2.333 (回答数 442)
専攻科課程では、以下に示す(1)～(3)の目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか？ (1)自ら問題を発見・解決する能力を備え、生涯に亘って学ぶことのできる能力を習得する。 (2)産業社会におけるグローバル化に対応するため、正しい日本語で表現(記述・口述・討論)し、かつ国際的に通用するプレゼンテーション能力を習得する。 (3)複雑で多岐にわたる工業技術分野に貢献できる技術を有し、複合領域にも対応できる能力を習得する。		
設問 6		% 平均: 3.164 (回答数 845)
オフィスアワーの制度を知っていますか？オフィスアワーとは、学生が自由に教員に質問できる時間です。		
設問 7		% 平均: 1.875 (回答数 846)
オフィスアワーの制度の利用の頻度はどの程度ですか？本校では全教員がオフィスアワーを設定しており、研究室の前に時刻を示しています。		
設問 8		% 平均: 2.555 (回答数 848)
オフィスアワーとは別に、授業以外で教員に質問をする頻度はどの程度ですか？		
設問 9		% 平均: 3.129 (回答数 845)
自主的学習の施設として、図書館や情報処理センターなどを利用したことがありますか？		
設問 10		% 平均: 3.445 (回答数 847)
成績評価・単位認定規程の説明を受け、理解していますか？通常、最初の授業(ガイダンス)で説明される項目です。		
設問 11		% 平均: 3.456 (回答数 840)
進級規程の説明を受け、理解していますか？通常、ホームルームや面談、その他の機会を利用して説明される項目です。		
設問 12		% 平均: 2.881 (回答数 336)
(準学士課程(5年)のみ)卒業認定規程の説明を受け、理解していますか？通常、ホームルームや面談、その他の機会を利用して説明される項目です。		
設問 13		% 平均: 2.727 (回答数 231)
(専攻科課程のみ)専攻科修了認定規程の説明を受け、理解していますか？通常、ガイダンスなどで説明される項目です。		

回答選択肢	まったく利用・理解していない	あまり利用・理解していない	ある程度利用・理解している
	利用・理解している	よく利用・理解している	

(出典 「学校の目的」と「学習等の諸制度」に関するアンケート結果)